日本語複合動詞における後項動詞と
ロシア語動詞接頭辞との対応関係について

―語彙的複合動詞を構成する「～こむ」「～でる」「～だす」「～たつ」「～たてる」の場合―

ABRAHIMOVICH Yuliya

目次

1．序論 4

1.1．日本語学習者にとっての複合動詞 4

1.2．研究目的 4

1.3．研究対象 4

1.4．研究方法 5

2．ロシア語動詞接頭辞に関する先行研究 6

2.1．現代ロシア語における動詞接頭辞の種類 6

2.2．現代ロシア語における動詞接頭辞の一般的な機能 8

2.3．動詞接頭辞の個別的な意味および機能 13

2.3.1．RG-80 と Čerepanov（1975） 13

2.3.2．動作様態 15

2.4．小結 21

3．外国語文献における日本語複合動詞の説明 22

3.1．Golovnin（1986） 22

3.2．Nečaeva（1994, 1999） 22

3.3．Sevost'janova（2006） 23

3.4．Alpatov, Arkad'ev, Podlesskaja（2008） 24

3.5．Paškovskij（1980） 24

3.6．Shibatani（1990） 26

3.7．小結 27

4．日本語複合動詞に関する先行研究 29

4.1．複合動詞の結合条件及び分類に関する先行研究 29

4.1.1．長嶋（1976，1997） 29

4.1.2. 寺村（1978, 1984） 30
4.1.3. 山本（1984） 30
4.1.4. 影山（1993），姫野（1999, 2001） 31
4.2. 個々の複合動詞後項の意味に関する研究 32
4.2.1. 姫野（1999） 32
4.2.2. 斎藤（1992），李（1997） 32
4.2.3. 城田（1998） 33
4.3. 他の言語との対照研究 34
4.3.1. 生越（1983） 34
4.3.2. 李（1996） 35
4.4. 小結 35
5. 日本語複合動詞後項とロシア語動詞接頭辞の対応 39
5.1. 調査対象と調査方法 39
5.2. 各種後項動詞とロシア語動詞接頭辞の対応 42
5.2.1. 「～こむ」複合動詞の訳語に使用される動詞接頭辞 42
5.2.2. 「～でる」「～だす」複合動詞の訳語に使用される動詞接頭辞 66
5.2.3. 「～たつ」「～たてる」複合動詞の訳語に使用される動詞接頭辞 86
5.3. 小結 102
6. 結論 112
参考文献 132
略語一覧 135
翻字表 136

1. 序論

本稿では，日本語の複合動詞における後項動詞とロシア語の接頭辞付加動詞における動詞接頭辞を取り上げ，これらに関する先行研究を整理するとともに，複合動詞の個別的な意味を調査し，複合動詞の訳語に使用される動詞接頭辞の統計的データをとることによって，接頭辞付加動詞を使用した訳出パターンを特定することを試みる。そしてこの試みが，日本・ロシア両言語における類似現象の共通性および異同を明らかにし，これと同時に，ロシア語ネイティヴが日本語の複合動詞を学習する際の教授方法の発展に資するものとなることを目指す。

1.1. 日本語学習者にとっての複合動詞

日本語の複合動詞は印欧語の動詞接頭辞と同種の現象であるという指摘がある[1]。しかしながら，同種の現象であるからといって，その習得が容易であるとは必ずしも言えない。事実，複合動詞は日本語を学ぶ外国人にとって習得が難しいもののひとつとなっている。筆者の個人的な経験から言えば，日本語の単純動詞（本動詞）の意味は理解できたとしても[2]，それに種々の後項動詞が付されて形成された複合動詞では，その全体的な意味や細かなニュアンスをとらえにくい場合がある。また，外国語で書かれた日本語文法の教科書や文法書では複合動詞に関して体系的な説明がなされておらず，外国人が日本語を学習する中で複合動詞の習得を容易にする手立てがないという現状がある。

1.2. 研究目的

本稿では，上記のような日本語学習に関する問題を出発点とし，複合動詞における後項動詞と，筆者の母語であるロシア語の動詞接頭辞との対応を翻訳の観点から考察し，各後項動詞の訳語として使用される傾向にある動詞接頭辞，および後項動詞と動詞接頭辞の意味・機能に関する異同を明らかにすることによって，ロシア語ネイティヴが日本語の複合動詞を学習する際に教育的効果が高められるような一種の手引きを作成することを第一の目標とする。

1.3. 研究対象

本研究で対象としたのは現代日本語の「動詞＋動詞」型複合動詞における後項動詞と，現代ロシア語の接頭辞付加動詞に使用される動詞接頭辞である。後項動詞に関しては，「～こむ」「～でる」「～だす」「～たつ」「～たてる」を対象とした。

---

[1] 「概して言えば，2 つの動詞（複合動詞を構成する前項動詞と後項動詞）のうち，先の動詞が主な動作を示し，次の動詞は前の動詞の示す動作のいろいろな様態を表わす。ノリ・カエルもそうであるが，ツキ・タオス，カケ・モドル，ヨミ・オワル等々，印欧語の preverb の役を 2 番目の動詞が果たしていると言えよう」。『言語学大辞典』（vol. 6: 1139）。

[2] 本稿では，日本語における「とる」や「だす」のような非複合形の動詞を指す用語として「単純動詞」を用いる。

1.4. 研究方法

研究方法としては，まず，ロシア語動詞接頭辞に関する先行研究を紹介し，ロシア語の動詞接頭辞の種類および意味・機能がロシア語学の分野においてどのように研究されてきたのかを検討する。次に，海外で刊行された日本語文法に関する教科書・参考書における複合動詞に関する記述から，非日本語ネイティヴに対して日本語の複合動詞がどのように説明されているのかを明らかにする。これらを踏まえた上で，影山（1993）が提唱した理論に基づき，「語彙的複合動詞」に焦点を当て，国立国語研究所の『複合動詞レキシコン』を使用することによって，後項動詞「～こむ」「～でる」「～だす」「～たつ」「～たてる」を持つ日本語の複合動詞の例を収集する。その後，収集した複合動詞の意味を『日本国語大辞典』で調べ，各複合動詞が持つ全ての意味を明らかにする。こうして明らかになった意味のうち，ロシア語へ翻訳した場合に接頭辞付加動詞で訳出できるものを特定する。この訳出作業の後，訳語に使用された動詞接頭辞を「～こむ」「～でる」「～だす」「～たつ」「～たてる」の後項動詞ごとに明らかにし，それぞれの後項動詞の訳語においてどの動詞接頭辞が使用される傾向にあるのかを明らかにすべく，訳語データの統計的調査を行い，動詞接頭辞が使用される割合を算出する。この結果から，各後項動詞と意味的に対応する動詞接頭辞を特定し，また，それらが対応する要因を，複合動詞および動詞接頭辞の意味・機能に関する先行研究を参照することによって明らかにする。

本稿は意味的研究に関わっているため，特に，複合動詞の意味タイプの分類の際に，筆者個人の主観的な判断が入り込む余地があることは否定できない。その場合は，『日本国語大辞典』のような権威ある辞書に書かれた定義を拠り所とすることによって可能な限り客観的に考察するよう努めた。

なお，本稿における研究内容および研究方法はアブラギモヴィチ（2016a, 2016b, 2017）に準拠している。

2. ロシア語動詞接頭辞に関する先行研究

本稿第 2 章では，ロシア語の接頭辞，特に動詞接頭辞に関する先行研究を取り上げ，ロシア語における動詞接頭辞の種類，および動詞接頭辞の意味・機能についてどのように研究されてきたのかを見ていく。

2.1. 現代ロシア語における動詞接頭辞の種類

ロシア語で出版された言語学用語辞典によると，接頭辞は以下のように定義されている：

- 『言語学用語・概念百科辞典』（vol. 1: 580-582）[3]
  「形態素のひとつで，語形成的意味（slovoobrazovatel'noe značenie）あるいは文法的意味（grammatičeskoe značenie）を表す。接頭辞は語根の直前または他の接頭辞の前に付されるが, 接尾辞のように語幹（osnova）に合流するのではなく, 語（slovo）に合流する形態素である。つまり，接頭辞は語幹ではなく語を基盤として新たな語を形成するのである。」
  「接頭辞の付加によって語の品詞が変わることはない。」
- Achmanova（1969: 351-352）
  「接頭辞とは，語形構成の中で区別される語根前の（つまり語根に先行する）接辞形態素である。（印欧諸語においては）主として語形成的な性質を持つ。」

ロシア語の形態素辞典によれば，現代ロシア語には 32 種類，異形態を含めると 73 種類の接頭辞が存在するという（Kuznecova, Efremova 1986: 575-576, 1125）[4]。これらの接頭辞のうち，どれを動詞接頭辞としてみなすかという考え方は研究者によって若干異なる。

例えば, 1980 年にソヴィエト科学アカデミーから刊行された『ロシア文法』(以下, RG-80 と略記する）ではこれらの接頭辞のうち，以下の 28 種類が動詞と結合する動詞接頭辞として挙げられている（RG-80 vol. 1: 596）:

V-, VZ-, VOZ-, VY-, DE-, DIS-, DO-, ZA-, IZ-, NA-, NAD-, NEDO-, NIZ-, O-, OB-, OT-, PERE-, PO-, POD-, PRE-, PRED-, PRI-, PRO-, RAZ-, RE-, S-, SO-, U-.

---

[3] これ以降は本文，脚注ともに『言語学用語・概念百科辞典』を ĖSSLTP と略記する。なお，本稿におけるロシア語の翻字は国際標準規格 ISO/R 9:1968 に準拠している。

[4] なお Kuznecova, Efremova（1986）の中で列挙されていた接頭辞は以下のものである（異形態を含む）: BEZ-/BES-/BEZ"-, V-/VO-/V"-, VZ-/VZO-/VZ"-/VOZ-/VOZO-/VOS-/VS-, VY-, DO-, ZA-, IZ-/IZO-/IZ"-/IS-/YZ-/YS-, K-/KO-, KU-, NA-, NAD-/NADO-/NAD"-, NE-, NEDO-, NI-, O-, OB-/OBO-/OB"-, OBI-/OBY-, OT-/OTO-/OT"-, PA-, PERE-/PRE-, PO-, POD-/PODA-/PODO-/POD" -, PRA-, PRED-/PRED"-, PRI-, PRO-, RAZ-/RAZO-/RAZ"-/RAS-, ROZ-/ROS-, S-/SO-/S"-, SU-, U-, ČEREZ-/ČERES-/ČREZ-.

これらの動詞接頭辞のうち，以下のものは後続の音声環境によって母音（-O-）ないし子音（-Z-）が挿入されたり，逆行同化によって末尾の子音が無声化するなどの異形態を持つ：

V-/VO-, VZ-/VZO-/VS-, VOZ-/VOZO-/VOS-, DE-/DEZ-, IZ-/IZO-/IS-, NAD-/NADO-, NIZ-/NIZO-/NIS-, O-, OB-/OBO-, OT-/OTO-, POD-/PODO-, PRED-/PREDO-, RAZ-/RAZO-/RAS-, S-/SO[5]-.

一方，Isačenko（1960: 150）は現代ロシア語の動詞接頭辞に分類されるべき形態素は以下の 18 種類であると述べている。なお，括弧で示したものは異形態である：

V- (VO-), VZ- (VS-, VZO-), VY-, DO-, ZA-, IZ- (IS-, IZO-), NA-, NAD- (NADO-), O- (OB-, OBO-), OT- (OTO-), PERE-, PO-, POD- (PODO-), PRI-, PRO-, RAZ- (RAS-, RAZO-), S- (SO-), U-.

RG-80 の中で挙げられている動詞接頭辞と数が異なっているのは，Isačenko の考える動詞接頭辞の定義が大きく関係している。Isačenko（1960: 148）は動詞接頭辞を「独自の意味を持つ形態素であると同時に，意味分析によって動詞から分離できる形態素」と定義している。従って，独自の意味が感じられない接頭辞や，意味分析による分離が困難な接頭辞は，Isačenko のリストには含まれていない。

なお，動詞接頭辞と基幹動詞が結合するパターンは決まっており[6]，ロシア語の語彙における全ての基幹動詞が全ての動詞接頭辞と結合できるわけではない。例えば，est'「食べる」，dumat'「思う」，žit'「生きる」，pet'「歌う」，pisat'「書く」，smotret'「見る」の各基幹動詞と結合する接頭辞の種類について，Tichonov（2014）のロシア語語形成辞典では以下のものが挙げられている：

- est'「食べる」
  V- (+ -SJA), VZ- (+ -SJA), VY-, DO-, ZA-, IZ-, NA- (+ -SJA), NEDO-, OB-, PERE-, PO-, PRI- (+ -SJA), RAZ-, S-
- dumat'「思う」
  V- (+ -SJA), VZ-, VY-, PO- + NA-+ VY-, DO-, ZA-, ZA- (+ -SJA), NA-, NEDO-, O- (+ -SJA), OB-, PERE-, PO- (+ -YVA-), PRI-, PRO-, RAZ-
- žit'「生きる」
  V- (+ -SJA), VY-, DO-, ZA-, IZ-, NA-, NA- (+ -SJA), O-, OB-, PERE-, PO-, PRI- (+ -SJA), PRO-

[5] RG-80 において SO-は単独の接頭辞としてだけでなく，S-の異形態としてもみなされている。
[6] 本稿では，接辞，特に接頭辞を持たない派生前のロシア語動詞（prostoj / besprisavočnyj glagol）を指す用語として「基幹動詞」を用いる。なお，「基幹動詞」の名称は金子（2003）に倣った。

- pet'「歌う」
  VOS-, DO-, ZA-, NA-, PO-, POD-, PRO-, RAS-, S-, S- (+ -SJA)
- pisat'「書く」
  V-, VY-, ZA-, IS-, NA-, NAD-, NEDO-, O-, PERE-, PO-, POD-, PRI-, PRO-, RAS-, S-
- smotret'「見る」
  V-, VY-, DO-, ZA- (+ -SJA), NA- (+ -SJA), PO- + NA- (+ -SJA), NEDO-, O-, PERE-, PO-, POD-, PRI-, PRO-, RAS-, U-, PRED-+U-

このように，結合できる接頭辞の種類は基幹動詞によって異なっており，接頭辞だけでなく接尾辞も必要とするもの（**v''**est'**sja**, **za**dumat'**sja**, **za**smotret'**sja** など）や，複数の接頭辞と結合するもの（**ponavy**dumat', **predu**smotret'）も存在する。

2.2. 現代ロシア語における動詞接頭辞の一般的な機能

ロシア語を始めとするスラヴ諸語の動詞接頭辞が前置詞に語源的に由来するものであることは議論の余地のないところである。事実，現代ロシア語における動詞接頭辞の多くは前置詞と形態的に一致している。

- 接頭辞 U- < 前置詞 U：
  u nas v strane「わが国では」，pole ***u*** reki「川ばたの畑」
- 接頭辞 NA- < 前置詞 NA：
  kniga ***na*** stole「机の上の本」，echat' ***na*** avtobuse「バスで行く」
- 接頭辞 ZA- < 前置詞 ZA：
  stojat' ***za*** dver'ju「ドアの向こうに立っている」，
  idti ***za*** učitelem「先生のあとについて行く」
- 接頭辞 V- < 前置詞 V：
  chodit' ***v*** školu「学校に通う」，napisat' ***v*** tetradke「ノートに書く」
- 接頭辞 PRI- < 前置詞 PRI：
  obščežitie ***pri*** universitete「大学附属の寮」，
  telegrafnyj stolb ***pri*** doroge「道路わきの電柱」

動詞接頭辞と基幹動詞との関係性に関して言えば，ロシア語の動詞接頭辞は大きく分けて 2 種類の機能を持っている。ひとつは，動詞接頭辞が基幹動詞と結合することによって新たな語彙的意味を基幹動詞に付与する機能であり，もうひとつは，文法的役割を表す一種のマーカーとしての機能である。

動詞接頭辞が語彙的意味を基幹動詞に付与する機能の例として最も一般的なものとして，空間的意味あるいは時間的意味を持つ接頭辞付加動詞の例を挙げることができる。例

えば，空間的意味を持つ現代ロシア語の前置詞 NAD「～の上に」および POD「～の下に」に由来する動詞接頭辞 NAD-, POD-が，接頭辞を持たない基幹動詞 pisat'「書く」と結合すると nadpisat', podpisat'という接頭辞付加動詞が形成される。これら 2 つの接頭辞付加動詞の意味はロシア語詳解辞典で以下のように記述されている[7]。

- NADPISAT':

1) Napisat' na vnešnej storone kakogo-nibud' predmeta.
「何らかの対象の表面に書く」
Nadpisat' adres na konverte.「封筒に宛先を書く」
2) Snabdit' nadpis'ju (*razg.*).
「上書きする，表書きする」（口語）
Nadpisat' banki s varen'em.「ジャムの瓶に上書きする」
3) Napisat' čto-nibud' naverchu, poverch čego-nibud' (kakogo-nibud' teksta).
「上の方に何かを書く，何か（テキストなど）の上に書く」
Nadpisat' rezoljuciju na zajavlenii.「申請書に決済を書く」
（TSRJ）

1) Sdelat' na čëm-libo nadpis'; snabdit' čto-libo nadpis'ju.
「何かの上に表書きする，上書きする」
Nadpisat' fotografiju.「写真に上書きする」
2) Napisat' čto-libo vyše napisannoj ranee stroki, slova i t.p.
「すでに書かれた行，語などの上に何かを書く」
（SRJ）

- PODPISAT':

1) Postavit' podpis', napisat' svoju familiju pod tekstom dokumenta, pis'ma.
「署名する，書類・手紙などの文章の下に自分の名前を書くこと」
Podpisat' dokument.「書類にサインする」
2) Zaključit' (uslovie i t.p.).
「（合意などを）結ぶ」
Podpisat' kontrakt.「契約を結ぶ」
3) Pripisat' k prežde napisannomu.
「すでに書かれたものに書き足す」
Podpisal eščë neskol'ko strok.「（彼は）さらに数行書き加えた」
4) Vključit' kogo-nibud' v čislo podpisčikov (razg.).

1) Postavit' podpis' dlja podtverždenija, udostoverenija čego-libo.
「何かの確認・証明のために署名する」
Podpisat' prikaz.「指令書にサインする」
|| Prinjat' kakie-libo objazatel'stva, uslovija i t.p., skrepljaja ich podpis'ju (podpisjami).
「署名することによって，何らかの誓約・合意を受け入れる」
Podpisat' soglašenie.「協定に調印する」
2) Napisat' čto-libo vnizu, pod čem-libo.
「下の方に書く，何かの下に書く」
«Odin s soškoj, semero — s ložkoj», — podpisano bylo pod risunkom. M. Gor'kij, Žizn' Klima Samgina.

[7] ここで使用した辞典は，1935 年から 1940 年にかけて出版された 4 巻本の『ロシア語詳解辞典』（Tolkovyj slovar' russkogo jazyka: V 4 t. M.: Sov. ėncikl.: OGIZ, 1935-1940.）と，ロシア科学アカデミー刊行の 4 巻本の『ロシア語辞典』第 4 版（Slovar' russkogo jazyka: V 4-ch t. / RAN, In-t lingvistič. issledovanij; Pod red. A. P. Evgen'evoj. 4-e izd., ster. M.: Rus. jaz.; Poligrafresursy, 1999.）である。これ以降，前者を TSRJ，後者を SRJ と略記する。

「誰かを予約申込者に加える」（口語）
Prošu vas podpisat' menja na gazetu.「新聞を予約させてください」

5) Dat', požertvovat' po podpiske (prostoreč.). || Peredat', podarit', napisav ob ėtom dokument (prostoreč. ustar.).
「（書類に署名の上）与える，寄付する」（俗語），「文書を作成して譲渡する，贈る」（俗語，廃語）
Podpisal emu svoj dom.「（彼は）自分の家を彼に譲渡する書類にサインした」

（TSRJ）

絵の下には「働くのは 1 人，食うのは 7 人」と書かれていた（ゴーリキー『クリム・サムギンの生涯』）
|| Pripisat' čto-libo pod čem-libo prežde napisannym.
「先に書かれていたものの下に何かを書き足す」
Podpisat' eščë neskol'lo strok.「さらに数行を書き加える」

3) Vključit' v čislo podpisčikov.
「予約申込者に加える」
Podpisat' na gazetu.「新聞の予約者の中に加える」

（SRJ）

また，時間的な限界を表す前置詞 DO「～まで」に由来する動詞接頭辞 DO-と基幹動詞 pisat' が結合することによって形成された接頭辞付加動詞 dopisat'は詳解辞典で以下のように紹介されている

- DOPISAT':

Dokončit' pisanie čego-nibud'.
「何かを書くことを終わらせる」
Dopisat' stranicu.「1 ページ書き終える」
Dopisat' kartinu.「絵を描き上げる」

（TSRJ）

1) Okončit' pisanie; napisat' do kakogo-libo predela.
「書くことを終える；ある限度まで書く」
Dopisat' kartinu.「絵を描き上げる」

2) Napisat' dopolnitel'no, pripisat'.
「補足的に書く，書き足す」
Dopisat' neskol'ko strok k pis'mu.「手紙に数行を書き加える」

（SRJ）

これらの辞書の定義を見ても分かるように，前置詞 NAD, POD, DO に準じた意味が基幹動詞 pisat'に与えられていることが分かる。このように，接頭辞付加動詞が表す基本的な動作は基幹動詞の動作と全く同じでありながら，基幹動詞の表す動作は動詞接頭辞によって空間的関係，時間的関係，あるいは量的関係の中で具体化ないし明確化されるのである（ĖSSLTP vol. 1: 580-582）。

動詞接頭辞のもうひとつの機能，すなわち文法的役割を果たす機能は，簡潔に言えば動詞のアスペクトを変える機能である。例えば，現代ロシア語の接頭辞付加動詞 napisat', narisovat', sdelat', postavit'はそれぞれ基幹動詞 pisat'「書く」，risovat'「描く」，delat'「作る」，stavit'「置く」に動詞接頭辞 NA-, S-, PO-が結合したものである。それぞれの動詞のアスペク

トに着目すると, 前述の4つの接頭辞付加動詞は全て完了体動詞（glagol soverpšennogo vida）であり，接頭辞を持たない 4 つの基幹動詞はいずれも不完了体動詞（glagol nesoveršennogo vida）である。接頭辞が結合することで基幹動詞のアスペクトが不完了体から完了体へ変わる一方，これらの接頭辞付加動詞の語彙的意味は基幹動詞の場合といささかも変わっていない。以下はロシア語詳解辞典における上記 4 語の接頭辞付加動詞の定義である。

- NAPISAT' < pisat':
  Sov. k *pisat'*.「pisat'の完了体」
  （TSRJ，SRJ ともに同じ）
- NARISOVAT' < risovat':
  Sov. k *risovat'*.「risovat'の完了体」」
  （TSRJ，SRJ ともに同じ）
- SDELAT' < delat':
  Sov. k *delat'*.「delat'の完了体」
  （TSRJ，SRJ ともに同じ）
- POSTAVIT' < stavit':
  Sov. k *stavit'*.「stavit'の完了体」
  （TSRJ，SRJ ともに同じ）

このような，基幹動詞の語彙的意味を変えずにもっぱらアスペクトのみを変える動詞接頭辞は空の接頭辞（pustoj prefiks）または文法的接頭辞（grammatičeskij prefiks）と呼ばれている（ĖSSLTP vol. 1: 586）。なお，語彙的意味を基幹動詞に付与する動詞接頭辞の例で挙げた接頭辞付加動詞 nadpisat', podpisat', dopisat'も全て完了体であるから，これらの動詞接頭辞 NAD-, POD-, DO-は基幹動詞に対する語彙的意味の付与とアスペクトの変更を同時に行っていると言える。

アスペクトのペアに関して言えば，完了体の接頭辞付加動詞の不完了体化（imperfektivacija）についても触れておかなければならない。不完了体化とは，完了体の基幹動詞（接頭辞付加動詞ないし無接頭辞動詞）から不完了体動詞が形成されることを意味する（Isačenko 1960: 176）。例えば，基幹動詞 pisat'に動詞接頭辞 NAD-, POD-, DO-が付されると完了体動詞になることはすでに述べたが，こうして形成された接頭辞付加動詞に-IVA-（-YVA-），-A-, -VA-などの接尾辞をさらに加えると，接頭辞が付された完了体動詞と意味的に対応する二次的な不完了体動詞がつくられる。

pisat' (*impf.*) > ***nad****pisat'* (*perf.*) > ***nad****pis****yva****t'* (*impf.*)
pisat' (*impf.*) > ***pod****pisat'* (*perf*). > ***pod****pis****yva****t'* (*impf.*)
pisat' (*impf.*) > ***do****pisat'* (*perf*) > ***do****pis****yva****t'* (*impf.*)

Isačenko によると，不完了体化には「第一不完了体化」（pervičnaja imperfektivacija）と「第二不完了体化」（vtoričnaja imperfektivacija）という 2 つのタイプがあるという。第一不完了体化とは，接頭辞を持たない完了体の基幹動詞から不完了体動詞が形成されることであり，第二不完了体化は，完了体の接頭辞付加動詞から不完了体の形がつくられることである（Isačenko 1960: 176）。このうち，上記の現象に該当するのは第二不完了体化である。

なお，この不完了体化は現代ロシア語においては非常によく見られる形態的現象であり，アスペクト形成システムの中で中心的な位置を占める現象でもある（ÈSSLTP vol. 1: 737-738; Isačenko 1960: 176）。

現代ロシア語の動詞接頭辞には，上記の 2 つの役割を持っているとは言い難いものがあるという Isačenko（1960: 148-151）の見解をここで紹介したい。Isačenko によれば，現代ロシア標準語の語彙には，教会スラヴ語（cerkovnoslavjanskij jazyk）に起源を持つ動詞がいくつか存在する。そうした動詞には，現代ロシア語では生産性を失ってしまった，以下のような接頭辞が使用されている：

VOZ- (VOS-, VOZO-), NIZ- (NIS-, NIZO-), PRE-, PRED- (PREDO-), SO-

これらのうち，VOZ-, NIZ-, PRED-に関して言えば，これらの接頭辞が使用されている一連の動詞の意味分析をすれば，接頭辞が独自の意味を保っていることは明らかである。

voschodit'「登る，上昇する」< VOZ-「上へ」+ chodit'「歩行する」

vozljubit'「好きになる，惚れる」< VOZ-「動作・状態の始まり」+ ljubit'「愛する，かわいがる」

nischodit'「降りる」< NIZ-「下へ」+ chodit'「歩行する」

predložit'「提供する，提案する」< PRED-「あらかじめ，事前に」+ ložit'「置く，据える（俗語・方言）」

一方で，prevratit', presledovat', presmykat'sja などの動詞における接頭辞 PRE-に独自の意味を感じとるのは困難である。

prevratit'「変える」: 古ロシア語 vratiti「向ける」（現代ロシア語 vorotit'「向ける」）[8]

presledovat'「追跡する」: sledovat'「ついて行く」

presmykat'sja「はいずる」: smykat'sja「ひとつに合わさる」

soprotivljat'sja, sorevnovat'sja, sostojat'などのタイプの動詞における接頭辞 SO-は，接頭辞 S-の異形態と一致するが，これはあくまでも外見的な一致であるから，現代語の観点から見ればこれらの動詞を分解することはできない。

soprotivljat'sja「抵抗する」: protivit'sja「抵抗する」

sorevnovat'sja「競い合う」: revnovat'「嫉妬する」

sostojat'「（～から）成る」: stojat'「立っている」

また，proizvesti, proizojti, proiznesti などの動詞でも，基幹動詞と接頭辞を分離することは不可能である。ここでの接頭辞的要素 PROIZ-は，歴史的に見れば PRO-と IZ-という 2 つの接頭辞の結合によって形成されたものであることは明らかだが，現代語ではこれらが独自の意味を持っていないため，要素 PROIZ-を持つ動詞は接頭辞付加動詞として見なすことはできない。

proizvesti「行う，生産する」: vesti「連れて行く」

proizojti「起こる」: idti「歩く」

[8] Sreznevskij 1893 vol. 1: Stb 314.

proiznesti「発音する」: nesti「手で持って行く」

このように動詞接頭辞には主に 2 つの機能が備わっている。このうち本来的な機能はどちらであったかという問題について Ivanov（1983）がひとつの見解を提示している。Ivanov は，接頭辞の本来的な機能は，前置詞に準ずる意味を動詞に付与することであったとし，その根拠としてラヴレンチー写本の『過ぎし年月の物語』における例を挙げている。

«rěčьki radi jaže vtečetь vъ dvinu imjanemъ polota» [9]（PSRL vol. 1: stb. 6）
「ドヴィナに流れ込むポロタという名の小川のために」（國本他 1987: 6）

この例では, 古ロシア語の基幹動詞 teči に動詞接頭辞 V-が結合した接頭辞付加動詞の 3 人称単数現在 vtečet'が使用されている。形態的に一致する現代ロシア語の vteč'は完了体動詞であるから，現代語の観点から見れば未来の意味で解釈するのが通常である。しかしながら，文脈から判断すれば現在の意味で使用されていることは明白である。つまり，vtečet'における接頭辞 V-は，前置詞 V の本来的な空間の意味に準じた，内部への方向を表しているにすぎず，動詞のアスペクトを変えるという文法的機能はここでは見られない。

その後のロシア語の歴史の中で，動詞接頭辞はこうした純粋に語彙的な意味を保たなくなり, 完了体あるいは不完了体というアスペクトを形態的に区別する「装飾者」（oformitel'）としての文法的役割を徐々に担うようになった。そして，アスペクトに関する動詞接頭辞の役割が確立することによって，時間的に制限された動作を表す完了体動詞と，時間的限界とは無関係の動作を表す不完了体動詞の対立がもたらされた（Ivanov 1983: 345-347）。

2.3. 動詞接頭辞の個別的な意味および機能

すでに述べたように，ロシア語の動詞接頭辞は，基幹動詞に新たな語彙的意味を与える機能と，文法的役割としてふるまう機能を持っている。これらの機能を個別的に記述する試みはこれまでのロシア語学の分野において数多く行われている。

2.3.1. RG-80 と Čerepanov（1975）

例えば，RG-80（vol. 1: 360-376）では，前述の 28 種類の動詞接頭辞が基幹動詞と結合することによって，動作がどのように具体化されるのかが接頭辞ごとに詳細に説明されている。RG-80 において最も意味の多い動詞接頭辞として詳解されているのは，10 種類の意味を持つとされる ZA-, PERE-である。また，生産性の高い 12 種類の動詞接頭辞の意味を詳細に記述した研究として Čerepanov（1975）の研究も知られている[10]。

---

[9] 古ロシア語の翻字については，慣例に従って“ъ, ь”はそのまま，“ѣ”は ě に，“ѧ”は ja に翻字した。

[10] Čerepanov（1975）の中で詳述されている動詞接頭辞の種類は以下の 12 種類である：VZ-, VY-, ZA-, IZ-, NA-, O-/OB-, OT-, PERE-, PO-, POD-, PRI-, PRO-. これらの接頭辞に限定した理由として Čerepanov（1975: 116）は次のように述べている：「この学習参考書の中では，生産性が高く，語彙的に大いに充実した 12 種類の動詞接頭辞が検討されている」。

RG-80 と Čerepanov（1975）で挙げられていた各動詞接頭辞の意味の数を表の形で比較すると図表 1 のようになる。両者を比較すると，Čerepanov の方がそれぞれの接頭辞により多くの意味を与えていることが分かる。これは Čerepanov が意味を記述する際に，自動詞の場合と他動詞の場合を区別していることが関係している。

図表 1．RG-80 と Čerepanov（1975）における動詞接頭辞の意味の数の違い

意味の数（種類）	RG-80	Čerepanov（1975）
20	—	OT-
19	—	ZA-
18	—	VY-, PERE-
17	—	POD-
15	—	NA-
14	—	PRI-, PRO-
13	—	O- / OB-
12	—	PO-
11	—	VZ-
10	ZA-, PERE-	—
9	POD-, OT-	—
8	PRO-, U-	IZ-
6	NA-, OB-	—
5	VY-, IZ-, PO-, PRI-, RAZ-, S-	—
4	VZ-, VOZ-, O-	—
3	DO-	—
2	NAD-	—
1	V-, DE-, DIS-, NEDO-, NIZ-, PRE-, PRED-, RE-, CO-	—

2.3.2. 動作様態

各接頭辞の意味・機能については「動作様態」という意味的枠組みの中で説明する試みが，様々な研究者によって行われている。「動作様態」に相当するロシア語の用語“sposoby dejstvija”は，ドイツ語の“Aktionsart”を翻訳借用したものである。この用語が表す概念を端的に説明するならば，「動作がどのように行われるかという観点から動詞を分類すること」となる。まずここで，動作様態の定義について各研究者の見解を紹介する。

1) Isačenko（1960: 218）
   - ✓ 接辞による形態的変化と共に，動作の局面，回数，量などの点で変化した，本来的な基幹動詞および接頭辞付加動詞の基本的な意味[11]。
   - ✓ 動作様態は完了体動詞あるいは不完了体動詞のどちらかによって表される。
2) Maslov（2000: 385-387）[12]
   - ✓ 意味的範疇として存在する動作様態は，形態的特徴づけに関して「一貫性のあるもの」「部分的に特徴づけられるもの」「特徴づけられないもの」に分類される。
   - ✓ 動作様態は，時間における動作の経過・分布に関する類似性に基づいて区別され，分類においては互いに重なる部分もある。
   - ✓ 動作様態は，限界・非限界性による動詞の分類と大いに関係している[13]。
3) Avilova（1976: 259）
   - ✓ 始動性（načinatel'nost'），限定性（ograničitel'nost'），多回性（mnogokratnost'）などの意味を動詞に持ち込む，意味論的あるいは意味論的・語形成的分類であり，アスペクト的な意味ではなく，量的・時間的な意味を表す。
   - ✓ 動作結果の到達における特殊な特徴づけを行う。
4) RG-80（vol. 1: 596）
   - ✓ 基幹動詞の持つ意味は，時間，量，結果に関して特徴づけられることによって，形態的な特徴と共に変化する。
   - ✓ 動作様態は動詞の意味・語形成に関する分類である。
5) Šeljakin（1987: 63-85）
   - ✓ 形態的に特徴づけられた，あるいは形態的に特徴づけられない個々の動詞の意味。
   - ✓ 限界動詞および非限界動詞が時間の中で経過する性質を示す。

---

[11] Isačenko は動作様態を指す用語として“soveršaemost”を使用している。

[12] なお，Maslov（2000）の 365 頁から 395 頁にかけてのテキストは *Maslov Ju.S.* Sistema osnovnych ponjatij i terminov slavjanskoj aspektologii // Voprosy obščego jazykoznanija. L., 1965. S. 53-80. の内容と同じものである。Maslov 2000: 837.

[13] 限界性（predel'nost'），非限界性（nepredel'nost'）は体（vid）と動作様態の機能の中で重要な役割を果たす語彙・文法定なカテゴリーである。限界動詞（predel'nye glagoly）とは限界（限度）のある動作を表す動詞を指す（例. stroit' – postroit' dom「家を建てる」）。これに対し，非限界動詞（nepredel'nye glagoly）には動作の限度が存在しない（例. ležat'「横たわっている」，napevat'「口ずさむ」，siživat'「座っている」）。限界性・非限界性のカテゴリーは全ての動詞が特徴としており，同じ動詞であってもその意味によって限界動詞にも非限界動詞にもなりうる。例えば動詞 idti を使った 2 つの文章“Mal'čik idët v školu.”「男の子は学校へ行くところだ」と“Idët dožd'.”「雨が降っている」を見ると，前者では「学校」が限界であり，後者では限界に相当するものがないため，それぞれを限界動詞，非限界動詞としてみなすことができる。ĖSSLTP vol. 1: 830.

6) Zaliznjak, Šmelev（2000: 104）
   - ✓ 特定の接辞によって表される動詞の多様な意味変化であり，時間の中における動作の存在状況[14]を明確化する。
   - ✓ 動作様態の範疇は語彙的な手段によって表されるため，文法的範疇ではない。
7) ĖSSLTP（vol. 2: 30-34）
   - ✓ 接辞によって表される量的・時間的な意味の共通性によってまとめられた動詞の，意味・語形成に関する分類
   - ✓ 本来の基幹動詞と全く同じプロセスが表され，時間的・量的な観点から当該プロセスを具体化する

上記の先行研究に共通していることは，形態的変化と意味的変化の関係への言及である。この形態と意味の関係に関連したこととして，動作様態をどの範疇に帰属させるべきかという問題が提起されており，先行研究の中でもこの問題に関して様々な意見が見られる。本稿を執筆するにあたって参考とした先行研究に限って言えば，動作様態が属する範疇の問題では，動作様態を意味的・語形成的範疇（semantiko-slovoobrazovatel'naja kategorija）に分類すべきという意見と，単に意味的範疇（semantičeskaja kategorija）に分類すべきという意見が見られる[15]。前者の意見を主張あるいは採用しているのは Avilova（1976: 263-267），Zaliznjak, Šmelev（2000: 11-12, 104-105）, RG-80（vol. 1: 596）, ĖSSLTP（vol. 2: 30）であり，一方，後者の意見は Maslov（2000: 385）と Šeljakin（1987: 64）が主張している。

動作様態を意味的・語形成的範疇としてみなす研究者は，基幹動詞の形態的な特徴が変化するとともに，基幹動詞の持つ意味も変化するという事実を根拠としている。具体的な例を挙げると，zaigrat'「（楽器を）弾きはじめる」，zakričat'「叫びだす」，zapet'「歌いはじめる」などの接頭辞付加動詞は，それぞれの基幹動詞 igrat'「弾く」，kričat'「叫ぶ」，pet'「歌う」に接頭辞 ZA-を付すことで形成された動詞であり，基幹動詞にはない「動作の開始」という意味を獲得している。つまり，形態的な変化と意味的な変化が互いに密接な関連性を持っていると考えられるのである。動作様態そのものの定義に関する最新の研究に Pálosi（2014: 194-208）がある。この中でも，動作様態は意味的・語形成的範疇として理解されており，その理由として基幹動詞の意味変化に形態的変化が常に伴われることが挙げられている（Pálosi 2014: 204）。

これに対し，動作様態を意味的範疇として理解する Maslov と Šeljakin は共に，ロシア語の動詞は限界動詞と非限界動詞のいずれかに属し，それぞれの動詞に固有の動作様態が存在すると考えている（Maslov 2000: 387-389; Šeljakin 1987: 64）。例えば，非限界動詞の動作様態のサブタイプとして Šeljakin が設定した「相関の動作様態」（reljacionnyj sposob dejstvija）では動詞の例として vesit'「…の重さがある」，rasti「育つ」が，同じく非限界動詞の動作様態のサブタイプである「状態の動作様態」（statal'nyj sposob dejstvija）では ležat'「横たわっている」，stojat'「立っている」などの基幹動詞がそれぞれ挙げられている（Šeljakin 1987: 82-83）。要するに，形態素による特徴づけを被らない動詞の本来的な意味によって動作様態

[14] この概念を表す用語として「アスペクト性」（aspektual'nost'）が用いられている。
[15] この問題に関して Isačenko（1960: 219）は自身の立場を明確にしていない。

が構成される場合もあり，動作様態は全ての動詞語彙に及ぶ，というのが彼らの見解である。

動作様態の定義が研究者によって異なっているように，動作様態の種類および各動作様態に分類される動詞接頭辞の種類も研究者によって異なっている。例えば，動作様態の種類は 10 種類前後から 20 種類前後と考えられている。ここでは，先行研究の中で設定されることが多く，かつ定義が比較的共通している「始動」「終止」「限定」「継続・限定」「減縮」の 5 つの動作様態を取り上げる。

2.3.2.1. 始動 Načinatel'nyj sposob dejstvija

Avilova, Zaliznjak, Šmelev, RG-80 では，始動の動作様態は 2 つのサブタイプに区別され，「開始」（inchoativnyj）と「起動」（ingressivnyj）という名称がそれぞれ与えられている[16]。「開始」は文字通り「動作の開始」を表し，開始された動作はある程度の時間的な長さを持つとされている（Avilova 1976: 278-283; Zaliznjak, Šmelev 2000: 107-109; RG-80 vol. 1: 597）。また「開始」に属する動詞は“načat' + 基幹動詞の不定詞”で言い換えられるという Avilova の指摘からも分かるように（Avilova 1976: 280-282; RG-80 vol. 1: 597），まさに「開始」に特化した動作様態であると言える。一方，「起動」に関して Avilova, Zaliznjak, Šmelev, RG-80 の解釈に共通しているのは，動作の開始と継続をひとつのまとまりとしてみなすことによって「状態の発生」という事実が描写され，動作の開始と結果の到達がほぼ同時的に起こる，ということである（Avilova 1976: 273-278; Zaliznjak, Šmelev 2000: 109-111; RG-80 vol. 1: 596-597）。この「開始」と「起動」の違いに関して，以下に例文を挙げる。

Devočka upala i gromko zaplakala.「女の子は転ぶと大声で泣きだした」

Anna až vskričala ot boli.「アンナは痛くて思わず叫んだ」

「開始」の動作様態を表す前者では，「泣く」という行為への着手と，泣いた状態がその後も続くこと，つまり行為の継続性が認められる。これに対し，「起動」の動作様態を表す後者では，「叫ぶ」という極めて短い動作の中に動作の開始と終わり，すなわち結果への到達が共に含まれている。従って，「起動」の動詞を日本語へ訳す場合，訳語として必ずしも「はじめる」「だす」などの単純動詞あるいは後項動詞が用いられるわけではない。

Šeljakin, Isačenko は共にサブタイプを設定することなく「始動」の定義を説明している。Šeljakin は単に動作が発生する瞬間として説明しており，Isačenko は「動作の着手にフォーカスが当てられ，まとまった出来事として着手が表される」と説明している（Šeljakin 1987: 79; Isačenko 1960: 224-232）。

「開始」と「起動」が区別されている先行研究では，「開始」の接辞として接頭辞 ZA- が挙げられている（Avilova 1976: 278; Zaliznjak, Šmelev 2000: 107; RG-80 vol. 1: 597）。一方の「起動」に分類される接辞は多岐にわたり，Avilova は PO-, ZA-, VZ-, VOZ-, RAZ-, RAZ- + -SJA, O-, U-, PRI-を，Zaliznjak, Šmelev は PO-, O-, U-, VZ-, VZ- + -SJA, RAZ- + -SJA を，RG-80 は PO-, VZ-, VOZ-, RAZ- + -SJA, VZ- + -SJA を「起動」の接辞としてそれぞれ分類している

[16] RG-80（vol. 1: 596-597）では「開始」，「起動」という名称は用いられておらず，単に 2 種類のヴァリアントとして説明されている。

（Avilova 1976: 273-278; Zaliznjak, Šmelev 2000: 109-111; RG-80 vol. 1: 597）。これらに対し，「開始」と「起動」の区別を設けていない Isačenko と Šeljakin は ZA-, VZ-, PO-の 3 種類を「始動」の接頭辞としている（Šeljakin 1987: 79; Isačenko 1960: 225-232）。これらの先行研究で挙げられている接辞付加動詞の例を以下に一部引用する。

- 開始 inchoativnyj：ZA-（Avilova, Zaliznjak, Šmelev, RG-80）
  例．zakurit'「（たばこを）吸い始める」，zapachnut'「匂い始める」，zarabotat'「動き始める」，zasverkat'「輝き始める」，zacvesti「（花が）咲き始める」，zašumet'「騒ぎ始める」など
- 起動 ingressivnyj：ZA-, VZ-, VOZ-, O-, PO-, PRI-, RAZ-, RAZ- + -SJA, U-（Avilova）；VZ-, VZ- + -SJA, O-, PO-, U-, RAZ- + -SJA（Zaliznjak, Šmelev）；VZ-, VZ- + -SJA, VOZ-, PO-, RAZ- + -SJA（RG-80）
  例．vzdumat'「思い立つ」，vzmanit'「誘惑する」，vozljubit'「恋心を抱く」，vsplakat'sja「激しく泣き出す」，zapet'「歌い始める」，osvetit'「明るくする」，ocenit'「評価する」，pobežat'「走り出す」，podut'「（風が）吹き始める」，pojti「歩き出す」，primetit'「気付く」，rasplakat'sja「号泣し始める」，rasserdit'sja「腹を立てる」，uznat'「知る」，uslyšat'「耳にする」など
- 始動 načinatel'nyj：ZA-, VZ- + -SJA, PO-（Isačenko）；ZA-, VZ-, PO-（Šeljakin）
  例．vzrevet'「うなり始める」，vzgomonit'sja「大騒ぎをする」，zaigrat'「演奏し始める」，zakričat'「叫び出す」，pobežat'「走り出す」，poletet'「飛び立つ」など

2.3.2.2. 終止 Finitivnyj sposob dejstvija

「終止」の動作様態が持つ意味は「動作の終了」であり，この点では研究者間で意見が一致している（Avilova 1976: 286-287; Zaliznjak, Šmelev 2000: 113-114; Isačenko 1960: 244-245; RG-80 vol. 1: 598; Šeljakin 1987: 79）。中でも「始動の動作様態に対する反意語の様相を呈している」という Isačenko による説明は「終止」の最も本質的な意味を表しているように思われる（Isačenko 1960: 245）。また Avilova は，「終止」の動作様態は必ずしも結果への到達を表すものではないと指摘し，動作に対して時間的な制限を設けるものであると考えている（Avilova 1976: 286）。

「終止」の動作様態に分類される接頭辞は OT-ただ一つである。この点でも研究者間で意見の一致が見られる（Avilova 1976: 286-287; Zaliznjak, Šmelev 2000: 113; Isačenko 1960: 244; RG-80 vol. 1: 598; Šeljakin 1987: 79）。先行研究では動詞の例として以下のものが紹介されている：例．otbolet'「痛みが消える，痛くなくなる」，otgovorit'「話をやめる」，otljubit'「愛し終わる，愛がさめる」，otobedat'「昼食を終える（すます），昼飯を食べ終わる（終える）」，otpet'「歌い終わる」，otpit'「飲み終わる」，otcvesti「咲き終わる」など。

2.3.2.3. 限定 Ograničitel'nyj sposob dejstvija

動作様態における「限定」とは，動作実現が時間的な制約を受けることを意味する。各先行研究を見ると，時間的に制限された動作実現という点においては意見が共通してい

る。さらに, その制限時間の長さに関して Šeljakin（1987: 80）と Zalizniak, Šmelev（2000: 111）は「比較的短く，あいまいな時間的断片」,「時間的に限定された小さな単位」との説明を与えている[17]。一方で，その他の先行研究では時間の長さについての言及がない。

「限定」の意味を持つ接辞として各先行研究で共通して挙げられているのは PO-である。一部の研究者は PO-とともに他の接辞も「限定」の動作様態に分類しており, Avilova は PERE-, PRO-を, Šeljakin は VZ- + -NU-, PERE-, PRI- + -NU-, PRO-, S- + -NU-を, Isačenko は VZ- + -NU-を「限定」の意味の接辞として挙げている[18]。各先行研究で挙げられている接頭辞付加動詞の例は主に以下のものである。

- PO- :（Avilova, Zalizniak, Šmelev, Isačenko, RG-80 , Šeljakin）
  例．pobegat'「しばらく走る」，pošumet'「少しざわめく」，poležat'「しばらく横になっている」，poigrat'「ひと遊びする」，počitat'「しばらく読む」，poplavat'「しばらく泳ぐ」など
- PERE-, PRO- :（Avilova, Šeljakin）
  例．perezimovat'「冬を越す」，perekusit'「軽く食べる」，perenočevat'「夜をすごす」，probežat'sja「少し走る」，progovorit'「（ある時間）会話して過ごす」，projtis'「少しぶらつく」，prorabotat'「（ある時間）働いて過ごす」など
- PRI- + -NU-, S- + -NU-（Šeljakin）
  例．prichvornut'「しばらく体調を崩す」，sosnut'「まどろむ」
- VZ- + -NU-（Isačenko, Šeljakin）
  例．vzgrustnut'「少し悲しむ」，vzdremnut'「まどろむ」，vsplaknut'「少し泣く」など

「限定」における時間の長さと範囲の問題は「継続・限定」の動作様態と大いに関係しているため，これについては次項でさらに説明する。

2.3.2.4. 継続・限定 Dlitel'no-ograničitel'nyj sposob dejstvija

前項の「限定」の動作様態と同様,「継続・限定」の動作様態も時間的に制限された動作実現を意味する。この「継続・限定」では動作を制限する時間的な長さが「限定」におけるものよりも長く, また,「限定」よりもはっきりとした時間的な範囲が表される（Šeljakin 1987: 79; Zalizniak, Šmelev 2000: 112-113; Isačenko 1960: 243-244; RG-80 vol. 1: 598）。この点で「限定」の動作様態との差別化が図られていると言える。「継続・限定」のもうひとつの特徴として “do utra”, “v tečenie dnja”, “vsju noč'” といった時の状況語（obstojatel'stvo vremeni）が伴われる場合が多いことが挙げられる。

「継続・限定」は多くの先行研究で別個の動作様態として設定されているが，Avilova の考える動作様態の体系ではこの「継続・限定」が示されていない。結論から言えば, Avilova は「限定」の動作様態の中に「継続・限定」を含めているのである。すでに述べたが,「限

[17] なお Šeljakin は当該動作様態の名称として“ograničitel'nyj sposob dejstvija”と“delimitativnyj sposob dejstvija”を併用している。

[18] 接辞の種類に関して Šeljakin が明らかにしているのは PO-のみであり，その他の接辞の種類については具体的な明言を避けている。このため，本文中で挙げた Šeljakin による接頭辞の分類は，彼が「限定」の動作様態の項目で挙げている接辞付加動詞の例を参考とした（Šeljakin 1987: 80）。

定」は動作実現が時間的な制限を受けることを意味するものであり，その制限が時間的に短く，時間的な範囲があいまいであることを特徴としている。Avilova は「限定」の動作様態を，時間的な長さや時間的範囲の如何にかかわらず動作実現が時間によって制限されることとして解釈しており，前項で指摘したように perezimovat', perenočevat', prorabotat'などの接頭辞付加動詞の例をも「限定」に含めている（Avilova 1976: 285-286）。こうした Avilova の考え方は，おそらく接頭辞 PERE-, PRO-がともに「動作実現における何らかの時間的な制限を表す」ことに起因していると思われる。これに関連したこととして，Šeljakin は「確定・時間」の動作様態（determinativno-vremennye sposoby dejstvija）のサブタイプの動作様態として「継続・限定」と「限定」を並行的に位置付けている。このことから判断しても，「限定」と「継続・限定」が互いに似通った意味を持つものであることが分かる（Šeljakin 1987: 79-80）[19]。

「継続・限定」を独立した動作様態として設定する先行研究では，当該動作様態を表す動詞接頭辞として OT-, PERE-, PRO-が挙げられている。これら 3 つの接頭辞を挙げているのは Šeljakin，接頭辞 PERE-, PRO-の 2 つを挙げているのは Isačenko および RG-80，接頭辞 PRO-のみを挙げているのは Zaliznjak, Šmelev である。これらの先行研究で例として挙げられている動詞は主に以下のものである。

- PRO-：（Zaliznjak, Šmelev, Isačenko, RG-80, Šeljakin）
  例．probolet' (dva mesjaca)「（2 か月）病気する」，prožit' (vsju žizn' v derevne)「（一生を田舎で）すごす」，prorabotat' (tri dnja)「（3 日間）働く」，pročitat' (do trëch časov noči)「（夜中の 3 時まで）読書する」，proigrat' (vsju noč')「（一晩中）遊んですごす」など
- PERE-：（Isačenko, RG-80, Šeljakin）
  例．perezimovat'「冬を越す」，perespat' (noč')「（一夜を）寝てすごす」，perenočevat'「夜をすごす」など
- OT-：（Šeljakin）
  例．otdežurit' (sutki)「（一昼夜の）当直を勤める」，otslužit' (v armii 2 goda)「（2 年の兵役を）勤める」など

2.3.2.5. 減縮 Smjagčitel'nyj sposob dejstvija

「減縮」の動作様態は，動作実現の質的側面に特化した動作様態である（Šeljakin 1987: 76-77）[20]。「限定」と「継続・限定」の動作様態が動作のプロセスを時間的に制限するのに対し，「減縮」では動作実現の強さが抑制され，結果として実現の程度が弱い，あるいは不完全な動作が表される。先行研究ではこのような解釈が共通して見られる（Avilova 1976: 290-293; Šeljakin 1987: 76-77; Isačenko 1960: 238-242; Zaliznjak, Šmelev 2000: 120-121; RG-80 vol.1: 599-600）。

[19] Šeljakin は「継続・限定」の動作様態の名称として「持続」（perdurativnyj sposob dejstvija）というものを併用している。
[20] Šeljakin は「希薄」（attenuativnyj sposob dejstvija）という名称も併用している。

「減縮」の動作様態に分類される接頭辞として先行研究で挙げられているものを全て挙げると ZA-, NA-, NAD-, PERE-, PO-, POD-, PRI-の 7 種類である。これらのうち, POD-, PRI-は全ての先行研究において挙げられており，接頭辞 PO-は Šeljakin を除いた先行研究の中で挙げられている。接頭辞 PERE-は Avilova と RG-80 が，接頭辞 ZA-, NA-, NAD-は Šeljakin がそれぞれ挙げている。以下に，先行研究の中で挙げられていた動詞の例を一部引用する。

- POD-, PRI- :（Avilova, Zaliznjak, Šmelev, Isačenko, RG-80, Šeljakin）
  例．podzachmelet'「わずかに酔う」，podnažat'「軽く押す」，podsest' (o batarejkach)「（電池の充電容量が）少し減る」，podtajat'「少し解ける」，pribolet'「少し風邪をひく」，priotkryt'「少し開ける」，pritormozit'「少しブレーキをかける」，pripozdat'「少し遅れる」など
- PO- :（Avilova, Zaliznjak, Šmelev, Isačenko, RG-80）
  例．poest'「少し食べる」，poobsochnut'「少し渇く」，pootvyknut'「癖が少しぬける」，pootdochnut'「少し休憩する」，popit'「少し飲む」，porazvleč'sja「少し気晴らしをする」，poutichnut'「少し静かになる」など
- PERE- :（Avilova, RG-80）
  例．perekusit'「軽く食べる」，perekurit'「一服する，一休みする」，perebit'sja「どうにかこうにかやりくりする」
- ZA-, NA-, NAD- :（Šeljakin）
- 例．zastirat'「つまみ洗いをする」，zapilit'「（ノコギリで）切れ目を付ける」，nadlomit'「ヒビを入れる」，nadporot'「縫い目を少し解く」，napet' (pesnju)「（歌の一部を）口ずさむ」，naigrat' (melodiju)「（メロディーの一部を）演奏する」など

“podnažat'，priotkryt'，pootdochnut”などの例を見てもわかるように，この動作様態では，すでに接頭辞を持つ完了体動詞へさらに接頭辞を付すことによって「減縮」の意味が表される場合がある（Avilova 1976: 290-292; Isačenko 1960: 239; Zaliznjak, Šmelev 2000: 120-121; RG-80 vol.1: 599）。

2.4. 小結

ロシア語における動詞接頭辞の種類に関しては，どこまでを異形態と認めるかについて議論があるため（Kuznecova, Efremova 1986: 575-576），すでに述べたように，研究者によって接頭辞の種類は様々である。

また，ロシア語の動詞接頭辞が持つ意味・機能の解釈の仕方のひとつとして，動作様態の概念および動作様態の先行研究を紹介した。しかしながら，動作様態と動詞接辞の種類および分類方法は研究者によって異なり，統一された見解というものが未だに存在しない（Pálosi 2014: 203）。

こうした事情から判断して，本稿では，ロシア語の動詞接頭辞の種類およびその意味・機能について述べる場合は，動詞接頭辞の種類を比較的多く記載し，なおかつそれぞれの接頭辞の意味・機能に関して詳細な説明を与えている RG-80 の記述に従うこととする。

3. 外国語文献における日本語複合動詞の説明

本稿第 3 章では，ロシア語圏の国々で刊行された日本語の教科書・参考書や日本語文法に関する学術書等における複合動詞に関する記述に着目し，非日本語ネイティヴに対して日本語の複合動詞，特に「動詞+動詞」型の複合動詞がどのように教授されているかを明らかにする。そして，このことから，日本語の複合動詞における後項動詞と印欧語の動詞接頭辞との比較研究に妥当性があることを主張するための根拠を提示したい。

3.1. Golovnin（1986）

Golovnin（1986: 124-125）は，和語由来の複合動詞，すなわち前項動詞と後項動詞が共に和語である複合動詞に関して，語根形態素の特質を様々なレベルで失った動詞は半接辞（poluaffiks）ないし準接辞（kvaziaffiks）であるとみなし，前項動詞と後項動詞をそれぞれ準接頭辞（kvazipreffiks），準接尾辞（kvazisuffiks）と呼んでいる[21]。

i. 準接頭辞を持つ複合動詞：
メシ＋アガル（est', pit'），ウチ＋ツヅク（prodolžat'sja），タチ＋マサル（prevoschodit'），フリ＋アテル（raspredeljat'），ヒキ＋オコス（vyzyvat'）；

ii. 準接尾辞を持つ複合動詞：
オモイ＋ダス（vspomnit'），ナゲ＋イレル（zabrasyvat'），ウリ＋キル（rasprodat'），イイ＋ツクス（vyskazat' vsë），イイ＋ソコナウ（ogovorit'sja），シリ＋ヌク（znat' doskonal'no），ワカリ＋カネル（ne umet' ponjat'），カチ＋エル（sumet' pobedit'），ノリ＋イル（v"ezžat'），トビ＋コム（vletat'），ウチ＋ツケル（vbit'; udarit'sja），ハナシ＋ハジメル（načat' govorit'），ハナシ＋ツヅケル（prodolžat' govorit'），ハナシ＋オワル（končit' rasskazyvat'）

3.2. Nečaeva（1994, 1999）

Nečaeva（1994: 121, 157; 1999: 49, 153, 185）は，複合動詞を構成する後項動詞を「助動詞」（vspomogatel'nyj glagol）と呼び，「～あげる」「～こむ」「～かえる」「～なおす」「～あう」が持つ意味を次のように説明している。

i. 動詞「上げる」（podnimat'）は複合動詞を構成し，「上げる（podnimat'）」の意味を与える。例：しるはおわんを持ち上げて飲みなさい。“A židkost', podnjav čašku, vypej.”

ii. 動詞「こむ」は補助動詞として複合動詞を構成し，「内部へ向かう動作の方向性」という補足的な意味を与える。例：乗る“echat'”＋こむ“内部への方向性”→ 乗りこむ“sadit'sja (vchodit') v kakoj-libo vid transporta”；テーブルの下に入り込む。“vlezt' pod stol.”

[21] Golovnin は前項動詞と後項動詞をそれぞれ「第一語根」（pervyj koren'），「第二語根」（vtoroj koren'）と呼んでいる。

iii. 動詞「かえる」は，補助動詞として複合動詞を構成し，「変える」（menjat'）という補足的な意味を与える。例：乗る“echat'”＋かえる“menjat'”→ 乗りかえる“peresaživat'sja”.

iv. 動詞「直す」は補助動詞として複合動詞を構成し，「改善・修繕を目的とした他の方法による行為の反復」という補足的な意味を与える。例：建てる“stroit'” - 建て直す“perestraivat'”.

v. 動詞「合う」は補助動詞として複合動詞を構成し，「動作の相互性」という補足的な意味を与える。例：話す“razgovarivat'”– 話し合う“razgovarivat', besedovat' s kem-libo”.

3.3. Sevost'janova（2006）

Sevost'janova（2006: 36-37）は，アスペクト的意味（vidovye značenija）を表す後項動詞と空間方向を表す後項動詞を紹介しており，アスペクトを表す後項動詞としては「～はじめる」「～だす」「～かける」「～おわる」「～おえる」「～やむ」「～つづく」「～つづける」を，空間方向を表す後項動詞としては「～あげる」「～あがる」「～おろす」「～こむ」「～だす」を挙げている。

i. アスペクト的意味

- 「はじめる」は合則的，非偶然的な動作を表す。「はじめる」と結合する動詞は，意図的な動作を表す。
- 「だす」は予期せぬ開始，突然の開始のニュアンスを持つ。「だす」をもつ複合動詞は，自然現象の始まりを表す。
  「まことに魅力的な色彩の深さと輝きが生み出された。」
  “Poroždajutsja glubina i blesk poistine plenitel'nogo cveta.”
- 「かける」は，始まったばかりの動作，ないしその後に中断される動作を表す。
- 「おわる」「おえる」は他動詞の連用形と結びつく。「おえる」の成分を持つ複合動詞は，命令法の形でも使用される。
- 「やむ」は自動詞の連用形と結合するが，その自動詞は意図的な動作を表さない。
- 「つづく」「つづける」は動作の継続を表す。いずれも動詞の連用形と結合する。

ii. 空間方向

- 「あげる」「あがる」は，動作が下から上へ向かって行われることを表す。
- 「おろす」は，動作が上から下へ向けられることを表している。
- 「こむ」は，内部へ向けられた動作を表す。
- 「だす」は，内部から実現した動作が外部へと向けられることを示す。また，

結果の登場を表すこともある。

3.4. Alpatov, Arkad'ev, Podlesskaja（2008）

日本語の複合動詞には，前項動詞と後項動詞の意味関係によって「等位語的」（koordinativnyj）複合動詞と「帰属的」（atributivnyj）複合動詞，そして後項動詞によって前項動詞に補足的な特徴付けが行われる複合動詞が存在する（Alpatov, Arkad'ev, Podlesskaja 2008: 519, 522-523）。

i. 「等位語的結合」koordinativnye sočetanija
前項動詞と後項動詞が同様の意味を持つもの：TOBI-HANE-RU（prygat'）

ii. 「帰属的結合」atributivnye sočetanija
前項動詞によって後項動詞の意味が正確になるもの：KIRI-KOROS-U（zarezat', zarubit'）＜KIR-（rezat'）＋KOROS-（ubit'）

iii. 前項動詞に補足的な特徴付けを行う後項動詞をもつもの
- 動作の局面に関するもの：-HAJIME-RU（načinat'），-TSUZUKE-RU（prodolžat'），-OWA-RU / -OE-RU（končat'）
- 動作の方向性に関するもの：-KOM-U, -DAS-U
- 動作が不可能であることを表すもの：-KANE-RU
- 動作の反復に関するもの：-NAO-SU
- 動作が徹底して行われることを表すもの：-TSUKUS-U

これらのうち，iii のタイプの複合動詞は「文法化 grammatikalizacija のある種の段階にあり，接尾辞としてみなされることもある」と説明されている（Alpatov, Arkad'ev, Podlesskaja 2008: 523）。

3.5. Paškovskij（1980）

Paškovskij（1980: 33-43）は，前項動詞と後項動詞の役割の違いに基づいて，「動詞+動詞」タイプの複合動詞を 3 つのタイプに大別している。

i. 前項動詞と後項動詞がともに有意的なもの
一個の複合動詞全体の意味が前項・後項双方の意味によって形成されている。
- 同一の語を繰り返すもの：「（汗を）拭き拭き」（vytiraja pot）
- 前項・後項が意味的に対立するもの：「とまり歩く」＜ とまる（ostanavlivat'sja）＋歩く（chodit'）
- 前項・後項が意味的に近いもの：「投げ捨てる」（švyrjat'）＜ 投げる（brosit'）＋捨てる（brosat', vybrasyvat'），「問いただす」（uznavat'）＜ 問う（sprašivat'）＋正す（rassprašivat'），「思い知る」（ponimat', postigat'）＜ 思う（dumat'）＋知る（znat'）
- 別々な動作でありながら関連付けられているもの：「折りたたむ」＜ 折る

（zagibat'）＋たたむ（skladyvat'），「呼びとめる」（ostanavlivat' oklikom）< 呼ぶ（zvat'）＋とめる（ostanavlivat'）

ii. 後項動詞が動作を明確にするもの

このタイプでは前項動詞と後項動詞が機能的に対立しており，後項動詞は前項動詞が表す動作を何らかの形で特徴づける。

- 方向性
  - ✓ 上への方向を表す後項動詞:「～あげる」(podnjat'),「～あがる」(podnjat'sja)
  - ✓ 下への方向を表す後項動詞:「～おろす」(opustit'),「～おりる」(opustit'sja)，「～くだす」（opustit'），「～くだる」（opustit'sja）
  - ✓ 内部への方向を表す後項動詞:「～いる」(vchodit'),「～いれる」(vkladyvat')，「～こむ」（tesnit'sja, byt' ljudnym），「～よせる」（priblizit'），「～よる」（priblizit'sja），「～さる」（udalit'sja）
- 共同性

  動作ないし状態の共同性, 相互性を表す後項動詞:「～あう」(soglasovyvat'sja)，「～あわせる，～あわす」（soedinjat', soglasovyvat'）
- プロセスの特徴づけ

  開始・継続・完了・発生と完遂・連続性と中断などの観点から動作のプロセスを特徴づける後項動詞:「～はじめる」(načinat'),「～はじまる」(načinat'sja)，「～つづける」(prodolžat'),「～つづく」(prodolžat'sja),「～おえる」(končit')，「～おわる」（končit', byt' zakončennym）
- 動作への態度

  可能・不可能, 必要・不必要, 通常性を表す後項動詞:「～える，～うる」(moč')，「～あたう」（moč'），「～かねる」（ne moč'）
- 動作の否定的な特徴付け

  「～そこなう」（portit'），「～そんじる」（portit'），「～あやまる」（ošibat'sja），「～ちがえる」(menjat'),「～ちがう」(otličat'sja),「～はぐれる」(zabludit'sja)，「～おとす」（ronjat'）
- 動作の二次性

  「～なおす」(ispravljat'),「～なおる」(ispravljat'sja),「～かえす」(vozvraščat')，「～かえる」（vozvraščat'sja）
- 追加・増大・不十分・過剰・極端の意味を表す後項動詞

  「～くわえる」(dobavljat'),「～たす」(dobavljat'),「～たりる，～たる」(byt' dostatočnym),「～あまる」(byt' v izliške),「～すぎる」(prochodit'),「～すごす」(provodit')
- 後項動詞による具体化

  「見つける」(zametit') < 見る（smotret'）＋つける（prikrepit'），「言いつける」

（prikazat'）< 言う（govorit'）＋つける（prikrepit'）

iii. 複合動詞全体の意味が後項動詞の意味と同等，ないしほぼ同等のもの

このタイプにおける前項動詞は，日本語の文法を扱った教科書で「(動詞) 接頭辞」(glagol'nye) prefiksy ないし「虚接頭辞」mnimye-prefiksy と通常呼ばれている。当該タイプを構成する後項動詞として，Paškovskij は以下のものを挙げている：

「うつ～」(bit')，「ぶつ～」(bit')，「とる～」(brat')，「もつ～」(deržat')，「おす～」(tolkat')，「ひく～」(tjanut')，「ふる～」(trjasti)，「かく～」(skresti, carapat')，「さす～」(vtykat')，「めす～」(zvat')，「たつ～」(stojat')，「あう～」(vstrečat'sja)

3.6. Shibatani（1990）

Shibatani（1990: 246-247）は「動詞+動詞」型複合動詞を，前項動詞と後項動詞の意味的な関係に基づいて 3 つのグループに分類している。

i. V/m-V タイプ

このタイプでは前項動詞が後項動詞を修飾する。英語における“break open”のような表現と類似しており，前項動詞が表す方法によって後項動詞の動作が行われる。

例：ナグリ-コロス (beat-kill) “kill by beating”, キリ-タオス (cut-fell) “fell by cutting”, カミ-キル（bite-cute）“cut by biting”

例で挙げたように，V/m-V タイプの複合動詞は「V_1 によって V_2 する」という言い換えが可能である。このタイプで述語としての機能を持つのは後項動詞である。

ii. V-V/m タイプ

後項動詞が前項動詞を修飾する。後項動詞は，主にアスペクトに関する意味を表す。

例：カキ-アゲル（write-raise）“write-up”，シ-アゲル（do-rise）“do-up”，イイ-ツクス（say-exhaust）“say exhaustively”，コワレ-ハジメル（break-begin）“begin to break”

前述の V/m-V タイプで見られた「V_1 によって V_2 する」という言い換えはこの V-V/m タイプの複合動詞には適応できない（書き上げる / *書いて上げる）。このタイプの複合動詞における後項動詞は接尾辞に似ており，後項動詞が本来持っている意味がしばしば失われる。例えば，「書き上げる」の「～あげる」は，単独の場合“to raise”を意味するが，「書き上げる」や「仕上げる」（do-raise）といった複合動詞における「～あげる」には，単独で使用される場合の意味“to raise”がない。むしろ，英語における“up”が完了の意味を比喩的に帯びているように，「～あげる」も完了の概念を表している。また，後項動詞として使用される「はじめる」(begin) や「つづける」(continue) のような他動詞のアスペクト的動詞は自動詞文でも使用される (「雨が降り始めた」“It began to rain”,「花がしおれ始めた」“The flowers began to wilt”)。これらのことから，V-V/m タイプの複合動詞における後項動詞は独立し

た状態を失うプロセスの中にあり，やがてはアスペクトの意味を持つ動詞接尾辞となる可能性があると Shibatani は指摘している。

iii. V-V タイプ

前項動詞と後項動詞がともに同じレベルの重要性を持つ。

例：ナキ-ワメク（cry-shout）“cry and shout”，トビ-ハネル（jump-spring）“jump and spring”

V-V タイプの複合動詞は“do X-ing and Y-ing”による言い換えが可能である。V/m-V タイプや V-V/m タイプと比較すると数は少ない。

例：ナキ-サケブ（cry-shout）⇔ ナイ-タリ サケン-ダリ スル（cry-and shout-and do）“do crying and shouting”

3.7. 小結

少なくとも，本稿で引用した日本語文法の教科書・文法書・研究書の中で「動詞+動詞」型の複合動詞を網羅的かつ体系的に説明したものは存在しない。このことが，ロシア語ネイティヴが複合動詞を学習する際の障壁のひとつとなっていると考えられる。

次に，外国人向けの日本語参考書の中で後項動詞がどのように呼ばれているかに着目したい。上に挙げた書籍のうち，Golovnin, Alpatov, Arkad'ev, Podlesskaja, Shibatani が後項動詞を「接辞（接尾辞）」として扱っており，さらに Nečaeva は後項動詞を「助動詞」とみなしている。英語やロシア語などの印欧諸語が接辞ないし副詞を動詞に付すことによって複合動詞を形成することは良く知られている。以下の例は『言語学大辞典』（vol. 1: 1139）内の「複合動詞（compound verb）」の項目の中で挙げられていた，接頭辞（preverb）ないし副詞を付して合成された印欧諸語の複合動詞である。

- 英語：*dis*-cover「発見する」，*re*-cover「取り戻す」
- ラテン語：*ab*-ire「向こうに行く」，*ex*-ire「出ていく」，*satis*-facere「満足させる」
- サンスクリット：*sam-upa-ā*-gam-「近くに集まってくる」
- ドイツ語：*auf*-gehen「上がる」

本稿で扱う日本語の「動詞+動詞」型の複合動詞は，独立した 2 つの動詞が合成することによって形成されたものであるから，語形成の観点から言えば，上記の印欧諸語の複合動詞とは異質のものである。しかし，Nečaeva や Alpatov らが述べているように，日本語の「動詞+動詞」型複合動詞には，後項動詞によって前項動詞に補足的な意味が付与されるものや，前項動詞が主たる動作を表す一方で後項動詞が動作の様態を規定するものが多くあり，複合動詞が持つこうした機能は印欧諸語における動詞接辞の機能と同様のものである。また，Sevost'janova が言及した，後項動詞によって前項動詞に与えられる「アスペクト」と「空間」の意味に限って言えば，本稿第 2 章で述べたように，ロシア語では同様の機能を動詞接頭辞が担っている。

これらの特徴を考慮に入れれば，印欧諸語を母語とする人間が，日本語の後項動詞を

「接辞」ないし「接尾辞」と同等のものと考えるのは必然的なことであり，印欧諸語の複合動詞における接辞，特に接頭辞と，日本語複合動詞における後項動詞の間に何らかの共通性があるように感じられることの根拠として上記の内容を提示することができる。従って，ロシア語の動詞接頭辞と日本語の後項動詞を意味的な観点から比較することは，双方の意味的対応を明らかにする上で有意的な研究方法であると言える。

4. 日本語複合動詞に関する先行研究

本章では，日本語の「動詞＋動詞」型複合動詞が従来の研究においてどのように考察・分類されているのかについて見ていく。日本語の複合動詞に関する研究は吉沢（1952）にはじまり，主なものとして，長島（1976, 1997），森田（1978），生越（1983），石井（1983a, 1983b, 1988），寺村（1978, 1984），山本（1984），斎藤（1992），影山（1993），李（1996），姫野（1999, 2001），由本（2005）などがある。

松田（2004: 13）によれば，今まで扱われてきたテーマをいくつかの観点から大きく分類すると以下のようになる。

1) 複合動詞の結合条件及び分類などに関する研究
2) 個々の複合動詞後項の意味に関する研究
3) 他の言語との対照研究

この分類に従って，本章では，先行研究を上記 1)，2)，3）の順に紹介する。

4.1. 複合動詞の結合条件及び分類に関する先行研究

まず，複合動詞の結合条件とその分類について見ていく。複合動詞の結合条件とその分類に関しては，長嶋（1976, 1997），寺村（1978, 1984），山本（1984），影山（1993），姫野（1999, 2001）などが複合動詞の前項動詞と後項動詞との間にどのような意味的な関係が成り立っているかなどの側面から多種多様な複合動詞を整理し，分類を試みた。ここで彼らの研究を順に見ていく。

4.1.1. 長嶋（1976，1997）

長嶋は，日本語複合動詞を構成する二つの動詞，すなわち前項動詞（V_1）と後項動詞（V_2）のうち，特に後項動詞の性質を基準として，複合動詞を次の二種類に分けている。

I. v_1＋V_2（修飾要素＋被修飾要素）
「N が（を・に）v_1」とも言えるし，「N が（を・に）V_2」とも言えるもの[22]。
例：「町内を<u>見廻る</u>」→ 町を見る（V_1）; 町を廻る（V_2）

II. V_1＋v_2 （被修飾要素＋修飾要素）
「N が（を・に）V_1」とは言えるが，「N が（を・に）v_2」とは言えないもの。
例：「本を<u>読み通す</u>」→ 本を読む（V_1）; *本を通す（V_2）

すなわち，意味の上で中心をなすのは，I 類では V_2 であり，II 類では V_1 である。

また，長嶋は「このほかに，V_1 と V_2 の間にこのような従属関係のない，いわば二つの動詞が対等の関係にあると考えられる複合動詞がある」と述べている（長嶋 1997: 219）。これに該当するのは，たとえば「飛び跳ねる」，「泣き叫ぶ」といった複合動詞である。I 類の動詞「刺し殺す」や II 類の動詞「売り尽くす」は，たとえば，

[22] N は名詞を表す。

「刺し殺す」→ *刺したり殺したりする，「売り尽くす」→ *売ったり尽くしたりする のように，「～たり～たりする」という形では用いられない。これに対し，「飛び跳ねる」や「泣き叫ぶ」はそれぞれ「飛んだり跳ねたりする」「泣いたり叫んだりする」のように言い換えることが可能である。このような動詞における V_1 と V_2 の間には修飾・被修飾の関係はないと言える。

4.1.2. 寺村（1978, 1984）

寺村は，複合動詞における前項動詞と後項動詞の双方が，単純動詞の時と同等の意味を保っているかという観点から，複合動詞を次の 4 つのタイプに分類している。

I. 自立語 V＋自立語 V（例：走り去る，出迎える）
各部分が自立語の意味を保持
二つの動作が連結して，「～して～する」の意

II. 自立語 V＋付属語 v（例：降り始める，泣き出す）
第 2 の要素が自立語の意味を喪失
第 2 の要素が前の V のあり方を限定

III. 付属語 v＋自立語 V（例：引き返す，振り向く）
第 1 の要素が接頭語化
第 2 の要素にニュアンスを付加

IV. 付属語 v＋付属語 v（例：切り上げる，払い下げる）
各部分が自立語の意味を喪失
一語として分離不可

寺村の分類における複合動詞の自立語 V は，単純動詞の場合と同等の意味を保っており，一方の付属語 v は単純動詞の場合に持っていた意味を失っていることを表している。これら 4 つのタイプのうち，生産性が高いのは I と II であり，III と IV は生産性が低い。。

姫野（1999: 12-13）は，寺村のこの分類法について一定の評価を与えつつも，次のような問題があることを指摘している。第 2 類の「自立語 V＋付属語 v」では，第 2 の付属語 v が独立して使われる時の意味を失うと説明されているが，どの動詞の場合でも結合する前項動詞の意味との間に複雑な呼応関係を形成しながら，自立語が持つ多義的な部分が残されると考えられる。例えば，上記の分類で 2 類に属する「歩き始める，光り始める」，「歩き続ける，光り続ける」においては，それぞれ「開始」「続行」という本義が生きている。自然現象の場合において「～することを始める / 続ける」という言い換えと統語構造的に対応しないのは事実だが，これを以て，本動詞の時の意味が失われていると断言することはできない。

4.1.3. 山本（1984）

山本は，「動詞+動詞」型の複合動詞の結合価や格成分が前項動詞および後項動詞の本

来的な結合価や格成分とどう結びつき得るのかを分析し，複合動詞における格支配のあり方を考察した後[23]，複合動詞の格成分が前項動詞および後項動詞とどのような対応関係を示すかによって，以下の 4 つのタイプに分類している。

I. 複合動詞の格成分が，前項動詞と後項動詞の双方と対応関係にあるもの
例：降り続く，移り住む，抱きかかえる，持ち帰る，など

II. 複合動詞の格成分が前項動詞とは対応をするが，後項動詞とは対応しないもの
例：住み込む，降り出す，食べ過ぎる，走り通す，など

III. 複合動詞の格成分が後項動詞とは対応するが，前項動詞とは対応しないもの
例：引き起こす，取り掛かる，差し迫る，など

IV. 複合動詞の格成分が前項動詞と後項動詞のいずれとも対応しないもの
例：打ち解ける，繰り返す，取り締まる，など

寺村の分類が「意味的な観点」に基づいたものであるのに対し，山本は「前項動詞と後項動詞の格支配がどのような形で互いに関係しているのか」という「統語的観点」から分類を試みており，客観的基準が示されたという点で評価できるものである（松田 2004: 16）。

4.1.4. 影山（1993），姫野（1999, 2001）

日本語の V+V 型複合動詞に関する研究の中で，現代日本語の複合動詞を分類する際，頻繁に採用されているのが，影山による「語彙的複合動詞」と「統語的複合動詞」という 2 つの分類法である。前者は「意味の慣習化」という，様々な程度で意味の不透明化や語彙化を被るものであり，「典型的な〈語〉の特徴—意味の慣習化と語彙的な結合制限を備えている」ものである（影山 1993: 79）。それに対して，後者は「意味の透明性と生産性において，定型的な語よりむしろ普通の文や句に近い性質を備えている」もので，「統語的な補文構造形式に由来する」としている（影山 1993: 79）。

さらに，影山（1993: 80-97）はこの意味的区別とは別に，5 種類の統語的テスト（1. 代用形「そうする」との置換可否，2. サ変動詞の使用可否，3. 主語尊敬語の可能性，4. 受身形の可能性，5. 重複構文の可能性）を用いて，前項動詞にこれらのテストが適用できるか否かによって分類を行い，統語的操作が前項動詞のみに対して可能なものを統語的複合動詞，語彙的な結合制限により不可能なものを語彙的複合動詞とした。ただし，「流れる」「倒れる」のような，動作主の意志が反映されない自動詞を前項動詞として持つ複合動詞に，主語尊敬語，受身形，重複構文のテストを適用することはできない。一方で，「そうする」による置換テストとサ変動詞のテストはあらゆるケースで適用可能であるから，複合動詞分類の基準として有効である（姫野 1999: 18; 2001: 9）。

かくして，影山（1993: 96）は統語的複合動詞を形成しうる後項動詞を 27 語挙げてお

[23] 「＜格支配＞とは，動詞の名詞句との共起制限のことであり，まさに動詞の統語的機能に他ならない。そして，ある動詞がどれだけの数の名詞句を格支配するかを＜結合価＞といい，支配される名詞句を＜格成分＞と呼ぶ。」（山本 1984: 34）。

り，これに姫野（1999: 19; 2001: 7）の提案する 3 語「～かかる」「～果てる」「～そこねる」を加えた，計 30 語のリストを提示することができる。

統語的複合動詞を形成しうる後項動詞のリスト

- 始動：～かける，～だす，～始める，～かかる
- 継続：～まくる，～続ける
- 完了：～終える，～終わる，～尽くす，～きる[24]，～通す，～抜く，～果てる
- 未遂：～そこなう，～損じる，～そびれる，～かねる，～遅れる，～忘れる，～残す，～誤る，～あぐねる，～そこねる
- 過剰行為：～過ぎる
- 再試行：～直す
- 習慣：～つける，～慣れる，～飽きる
- 相互行為：～合う
- 可能　　：～得る

4.2. 個々の複合動詞後項の意味に関する研究

次に，日本語複合動詞後項の意味的側面に関する先行研究を紹介する。意味的な研究として挙げられるのは，姫野（1999），斎藤（1992），李（1997）の研究である。

4.2.1. 姫野（1999）

姫野は後項動詞の意味に特化した研究を行い，「～あがる」「～あげる」「～こむ」「～でる」「～だす」「～つく」「～つける」「～かかる」「～かける」「～あう」「～あわせる」「～きる」「～ぬく」「～とおす」「～なおる」「～なおす」など複雑な多義的後項動詞の意味・用法を整理し，さらに類義語との意味的差異を明らかにしている。

4.2.2. 斎藤（1992），李（1997）

齋藤は「～返す」を後項動詞に持つ 48 語の複合動詞を対象として扱い，単純動詞「返

[24] 後項動詞として使用される「～きる」には，語彙的複合動詞を形成する場合と統語的複合動詞を形成する場合がある。姫野によれば，語彙的複合動詞を形成する後項動詞「～きる」には，本動詞「切る」の意味が保たれているという（1999: 175）。一方，統語的複合動詞を形成する「～きる」には「完遂」と「極度」の意味がある（1999: 175）。「極度」の意味の場合，前項動詞は瞬間動詞であり，変化の程度を表しながら結果の状態が残ることを表すものが使用される（「荒れる」「疲れる」「困る」など）。「～きる」は，その変化が進み，それ以上はないというほどの究極まで達することを表す。その究極の状態は自然現象，人の生理現象，精神や感情を表すものが多い（姫野 1999: 180-181）。この統語的複合動詞を構成する「～きる」が持つ「極度」の意味は，本論で扱う，語彙的複合動詞を構成する「～こむ」の「程度進行」の意味と一見類似しているように見えるが，姫野の定義によれば，「程度進行」は，動作・作用の進行により程度が高まり，ある程度の濃い状態に達することを表すものであって（姫野 1999: 69），この場合，動作の結果は問題とはならない。

す」の意味と比較することによって後項動詞「～返す」の意味の抽象化プロセスについて考察している。また，李は「～きる」後項動詞から構成される複合動詞を対象として，単純動詞「切る」の多義性と比較した場合の後項動詞「～きる」の多義性に着目し，「～きる」が持つ「完遂」「極限」「自信満々」などの意味が単純動詞「切る」から派生するプロセスについて考察している。これら齋藤と李の研究は，単純動詞と比較した場合の後項動詞の意味的派生プロセスに関するものであると言える。

4.2.3. 城田（1998）

城田（1998: 107, 141-154）が考案した複合動詞の定義，および後項動詞の分類は一種独特である。他の研究者によって複合動詞と呼ばれている動詞を，「語彙的複合動詞」と「動詞的二次語幹形」の 2 種類に区別している。語彙的複合動詞は，動詞の汎用形[25]に他の動詞が前接することによってつくられた，複合的意味を持つ新たな動詞であり，「耐え忍ぶ」「絞め殺す」「響き渡る」「恋い慕う」のような辞書の見出し語として記載されるべきものである。

一方の動詞的二次語幹形は，語彙的複合動詞と同様，汎用形を基につくられるが，この汎用形に動詞型の二次語幹助辞が結合したものである。動詞語幹形はまず「待遇」「顧慮」「様態相」の 3 種類に大別され，「様態相」はさらに「動作相」「可能態」「願望態」「相互態」へと細分化される。そして，このうちの「動作相」は「段階相」「状態相」「過剰相」の 3 つのサブタイプから構成され，いわゆる一般的な後項動詞に該当する動詞がこの「動作相」に数多く分類されている。

以下に，城田が動作相動詞に分類した後項動詞を挙げる：

1. 動作相動詞
    1) 段階相動詞：動作・状態がいかなる遂行段階（はじめ，おわり，その中間）にあるかを示す。コトがうごきとしていかなる段階にあるかを示す。
        A) はじまりの段階相動詞
            a) 開始相動詞：～はじめる，～はじまる，～だす，～そめる，～つく
            b) 不完全起動相動詞：～かける，～かかる
        B) おわりの段階相動詞
            a) 終結相動詞：～おわる，～おえる
            b) 停止相動詞：～やめる，～やむ
            c) 完成相動詞：～あげる，～あがる，～ぬく，～とおす，～つくす，～はたす，～きる
        C) 継続相動詞：～つづける，～つづく
    2) 状態相動詞：何らかの程度に主体に言及しつつ，コト（動作・状態）の流れ

[25] 城田（1998: 96-97）は，日本語文法で使用される「連用形」という用語を使用せず，語幹の音声形である「汎用形」という用語を使用し，「固有の積極的文法意味を持たないのが，汎用形の固有の文法意味」であるとしている。

の様子を表す。

A) 習慣相動詞：～なれる，～つける，～ならわす

B) 旺盛・強化相動詞：～たてる，～まくる，～ちらす，～きょうじる，～まわる，～あるく，～かえる，～つめる，～はてる，～こくる，～つける，～しめる，～すえる，～こむ

C) 再行・修正相動詞：～かえす，～なおす，～あらためる

D) 添加相動詞：～たす，～くわえる，～そえる

E) 充足・倦厭相動詞：～たりる，～あきる，～くたびれる，～つかれる

F) 不首尾相動詞：～そこなう，～そんじる，～あやまる，～まちがう，～まちがえる，～ちがえる，～のこす，～おくれる，～そびれる，～はぐれる，～おとす，～もらす，～わすれる，～のがす

G) 渋滞・躁急相動詞：～なやむ，～あぐねる，～しぶる，～おしむ，～いそぐ，～あせる

3) 過剰相（～スギル）動詞：コトが標準的姿をはるかに越えて行われることを示す

2. 可能態（～エル）動詞：コト（うごき）が主体の持つ可能性や能力の範囲内にあることを示す

3. 願望態（～タガル）動詞：コトが主体（主に有情）の願望の中にあることを表に示すという意味を持つ

4. 相互態（～アウ）動詞：主体 X と全く同資格の主体 Y（競合主体）を持つコト S を表わす。

4.3. 他の言語との対照研究

動詞＋動詞型の複合動詞は日本語だけでなく，朝鮮語（韓国語），中国語，タイ語などアジアの複数の言語の中でも見られる現象である（松田 2004: 26）。これらのうち，朝鮮語における複合動詞に焦点を当て，日本語の複合動詞との対照研究を行ったものとして生越（1983）と李（1996）の研究がある。

4.3.1. 生越（1983）

日本語における生産性の高い複合動詞後項とその朝鮮語訳をもとに，生越は日本語の後項動詞を 2 種類に分類している。

I. 日本語の V_2 に対し，朝鮮語では副詞・副詞的語句と対応するもの（～終える，～終わる，～あげる，～すぎる，～つける，～続けるなど）

II. 朝鮮語では別の表現になる V_2（～かける，～得る，～遅れる，～落とす，～忘れる，～始める，～出すなど）

4.3.2. 李（1996）

李は，複合動詞を構成する日本語の後項動詞「～出す」と韓国語の後項動詞「~nay-ta」とを比較し，双方の間に意味の異同があることを指摘している。日本語の「～出す」は「移動」(持ち出す) と「開始」(泣き出す) をあらわすが, 韓国語の「～出す」に相当する「~nay-ta」は「移動」と「完遂」をあらわす。一方，日本語で「完遂」を表す後項動詞は「～きる，～ぬく」である。韓国語ネイティヴが日本語を学習する際,「完遂」の意味で「～出す」を使用してしまう原因を，李は上記の言語的特徴の中に認めている。

4.4. 小結

以上，日本語の複合動詞に関する先行研究をいくつか挙げた。

複合動詞の分類に関しては，本稿では影山（1993）および姫野（1999）が提案する分類，すなわち統語的複合動詞と語彙的複合動詞という分類を採用したいと考える。その理由を以下に述べる。

まず，本稿では日本語の複合動詞を収集する際,『複合動詞レキシコン』を使用した。この『複合動詞レキシコン』は国立国語研究所によって作成されたオンラインの複合動詞検索システムであり，ウェブ上で誰でも自由に閲覧することができる点，そして「動詞連用形＋動詞」型の複合動詞が網羅的に収録されているという点で非常に画期的な試みである（神崎 2013: 437）[26]。

この『複合動詞レキシコン』に収録されている複合動詞はもっぱら語彙的複合動詞である。つまり，複合動詞の分類に関して言えば,『複合動詞レキシコン』は，影山が提唱した理論が反映されたデータベースである（影山 2013: 12，神崎 2013: 438)。従って,『複合動詞レキシコン』を使用して複合動詞の収集を行う場合は，影山の理論に従うのが合理的である。これが第一の理由である。

第二の理由は，影山が「統語的複合動詞」に分類した複合動詞が持つ一種独特な語彙特性である。影山（1993: 96）は，統語的複合動詞を構成する後項動詞を「始動」「継続」「完了」「未遂」「過剰行為」「再試行」「習慣」「相互行為」「可能」という 9 つのグループに分類している。これらの意味を持つ後項動詞によって構成された統語的複合動詞をロシア語に訳す場合，訳し方のパターンはある程度固定されていると言える。例えば,「始動」を表す後項動詞が用いられている場合，複合動詞のロシア語訳には補助動詞的意味を持つ načat'（načinat'）あるいは stat'と不完了体動詞の不定形を用いた合成述語を用いることができる。

例.「働き始める」***načat'*** rabotat',「跳び始める」***načat'*** prygat',「這い出す」***stat'*** polzat'

「彼はあの工場で働き始めた」

On ***načal rabotat'*** na tom zavode.

「彼女は席に着くなり急いで食べ始めた」

Ona, kak tol'ko sela, pospešno ***načala est'***.

---

[26] なお,『複合動詞レキシコン』における複合動詞の見だし語数は 2700 語超である（神崎 2013: 438)。

この他，動詞接頭辞 PO-, RAZ-, VZ-, ZA-などを持つ接頭辞付加動詞によって始動の意味が表されることもある。

例.「駆け出す」pobežat',「歌い出す」zapet',「跳び始める」zaprygat'

「スタートの合図とともに皆が一斉に駆けだした」

So startovym signalom vse odnovremenno ***pobežali***.

「子供たちが元気に歌いだした」

Deti bodro ***zapeli***.

「時計に新しい電池を入れるとカチカチ鳴りだした」

Ja vstavil v časy novuju batarejku, i oni ***zatikali***.

また,「完了」の意味の統語的複合動詞のロシア語訳には, 補助動詞的意味を持つ“končit' / zakončit”を用いた合成述語や，動詞接頭辞 DO-, OT-, S-などを用いた接頭辞付加動詞が用いられる。

例.「書き終わる」zakončit' pisat',「走り通す」otbegat',「歌い尽くす」otpet'

「その書類を書き終えたら教えてください」

Soobščite mne, kogda ***dopišete*** (***zakončite pisat'***) te dokumenty.

「覚えている歌を全部歌い尽くしてしまった」

Ja ***otpela*** vse pesni, kotorye pomnila.

「これだけの量を彼はたった 5 分で食べきった」

Takoe količestvo on ***s''el*** (***zakončil est'***) vsego liš' za 5 minut.

この他,「継続」「未遂」「過剰行為」「再試行」「習慣」「相互行為」「可能」に該当する複合動詞の翻訳においても，訳語のヴァリアントはある程度固定されている。

- 継続（～まくる，～続ける）
  - ✓ 動詞 prodolžat'「～続ける」，継続の意味を表す副詞

    「彼は椅子に座らず立ち続けた」

    On ***prodolžal stojat'***, ne sadjas' na stul.

    「彼女は，時がたつのも忘れてしゃべりまくった」

    Ona ***bespreryvno boltala***, zabyv o vremeni.
- 未遂（～そこなう，～損じる，～そびれる，～かねる，～遅れる，～忘れる，～残す，～誤る，～あぐねる，～そこねる）
  - ✓ 動詞 uspet'「(時間的に）～できる，間に合う」と否定辞の併用，動詞 zabyt'「忘れる」，動詞接頭辞 NEDO-など

    「大事なことを言いそびれてしまった」

    Ja ***ne uspel skazat'*** važnuju vešč'.

「彼は何か言い残したことがあるようだ」

Vidimo, on čto-to ***nedoskazal***.

「調味料を買い忘れる」

Zabyt' kupit' specii.

- 過剰行為（～過ぎる）
  - ✓ 動詞接頭辞 PERE- / OB-（+ -SJA），余計の意味を表す副詞ないし補語

    「甘いものを食べすぎて気持ちが悪くなる」

    Posle togo, kak ***pereeš'*** (***ob''eš'sja*** / s"eš' ***sliškom mnogo***) sladostej, stanovitsja plocho.

    「私も少し言いすぎました」

    Ja tože nemnogo ***skazal lišnego***.
- 再試行（～なおす）
  - ✓ 動詞接頭辞 PERE-，動詞 povtorjat'「繰り返す」

    「一時間後に（電話を）かけなおします」

    Čerez čas ja vam ***perezvonju***.

    「さあ，改めて飲みなおそう」

    Davaj ***povtorim vypivku***.
- 習慣（～つける，～慣れる，～飽きる）
  - ✓ 動詞接頭辞 NA-，動詞 privykat'「習慣をつける，慣れる」

    「もうご馳走は食べ飽きた」

    Ja uže ***naelsja*** ugoščenij.

    「彼は筆記体を書き慣れている」

    On ***privyk pisat'*** pis'mennym stilem.
- 相互行為（～あう）
  - ✓ 動詞接頭辞 S-および接尾辞-SJA の併用，形容詞由来の drug を使った副詞

    「困った時はお互い助け合おう」

    V trudnuju minutu budem ***pomogat' drug drugu***.

    「君たちは何を言い合っているんだ」

    Što vy ***ssorites' drug s drugom***.
- 可能（～える，～うる）
  - ✓ 動詞 moč'

    「彼女はそんなことを知りえない」

    Ona ***ne možet znat'*** ob ėtom.

    「そういう状況は誰にでも起こりうる」

    Takaja situacija ***možet složit'ja*** u každogo.

このように，統語的複合動詞では前項動詞の語彙特性が後項動詞による影響をまったく，あるいはほとんど受けないため（影山 1993: 147），統語的複合動詞をロシア語へ翻訳する場合，ロシア語動詞の合成述語ないし特定の接頭辞付加動詞を使用することによって訳語ヴァリアントをある程度，固定することができる。

これに対し「語彙的複合動詞」では，2 つの単純動詞が結合して複合動詞となる際に，前項動詞の意味が後項動詞の性質によって限定されてしまう。端的な例で言えば，複合動詞「飲み歩く」，「飲み明かす」，「飲み交わす」，「飲み倒す」，「飲み潰れる」では，それぞれの後項動詞との結合によって，前項動詞「飲む」の対象が酒類に限定されている（影山 1993: 78）。

こうした語彙的複合動詞の意味に関する分類は複数の研究者によって行われており，前項動詞と後項動詞の意味的な関係性によって「手段」「様態」「原因」「並列」「補文関係」「副詞的関係」のような分類が試みられてきた（影山 2013: 6-7）。一方で，影山（2013: 11）はこうした従来の分類法とは別に，「V1（前項動詞）て，V2（後項動詞）する」という表現で言い換えられるか否かによって，2 種類の複合動詞，すなわち「主題関係（thematic）複合動詞」と「アスペクト的（aspectual）複合動詞」に区別することもできると提案している。「V1（前項動詞）て，V2（後項動詞）する」による言い換えが可能な主題関係複合動詞では，V1 と V2 がそれぞれ意味的な修飾，被修飾の関係にあるため，V2 が意味の中心的な役割を担っている。一方，「V1（前項動詞）て，V2（後項動詞）する」による言い換えができないアスペクト複合動詞では，V1 によって主語や目的語が選択されることから，V1 が意味の中心になっている（影山 2013: 12-16）。

これらの先行研究があることからも分かるように，語彙的複合動詞では前項動詞と後項動詞の意味的な関係性が非常に複雑であり，これに関しては統一的見解と呼べるものがまだ存在していないと言える。筆者のような，第二言語として日本語を学習する者が語彙的複合動詞の意味的な構造を理解しようとする時，統語的複合動詞よりも難解であるという印象を持ってしまうことは上記のことが関係していると思われる。

かくして，本稿では影山（1993）および姫野（1999）の中で挙げられていた分類法を採用し，語彙的複合動詞という用語，ならびに彼らの分類を使用することによって，ロシア語の動詞接頭辞との意味的な対応について考察を行う。

5. 日本語複合動詞後項とロシア語動詞接頭辞の対応

本稿第 5 章では，日本語の語彙的複合動詞を構成する後項動詞のうち，「～こむ」「～でる」「～だす」「～たつ」「～たてる」の 5 種類を対象とし，それらの後項動詞の訳語に使用される接頭辞付加動詞に関する統計的調査を行うことによって，これらの訳語として使用されうるロシア語の動詞接頭辞を特定する。

5.1. 調査対象と調査方法

まず，上記 5 種類の後項動詞を対象とした理由を述べる。

第一の理由は生産性である。国立国語研究所の『複合動詞レキシコン』の本データによれば[27]，語彙的複合動詞を構成する後項動詞のうち，生産性の高さに着目すると「～こむ」（253 語），「～あげる」（156 語），「～だす」（147 語），「～かえる」（122 語）などがあり，「～こむ」は生産性の高さで突出している。「～こむ」の生産性の高さについては姫野（1999: 59）も指摘しており，この生産性の高さの理由として，前項動詞が自動詞・他動詞のどちらであっても自由に結合できる点が挙げられている。また，後項動詞「～だす」もまた，生産性に関しては上位に位置していることが分かる。

第二の理由は，後項動詞間の意味的関係である。最も生産性の高い「～こむ」が持つ主要な意味のひとつに「内部への移動」がある。後項動詞「～だす」は「～こむ」と意味的に対極をなすものである。後項動詞「～だす」の自動詞のペアとも言える「～でる」もまた，「～だす」と同様の意味を持っているため，対象に含めた。

第三の理由は，特殊性である。姫野（1999: 208, 212）によれば，「～たつ」「～たてる」によって構成される複合動詞は全て語彙的複合動詞である。「～こむ」「～だす」に比べて「～たつ」「～たてる」の生産性はそれほど高くはないが，もっぱら語彙的複合動詞を形成するという一種独特な性質を考慮に入れた結果，研究対象とした。

次に，調査の手順と方法について述べる。

本稿で考察の対象とした複合動詞のデータは，国立国語研究所の『複合動詞レキシコン』に基づいて作成したものである。まず，『複合動詞レキシコン』に収録されている各種複合動詞の意味を『日本国語大辞典』で調べ，単義的な複合動詞のみならず，多義的な複合動詞が持つ複数の意味も明らかにした。その際，『複合動詞レキシコン』に収録されていた複合動詞のうち，『日本国語大辞典』の中に見出し語として収録されていないものは除外した。また，これとは逆のケースで，『複合動詞レキシコン』に収録されてはいなかったものの，『日本国語大辞典』の中で見出し語として収録されていた語彙的複合動詞はデータの中に取り入れた。これらの除外した複合動詞および取り入れた複合動詞の詳細に関しては本稿脚注 31 以降に記す。複合動詞の用例については，『日本国語大辞典』に掲載されてい

[27] 『複合動詞レキシコン』の本データは次の URL からダウンロードすることができる：http://vvlexicon.ninjal.ac.jp

るものの他に，日本語コーパスを適宜使用し[28]，各複合動詞の使用例の確認を行った。

ロシア語への訳出の際，既存の複数の和露事典[29]も参考にしたが，『日本国語大辞典』における定義・例文，および日本語コーパスにおける用例に基づいて，既存の訳語にとらわれないように心掛けた。

本稿における調査は，接頭辞付加動詞単体で訳出することができる訳語候補を対象としているため，訳語に接頭辞付加動詞が使用されていても，さらに動詞ないし副詞の併用が必要な訳語は調査の対象から除いた。また，ひとつの複合動詞に対して複数の接頭辞付加動詞が訳語として想定される場合は，その全てを訳語の候補とした。従って，ひとつの複合動詞が接頭辞付加動詞の訳語を複数持つケースが複数存在する。

上記の訳出作業の結果，対象とした複合動詞の数（A），接頭辞付加動詞を訳語に持つ複合動詞の数（B），および訳語に使用された接頭辞付加動詞の数（C）を表の形で示すと図表 2 のようになる。

[28] 使用したコーパスは以下のものである：国立国語研究所『少納言 KOTONOHA 現代日本語書き言葉均衡コーパス』（Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese）http://www.kotonoha.gr.jp/shonagon/，国立国語研究所，Lago 言語研究所（2015）『NINJAL-LWP for BCCWJ』http://nlb.ninjal.ac.jp/。

[29] 使用した和露辞典は以下のものである：藤沼貴編（2000）『研究社和露辞典』Japonsko-russkij slovar' : izd-va "Kenkjusja" / pod redakciej T. Fujinuma. 研究社.; Bol'šoj japonsko-russkij slovar' (2003) V 2 t. Pod redakciej N. I. Konrada. Izd. 3-e. Akademija nauk SSSR, Institut vostokovedenija. — M.: Izdatel'stvo «Sovetskaja ėnciklopedija».

図表 2．A, B, C それぞれの語の数

後項動詞	A	B	C
～こむ	228 語[30]	200 語[31]	606 語
～でる	38 語[32]	37 語[33]	110 語
～だす	112 語[34]	108 語[35]	354 語
～たつ	39 語[36]	38 語[37]	101 語
～たてる	53 語[38]	44 語[39]	159 語

この結果に基づいて，各動詞接頭辞が使用される割合を百分率で表した。百分率の算出方法は，ある動詞接頭辞を共有する接頭辞付加動詞の数を接頭辞付加動詞全体の数で割り，それに 100 をかけたものである。

$$\frac{\text{ある動詞接頭辞を共有する接頭辞付加動詞の数}}{\text{接頭辞付加動詞全体の数}} \times 100$$

なお，割合の数値については，小数点以下第二位で四捨五入を行い，第一位までを表示している。

各後項動詞の訳語に登場した接頭辞付加動詞に関する調査結果については次節で述べる。

---

[30] 『複合動詞レキシコン』に掲載されていた「～こむ」複合動詞の数は 256 語である。このうち，次の 24 語は『日本国語大辞典』に記載されていなかった：「洗いこむ」「うずめこむ」「うつしこむ」「写りこむ」「埋まりこむ」「埋もれこむ」「描きこむ」「えぐりこむ」「おがみこむ」「泳ぎこむ」「かぶせこむ」「気負いこむ」「くびれこむ」「困りこむ」「沈めこむ」「蓄えこむ」「食べこむ」「貯めこむ」「はいずりこむ」「弾きこむ」「浸しこむ」「含みこむ」「招きこむ」「やつれこむ」

[31] 訳語に接頭辞付加動詞が使用されない「～こむ」複合動詞は以下の 28 語である：「売りこむ」「思いこむ」「構えこむ」「鍛えこむ」「くけこむ」「削りこむ」「沈みこむ」「しゃがみこむ」「しゃれこむ」「じれこむ」「信じこむ」「すきこむ」「背負いこむ」「急きこむ」「攻めこむ」「炊きこむ」「頼みこむ」「怒鳴りこむ」「泊まりこむ」「泣きこむ」「練りこむ」「ふさぎこむ」「まつりこむ」「まぶしこむ」「滅入りこむ」「めりこむ」「詠みこむ」「よろけこむ」。

[32] 『複合動詞レキシコン』に掲載されていた「～でる」複合動詞の数は 60 語である。このうち，次の 12 語は『日本国語大辞典』に掲載されていなかった：「あゆみでる」「輝きでる」「こぼれでる」「さきでる」「さまよいでる」「しのびでる」「ずりでる」「漂いでる」「とけでる」「にげでる」「まいでる」「まよいでる」。

[33] 訳語に接頭辞付加動詞が使用されない「～でる」複合動詞は「よろけ出る」の 1 語である。

[34] 『複合動詞レキシコン』に掲載されていた「～だす」複合動詞の数は 138 語である。このうち，次の 13 語は『日本国語大辞典』に掲載されていなかった：「あばきだす」「いぶしだす」「おきだす」「けずりだす」「けりだす」「こぼれだす」「さらいだす」「しごきだす」「すかしだす」「とかしだす」「とけだす」「のがれだす」「もれだす」。

[35] 訳語に接頭辞付加動詞が使用されない「～だす」複合動詞は「売りだす」「醸しだす」「切りだす」「炊きだす」の 4 語である。

[36] 『複合動詞レキシコン』に掲載されていた「～たつ」複合動詞の数は 41 語である。このうち，「うねりたつ」「においたつ」は『日本国語大辞典』に掲載されていなかった。一方で，『日本国語大辞典』に見出し語として収録されていた「いきせきたつ」「おりたつ」「きりたつ」を新たにデータの中に含めた。

[37] 訳語に接頭辞付加動詞が使用されない「～たつ」複合動詞は「まいたつ」の 1 語である。

[38] 『複合動詞レキシコン』に掲載されていた「～たてる」複合動詞の数は 54 語である。このうち，「はしゃぎたてる」は『日本国語大辞典』に掲載されていなかった。一方で，『日本国語大辞典』に見出し語として収録されていた「おったてる」「ひきたてる」「もりたてる」を新たにデータの中に含めた。

[39] 訳語に接頭辞付加動詞が使用されない「～たてる」複合動詞は以下の 9 語である：「押ったてる」「騒ぎたてる」「しゃべりたてる」「攻めたてる」「責めたてる」「弾きたてる」「まくしたてる」「論じたてる」「わめきたてる」。

5.2. 各種後項動詞とロシア語動詞接頭辞の対応

まず，後項動詞の意味に関する辞書の記述および先行研究を参照することによって，各後項動詞の意味・機能がどのように説明されているのかを明らかにし，次に，複合動詞の訳語に使用される接頭辞付加動詞に関する統計的調査の結果を後項動詞ごとに表およびグラフの形式で提示する。

5.2.1. 「～こむ」複合動詞の訳語に使用される動詞接頭辞

国語辞典および複合動詞の先行研究における後項動詞「～こむ」の定義は以下のものである：

❑ 『日本国語大辞典』における「～こむ」の定義

【一】〔自マ五（四）〕

（3）動詞の連用形に付けて用いる。

イ) （自動詞に付けて）あるものの中に入る。「上がりこむ」「溶けこむ」「吹きこむ」「逃げこむ」など

ロ) 十分にする。過度にする。また，長く続ける。「走りこむ」「老けこむ」「煮こむ」「寝こむ」など

ハ) 心がとざされ，他をうけつけない状態でする。「考えこむ」「沈みこむ」「ふさぎこむ」など。

【二】〔他マ五（四）〕

（1）あるものの中に入れる。動詞の連用形に付けて用いられる場合も多い。「つめこむ」「かかえこむ」「流しこむ」「おしこむ」など。

❑ 姫野（1999: 59-82）における「～こむ」の定義

既に述べたように，「～こむ」は語彙的複合動詞を構成する後項動詞の中で最も高い生産性を持つ。これは，前項動詞が自動詞，他動詞のどちらであっても双方と自由に結合できるためである（姫野 1999: 59）。

姫野（1999: 62）は「～こむ」の意味を「内部移動」と「程度進行」の 2 つに大別し，それぞれをさらに細かな意味に分類している。内部移動は，主体あるいは対象が何らかの枠組みによって囲まれた領域の中へ移動することを表し，程度進行は動作や作用の程度が高まることによって密度の濃い状態へ達することを本質的な意味としている（姫野 1999: 69）。主体あるいは対象がどういう領域の中へどのように移動するかによって，姫野は「内部移動」を 7 つの意味タイプに分類し，また「程度進行」に関しては状態の変化の程度，動作の回数に着目することで 3 つの意味タイプを設定している。

➢ 語彙的複合動詞を構成する後項動詞「～こむ」の意味（姫野 1999: 62-73）

1) 内部移動（主体あるいは対象がある領域の中へ移動する）
   i. 閉じた空間：落ち込む，落とし込む
   ii. 個体：食い込む，打ち込む
   iii. 流動体：溶け込む，溶かし込む
   iv. 間隙のある集合体または組織体：混じり込む，混ぜ込む
   v. 動く取り囲み体：くるみ込む
   vi. 自己の内部（自己凝縮体）：くびれ込む，折り込む
   vii. その他：覗き込む
2) 程度進行（動作・作用の進行により程度が強まり，ある密度の濃い状態に達する）
   i. 固着化（人間の心理，生理，思考的現象。依然として前項動詞のままでいる）：黙り込む
   ii. 濃密化（状態変化の程度が進む）：老い込む
   iii. 累積化（人間の意志的行為。繰り返しが可能）：泳ぎ込む

❑ 城田（1998: 145-146）における「～こむ」の定義

城田は「～こむ」を「状態相動詞」[40]の中の「旺盛・強化相動詞」[41]に分類し，その意味を「コムはうごきが内的に深まることを示す。黙リコム，塞ギコム，老イコム」と記している。

『日本国語大辞典』，姫野の双方に共通しているのは，動作の方向が内部に向けられていること，そして動作の程度が亢進していることの二点である。一方，城田では，動作の物理的な方向性に関する言及はなく，もっぱら動作の程度亢進について説明を行っている。かくして，後項動詞「～こむ」には物理的な内部への移動および抽象的な内部への移動という二つの意味があると考えられる。

次に，「～こむ」複合動詞の訳出調査の結果を表（図表 3-1）およびグラフ（図表 3-2）の形式で提示する。図表 3-1 における列 A は，訳語として登場した接頭辞付加動詞の数を，列 B は接頭辞付加動詞全体に対する当該接頭辞の割合を示している。なお，動詞接頭辞の種類は RG-80 に準拠している。動詞接頭辞は基本形のみを表示し，異形態は省略した。そして，図表 3-1 における列 B の数値をグラフで表したものが図表 3-2 である。数値は全て%による表示である。

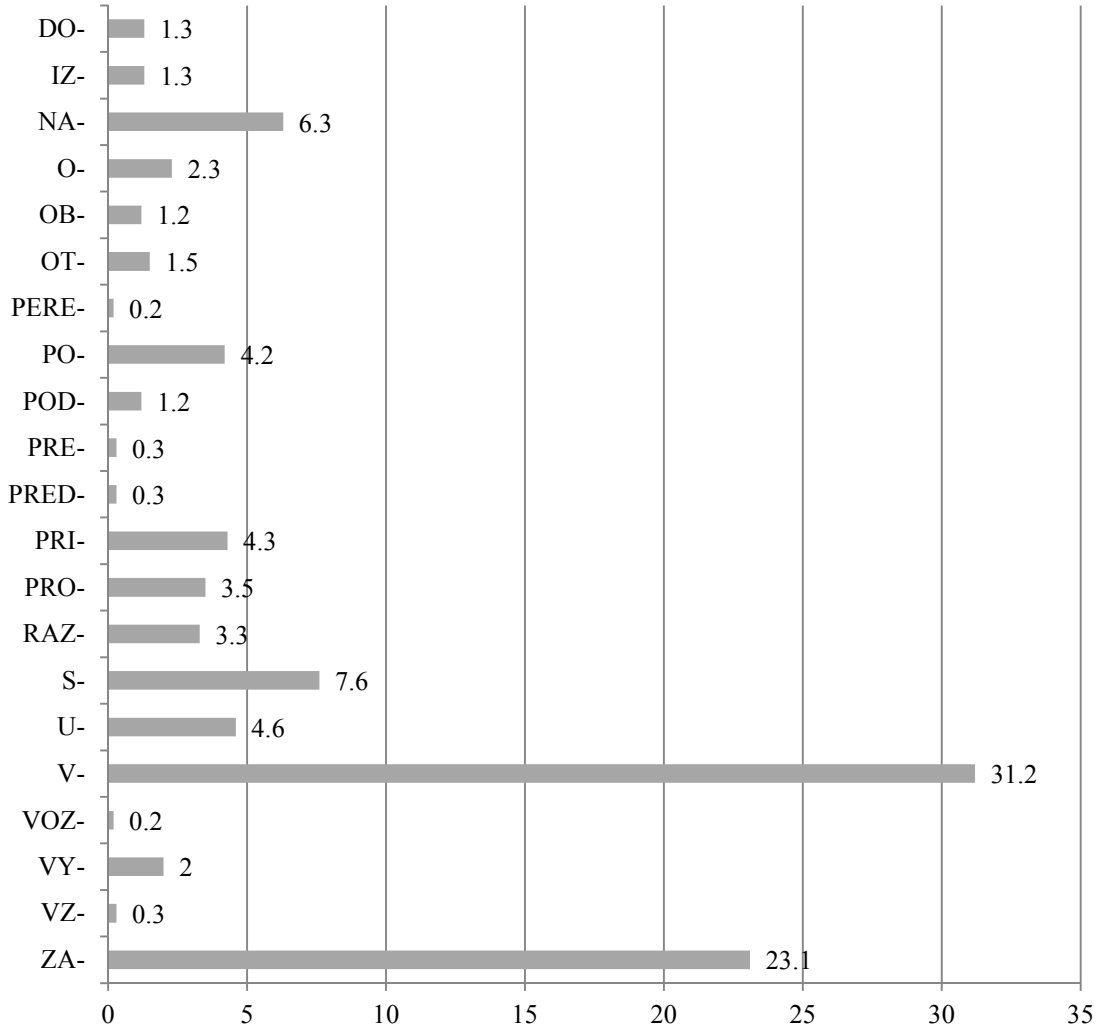
[40]「状態相は，何らかの程度に主体に言及しつつ，コト（動作・状態）の流れの様子を表す」（城田 1998: 143）。
[41] 「（旺盛・強化相動詞は）コト（うごき）が盛んに，勢いよく，純化されて行われることを示す」（城田 1998: 146）。

図表 3-1．語彙的複合動詞「～こむ」の訳語に使用された動詞接頭辞の数と割合[42]

ロシア語 動詞接頭辞	A	B (%)	ロシア語 動詞接頭辞	A	B (%)
DE-	-	-	PRE-	2	0.3
DIS-	-	-	PRED-	2	0.3
DO-	8	1.3	PRI-	26	4.3
IZ-	8	1.3	PRO-	21	3.5
NA-	38	6.3	RAZ-	20	3.3
NAD-	-	-	RE-	-	-
NEDO-	-	-	S-	46	7.6
NIZ-	-	-	SO-	-	-
O-	14	2.3	U-	28	4.6
OB-	7	1.2	V-	189	31.2
OT-	9	1.5	VOZ-	1	0.2
PERE-	1	0.2	VY-	12	2
PO-	25	4.2	VZ-	2	0.3
POD-	7	1.2	ZA-	140	23.1

[42] 本稿は，あくまで日本語の後項動詞とロシア語の動詞接頭辞の対応について考察するものであるから，統語的レベルで対応する訳語は図表の中に含まれていない。後項動詞「～こむ」から構成される語彙的複合動詞の訳語に使用された動詞接頭辞のうち，PERE-，VOZ-が使用されるケースはそれぞれ 1 例，PRE-，PRED-，VZ-が使用されるケースはそれぞれ 2 例であったが，いずれも後項動詞と動詞接頭辞が対応する例である。例．80.「ずれ込む」**pere**nosit'sja：ある物事の時期がずれて，別の時期にはいったりかかったりする。「海外出張は秋にずれ込んだ」Zagraničnaja komandirovka ***pereneslas'*** na osen'. ; 2.「当て込む」**pred**vkušat'：（1）あてにする。うまい結果になることを期待する。また，それを期待して行動する。「伯父の援助を当て込んで事業を始めた」***Predvkušaja*** material'nuju podderžku djadi, on načal delo. ; 187.「見込む」**pred**polagat'：【一】〔他マ五（四）〕 （5）予想して勘定に入れる。あらかじめ考慮しておく。「道路の混雑を見込んで早めに出掛けた」***Predpoloživ***, čto na dorogach budut zatory, ja vyšel poran'še. なお，このことは本稿で扱った他の後項動詞についても該当する。

図表 3-2．接頭辞付加動詞全体における各動詞接頭辞の割合（～こむ）



以下に，接頭辞付加動詞を訳語に使用しうる「～こむ」複合動詞 200 語と，訳語として使用可能な接頭辞付加動詞 606 語のデータを示す。なお，各複合動詞の定義は全て『日本国語大辞典』に従っている。

「～こむ」複合動詞とその訳語

1.　「上がり込む」

（1）上がってすわる。強引に家の中などにはいる。

vvalivat'sja, zachodit'

（2）昼間に強盗に入ることをいう、盗人仲間の隠語。

2.　「当て込む」

（1）あてにする。うまい結果になることを期待する。また、それを期待して行動する。

rasščityvat', predvkušat'

（2）「あてこみ（当込）（2）」をする。人の受けをねらうこと。演劇などで、最近の事件や話題などを、脚本または、せりふ、しぐさにそれとなく取り入れて客受けをねらうこと。場当たり。

（3）（剣道などで）相手に当たるぐらいに打ち込む。

（4）被害者をさがすことをいう、てきや仲間の隠語。

3.　「暴れ込む」

暴れながら家や人ごみの中へ押し入る。

vryvat'sja, vlamyvat'sja

4.　「編み込む」

模様や図案などを他の色の毛糸などで編んで組み込む。編み入れる。

vpletat', zapletat'

5.　「射込む」

（1）矢または弾丸を、射て、ねらう物の中に入れる。射入る。

vystrelivat'

（2）（比喩的に用いて）光、視線、言葉などを、鋭く、突然、物や人に向かって放ち入れる。

6.　「鋳込む」

金属を溶かして鋳型（いがた）の中に流し込む。

otlivat', zalivat'

7.　「入れ込む」

（1）他のものの中に入れて、位置させる。

zapravljat', zasovyvat', raspologat'

（2）上方の遊里で、見習期間である入れ込み（3）が終わって新造にする。

8.　「植え込む」

（1）草木などを集中的に植える。

zasaživat'

（2）物を、他の物の中にはめこむ。しっかりとはめる。

vstavljat', vkladyvat'

9.　「歌い込む」

（1）歌詞や歌唱の中に、ある言葉や考え、感情などを盛り込む。

vospevat', prevoznosit'

（2）十分に歌う。何度も歌う。　「歌い込んだ曲」

（3）意見、意志などをはっきり表わしたり書き記したりする。

podčërkivat', raz"jasnjat'

10.　「打ち込む」

【一】〔他マ五（四）〕

（1）相手の体に、刀を切り入れる。また、剣道、ボクシングで、相手に打ってかかる。

（2）たたいたり、突いたりして物を中へ入れる。

vbivat', vkolačivat', vgonjat'

（3）（「うち」が接頭語化した場合が多い）勢いよく投げ入れる。ほうり込む。

（4）弾丸などを打って敵の軍や陣などへ入れる。また、球技で相手の陣へ球を打ち入れる。

vystrelivat', obstrelivat'

（5）ある事に金をつぎこむ。

vkladyvat', vlivat'
（6）（「うち」は接頭語）深く心を寄せる。自分の気持を注ぎ込む。
uvlekat'sja, pogružat'sja
（7）（「うち」は接頭語）相手の急所を突いて言い負かす。やりこめる。
（8）（（1）の比喩的用法）頭や心に強く入れる。
（9）（「うち」は接頭語）能楽で、手を前方へ出すと同時に袖を手の外側から内側へ巻きつける型をする。
（10）能楽、歌舞伎などで、太鼓や鼓などの演奏を入れる。
（11）打つことをじゅうぶんに行なう。また、野球などでさんざんに相手を打つ。
（12）囲碁で相手の陣へ石をおろす。また、相手に何番か続けて勝つ。
【二】〔自マ五（四）〕
（1）順序なく入り交じる。ごちゃごちゃと集まる。
（2）馬が乗り手を落とそうとして首を両脚の間に入れて進む。
（3）（波が）押し寄せる。水がどっとはいってくる。
11.　「うつむき込む」
顔を下へ深く伏せる。
poniknut', potupit'sja
12.　「埋め込む」
物の一部、または全部を土の中などに入れこむ。
zaryvat', zakapyvat', zasypat'
13.　「老い込む」
年をとって身心がすっかり衰える。老衰する。ふけこむ。
odrjachlet', sostarit'sja
14.　「追い込む」
（1）人や生き物を、きまった場所に追い立てて入れる。追い入れる。おいこめる。
zagonjat'
（2）罪科のある者を家などに閉じこめて、その出入りを禁ずる。籠居（ろうきょ）させる。おしこめる。おいこめる。
zatvorjat'
（3）病気や病毒を体外に出さないで内部にこもらせる。
zablokirovat'
（4）相手がどうしても苦しい立場に立たなければならないようにさせる。おいこめる。
（5）競争の最終段階で、先行する競争相手を激しく追いかける。
dogonjat'
6）編集・印刷関係で、行や頁を改めず、前に続けて活字を組む。「改行せずに追い込む」
（7）取引相場で、盛んに売りに出て値を下げることをいう。〔取引所用語字彙｛1917｝〕
15.　「覆い込む」
すっかり覆う。つつみこむ。
pokryvat', nakryvat', zastilat'
16.　「送り込む」
（1）人や物を送っていって目的の所に確かに届ける。送り届ける。
posylat', otpravljat'
（2）組織の中に必要な人員を出して、ある地位につける。
posylat', otpravljat'
17.　「押さえ込む」
（1）おさえて動けないようにする。
podavljat', presekat', uderživat'
（2）柔道で、相手に「おさえこみ」のわざをかける。
（3）野球で、投手が好投して相手の打撃を封じる。

presekat'
18.　「教え込む」
十分に教える。念を入れて教える。教えて馴らす。
vtolkovyvat'
19.　「押し込む」
【一】〔自マ五（四）〕
（1）大勢の者が狭い所にむりにはいりこむ。ぎゅうづめになる。びっしりつまる。
nabivat'sja, vtiskivat'sja
（2）人の所に当人の意向を無視して文句を言いになど、むりやりはいりこむ。おしいる。おしかける。侵入する。
vlezat', vryvat'sja, vlamyvat'sja
【二】〔他マ五（四）〕
（1）（物を）押し付けて入れる。狭い所にむりに入れる。
vtalkivat', vsovyvat', vtiskivat', vpichivat', zasovyvat', zapichivat'
（2）狭い所に入れて自由に外出させないようにする。監禁する。とじこめる。
zapirat', zaključat'
20.　「落ち込む」
（1）落ちて低い所や物の中にはいる。はまる。
vvalivat'sja
（2）深くくぼむ。一段と低くなる。
osedat', vvalivat'sja, zapadat'
（3）よくない状態になる。
（イ）ある程度より低い状態になる。
snižat'sja, ponižat'sja
（ロ）心を奪われて動きのとれない状態になる。おちいる。「危険におちこむ」
vpadat'
（4）自然に手にはいる。
svalivat'sja
（5）納得する。わかる。
（6）気持が暗くなる。気分の沈んだ状態になる。
（7）取引相場で、基準値段や円台より下がる。台を割る。相場が予想以上の水準に下落する。
snižat'sja, ponižat'sja
21.　「落とし込む」
（1）落下させて、ある物の内に入れる。
vbrasyvat'
（2）めりこむようにする。
osedat', uvjazat'
（3）はかりごとや罪におとしいれる。他人をあざむいておとしいれる。はかる。
（4）ある好ましくない状態に引き入れる。おとしいれる。
zamanivat', vovlekat', vvergat'
22.　「躍り込む」
（1）とび上がるようにして、勢いよく中へはいる。おどりいる。とびこむ。
vryvat'sja, vskakivat', vletat'
（2）強盗にはいる。
naletat'
23.　「覚え込む」
知識などを頭の中へ入れる。また、技術などを身につける。
zaučivat'
24.　「織り込む」
（1）織物を織るときに、金銀糸など地質と異なる糸をまぜて模様を入れる。
vpletat', vtykat'
（2）一つの物事の中に、別の物事を組み入れる。盛り込む。加味する。
vstavljat', vkladyvat', vključat'
（3）取引相場で好悪の材料が相場にすでに反映していることをいう。〔現代術語辞典

｛1931｝〕
25.　「折り込む」
（1）折って中に入れる。中の方に折る。
skladyvat', zagibat'
（2）他の物の中に一緒に折り入れる。新聞などを折るとき、広告用のちらしなどをはさみ込む。
vkladyvat', podvërtyvat', zavërtyvat'
（3）傍から口を入れる。差し出口をする。
26.　「折れ込む」
（1）針などの折れた先が、中にはいる。
（2）胎内に子を宿す。妊娠する。また、体内にやどる。
（3）内側に折れ曲がる。
zagibat'sja, sgibat'sja
27.　「買い込む」
（1）物を買って自分の物とする。特に、将来のことを見越して多く買う。
nakupat', zakupat', skupat'
（2）物の価値を十分に認める。
（3）買収する。
pokupat', zakupat'
28.　「掻い込む」
【一】〔他マ四〕
（1）自分のほうへかき寄せる。手元にかき集める。
zagrebat', sgrebat'
（2）手元に引き寄せてかかえこむ。脇の下へかかえこむ。
（3）水などを汲み入れる。また、俵などにものを詰め込む（改正増補和英語林集成｛１８８６｝）。
【二】〔他マ下二〕　【一】に同じ。
29.　「抱え込む」
（1）腕でかこむようにして、からだにつけてしっかり支え持つ。両腕で持つ場合も、片腕で脇の下に持つ場合にもいい、また、比喩的に地形についてもいう。
（2）おもに自分が使用するものとして、自分の領域内に持ちこむ。
zachvatyvat'
（3）担当、処理すべきものとして引き受ける。
30.　「かがみ込む」
体を前に曲げてうずくまる。しゃがみ込む。
naklonjat'sja, sklonjat'sja
31.　「書き込む」
（1）書き加える。書き入れる。記入する。
vpisyvat', vstavljat'
（2）借金の抵当物件を証文に書く。書き入れる。
32.　「掻き込む」
（1）「かいこむ（掻込）【一】（1）」に同じ。自分のほうへかき寄せる。手元にかき集める。
zagrebat', sgrebat'
（2）「かいこむ（掻込）【一】（2）」に同じ。手元に引き寄せてかかえこむ。脇の下へかかえこむ。
（3）飯をかき寄せて口の中へ入れるようにして食べる。飯を急いで食べる。かっこむ。
pogloščat'
33.　「隠し込む」
人に知られないように、ある所にしまい入れる。
zaprjatyvat', sprjatat'
34.　「駆け込む」
（1）走って中にはいりこむ。走りながらはいってくる。
vbegat', vryvat'sja
（2）駆け込み訴えをする。
（3）許可もなく先方の所へ行く。押しかけ

る。のりこむ。
vryvat'sja, vlezat'
35.　「囲い込む」
【一】〔他マ五(四)〕囲って中にとり込む。
ogoraživat', obnosit'(zaborom), zachvatyvat', prisvaivat'
【二】〔他マ下二〕　【一】に同じ。
36.　「担ぎ込む」
(1) 物を肩や背にになって運び入れる。
vnosit'(na plečach, na spine)
(2) 処置してもらうために事件や仕事などを持ち込む。多く、やっかいな物事の場合にいう。
37.　「刈り込む」
【一】〔他マ五(四)〕
(1) 草木の枝葉、または頭髪を刈って手入れをする。
podstrigat'
(2) 刈り取って貯蔵する。
skašivat', sžimat'
(3)(文章などの)不要な部分を削り取って、全体を整える。
vyčërkivat', isključat', urezat'
【二】〔他マ下二〕　【一】(1) に同じ。
38.　「借り込む」
金や物などを借り入れる。
zanimat'
39.　「考え込む」
物事を深く考える。また、なやんであれこれと考える。考えいる。
zadumyvat'sja
40.　「聞き込む」
(1) 聞いて知る。情報などを他から聞き出す。
razuznavat', vypytyvat', uznavat'
(2) 繰り返し十分に聞く。
41.　「着込む」
【一】〔他マ下二〕　表面に現われないように内側にこめて着る。髪を襟から上着の下に入れて衣服を着る。
【二】〔他マ五(四)〕　(1) 衣服をたくさん重ねて着る。また、衣服の下に鎧(よろい)、鎖帷子(くさりかたびら)などを重ねて着る。
ukutyvat'sja, zakutyvat'sja
(2) あらたまった衣服、また、普段と異なった衣服を身につける。
42.　「刻み込む」
(1) 細かく切って他のものの中に入れる。
narezat', porezat'
(2) 文字や模様などを彫りつける。刻みつける。
vyrezat', vygravirovat'
(3) 心に深く印象づける。きざみつける。
(4) ある状態のままずっと時を過ごす。
43.　「決め込む」
(1) 中にはいる物が、入れ物にすきまなくうまく合うように入れる。ぴたりとはめ込む。
vstavljat', vkladyvat'
(2) はっきり決める。きちんと決めてしまう。
(3) 事実や事の有りように関係なく、そうと決める。思い込む。ひとりぎめにする。
(4)(「…を決め込む」の形で)事情はどうあろうと、ある行動や態度を押し通す。きめる。また、そうすることにする。
pritvorjat'sja, prikidyvat'sja
(5) 自分がそうであるつもりになる。得意になってあるふりをする。きどる。
pritvorjat'sja, prikidyvat'sja
(6) 強く非難する。また、きつい調子で一

方的に言う。きめつける。
44.　「切り込む」
【一】〔自マ五（四）〕　（1）深く切る。鋭くはいりこむ。
（2）踏み込んで切る。進み入って切る。
3）刀を抜いて敵の中へはいりこむ。
（4）問いつめる。鋭く追究する。また、激しく詰め寄る。
rassprašivat', doiskivat'sja
【二】〔他マ五（四）〕　（1）切ってはめ込む。建築用に材木を切って適合させる。
（2）切って入れる。
45.　「切れ込む」
（1）刃物などで切ったあとが深く中にはいる。きりこむ。
vrezat'sja
（2）はいって行く。はいりこんで行く。
vchodit', vrezat'sja
（3）切ったように鋭く裂け分かれたり、食い込んだりする。
vrezat'sja, v"edat'sja
（4）収支決算が赤字になる。欠損を生じる。
46.　「食い込む」
（1）他の物の中に深く入りこむ。めりこむ。
vrezat'sja, v"edat'sja
（2）他の領域、範囲にはいりこむ。侵入する。
vlamyvat'sja, vtykat'sja, pronikat'
（3）強いまなざしで見つめる。食い入る。
vpivat'sja, v"edat'sja
（4）収入が少ないのに、支出が多いため、所持金やもとでが減る。
（5）捕えられることをいう、盗人仲間の隠語。
47.　「くぐり込む」
身をかがめて物の下や狭いところなどにはいる。
prolazit', vlazit'
48.　「くぼみ込む」
深くへこむ。
vpadat', vvalivat'sja
49.　「汲み込む」
（水、酒などをすくって）器の中に入れる。汲み入れる。
nalivat'
50.　「組み込む」
（1）あるものを全体の一部としてその中に入れる。
vpletat', vstavljat', vključat'
（2）仲間に入れる。組織などに加入させる。
vključat', začisljat'
51.　「食らい込む」
【一】〔他マ四〕
（1）勢いよく口に入れる。
pogloščat'
（2）迷惑な事を負担する。厄介な事をしょいこむ。
vzvalivat'
【二】〔自マ五（四）〕
（1）はまりこむ。熱中して深入りする。
uvlekat'sja
（2）捕えられて牢獄、刑務所にはいる。拘引される。
52.　「繰り込む」
【一】〔自マ五（四）〕　（1）順にはいりこむ。
vchodit'（po očeredi）
（2）大勢でそろってはいりこむ。
【二】〔他マ五（四）〕　（1）順次に送り入れる。また、多くの人々を送り入れる。
（2）手元へたぐりよせる。
（3）他のものにくみいれる。くりいれる。

vključat', začisljat', vovlekat'
（4）端数を切り上げて上の位に入れる。
53.　「くるみ込む」
中につつみ入れる。
zavërtyvat', zakutyvat'
54.　「くわえ込む」
（1）奥深くくわえる。
zachvatyvat'（v rot), zachvatyvat'（v zuby）
（2）ある場所へ人を連れ込む。
privodit', vvodit'
55.　「蹴り込む」
蹴ってなかに入れる。蹴り込む。
zagonjat'（nogoj), skidyvat'（nogoj）
56.　「こごみ込む」
前かがみにかがみこむ。
naklonjat'sja, sklonjat'sja
57.　「こすり込む」
こすってしみこませる。こすり入れる。
vtirat'
58.　「転がり込む」
（1）ころがってはいってくる。ころがりながらはいりこむ。また、倒れてはいってくる。ころげこむ。ころびこむ。
zakatyvat'sja
（2）あわてふためいてはいりこむ。ころげこむ。
zakatyvat'sja
（3）生活に困ったりして、他の家にはいり世話になる。他人の厄介になるためにはいりこむ。ころげこむ。
（4）予期していなかった物事、特に大金などが急に手にはいる。思いがけなく手にはいる。ころげこむ。
podvërtyvat'sja, pojavljat'sja, dostavat'sja, popadat', svalivat'sja
59.　「転げ込む」
（1）「ころがりこむ（転込）（1）」に同じ。
（1）ころがってはいってくる。ころがりながらはいりこむ。また、倒れてはいってくる。ころげこむ。ころびこむ。
zakatyvat'sja
（2）「ころがりこむ（転込）（2）」に同じ。
（2）あわてふためいてはいりこむ。ころげこむ。
zakatyvat'sja
（3）「ころがりこむ（転込）（3）」に同じ。
（3）生活に困ったりして、他の家にはいり世話になる。他人の厄介になるためにはいりこむ。ころげこむ。
（4）「ころがりこむ（転込）（4）」に同じ。
podvërtyvat'sja, pojavljat'sja, dostavat'sja, popadat', svalivat'sja
60.　「差し込む」
【一】〔他マ五（四）〕　（1）物の中やすきまなどにはめ入れる。また、つき入れる。
vkladyvat', vstavljat', vtykat'
（2）脇から口出しする。はたから知恵をつける。入れ知恵をする。
（3）遊里で、茶屋、揚屋の方で芸娼妓などを指名して客に勧める。
（4）客が芸娼妓や幇間（ほうかん）などを指名して呼ぶ。
【二】〔自マ五（四）〕
（1）胸や腹などが物がさし入るように烈しく痛む。きりきりとひどく痛む。癪（しゃく）をおこす。
sžimat'sja
（2）光が入りこむ。
vchodit', vlivat'sja, pronikat'
（3）満潮の際に水量が増して海水が入ってくる。
vlivat'sja

【三】〔他マ下二〕【一】（1）に同じ。
vkladyvat', vstavljat', vtykat'
61.　「誘い込む」
さそって中に入れる。
zavlekat'
62.　「錆び込む」
金属の表面の酸化がかなり進む。ひどくさびる。
zaržavet'
63.　「さまよい込む」
あてもなく歩いて入り込む。
zabretat'
64.　「さらい込む」
川・池・井戸などの底にたまっているものをすくうように取り、ある物の中に入れる。
vyčiščat'（dno）
65.　「敷き込む」
一面に敷きつめる。
rasstilat', zastilat'
66.　「しけ込む」
（1）こっそりはいり込む。遊郭、料理屋などにはいり込む。また、男女がいっしょに泊る。
（2）金がないために家でじっとしている。
otsiživat'sja（doma）
67.　「忍び込む」
人目につかないようにひそかにはいりこむ。しのびいる。
prokradyvat'sja, zabirat'sja（ukradkoj）, pronikat'
68.　「絞り込む」
（1）「しぼりいれる（絞入）」に同じ。
vyžimat', vydavlivat'
（2）多くのものの中から、対象となるものをある基準によって選び、一定の数まで減らす。「最終的な候補をしぼりこむ」
otbirat', ograničivat'
69.　「仕舞い込む」
物などを人目につかない所にしまう。
zaprjatyvat'
70.　「染み込む」
（1）液体、匂い、色素などがゆっくりと物の中に深く浸透する。中に深くしみる。しみいる。
vpityvat'sja, prosačivat'sja, propityvat'sja
（2）（比喩的に）人々の間や心の中などに次第に深くゆきわたる。しみいる。
zapolnjat'
71.　「締め込む」
（1）帯など、体につけたものをかたくしめる。
zatjagivat', sžimat', zakručivat', svjazyvat'
（2）肉体の関係を結ぶ。
（3）食物をつめ込む。無理にたくさん食べる。
（4）物事をうまいぐあいに運ぶ。
72.　「しゃべり込む」
いつまでもしゃべる。その場を動こうともしないでたっぷり話す。
zaboltat'sja, uboltat'sja
73.　「しょげ込む」
「しょげかえる（悄気返）」に同じ。
すっかりしょげてしまう。ひどくしょげる。しょげきる。しょげこむ。しょうげかえる。しょげりかえる。
ogorčat'sja
74.　「吸い込む」
（1）吸って、中へひき入れる。液体や気体を吸い入れる。
vbirat', vtjagivat', vsasyvat', vpityvat'
（2）（比喩的に）泥深い水、奥深い穴、暗やみなどが、人や物をひき入れたりつつみ

込んだりする。
vtjagivat', vtaskivat'
（3）仲間に引き入れる。遊びなどに誘い込む。
vtjagivat', vovlekat', vvjazyvat', vputyvat'
75.　「すすり込む」
（1）液汁を、音を立てて口に吸い入れる。
vtjagivat', vsasyvat'
（2）垂れた涙や鼻汁を息とともに吸い入れる。
vtjagivat', vsasyvat'
76.　「滑り込む」
「すべりこむ（滑込）」に同じ。
（1）すべって中にはいる。すべるようにしてそっとはいる。するするとはいる。
proskal'zyvat'
（2）野球で、走者がタッチ - アウトをさけるためにすべって塁にはいる。
proskal'zyvat'
（3）やっとのことで時刻に間に合う。
（4）取引市場で、相場が急に下落する。
77.　「住み込む」
（1）使用人、奉公人または書生、弟子などになって、主人の家に住む。
（2）他人の家にはいりこんで生活する。
poseljat'sja
78.　「擦り込む」
こすってしみこませる。こすり入れる。
vtirat'
79.　「刷り込む」
印刷すべき面に刷り入れる。また、同じ印刷面に、他のものと共に印刷する。
vpečatyvat'
80.　「ずれ込む」
ある物事の時期がずれて、別の時期にはいったりかかったりする。
otkladyvat'sja, otsročivat'sja, perenosit'sja
81.　「座り込む」
中にはいりこんで、すわる。はいりこんで腰をすえる。また、ある場所にすわって、動かなくなる。じっくりと腰をすえる。
usaživat'sja, zasiživat'sja, prosiživat'
82.　「咳き込む」
（咳込）息ができないほど続けて咳をする。咳が続けさまに出る。せきいる。
zakašlivat'sja
83.　「注ぎ込む」
（1）流し入れる。そそぎ入れる。
zalivat', nalivat'
（2）情熱、関心等をあることに傾ける。
ustremljat', skoncentrirovat'
84.　「剃り込む」
毛の生え際から深く剃る。
sbrivat'
85.　「倒れ込む」
たおれて中にはいる。倒れ入る。
oprokidyvat'sja, obrušivat'sja
86.　「抱き込む」
（1）うでの中にかかえいれる。かかえこむ。
zachvatyvat'
（2）自分の仲間に引き入れる。うまく味方にする。抱きいれる。
vovlekat', privlekat'
（3）まきぞえにする。
vovlekat', vputyvat'
87.　「たくし込む」
（1）物を引き寄せて入れる。たぐって自分の手もとに入れる。自分のものとする。
（2）着物のすそをはしょって帯の下にはさみこむ。また、シャツなどのすそをズボンやスカートの中へおし込むようにして入れる。

zapravljat'
88.　「たぐり込む」
（1）たぐって自分の手もとにとり入れる。たぐって手もとに引き寄せる。
vtjagivat'
（2）だんだんに他人のものをとってわがものにする。
zachvatyvat'
89.　「叩き込む」
（1）打って物を中に入れる。打ち込む。
vbivat', vtalkivat'
（2）乱暴に投げこむ。つっこむ。ぶちこむ。
zabrasyvat'
（3）修業を積む。年季を入れて技量などを修得する。
（4）精神、知識、技術などをしっかり身につくように教えこむ。よくのみこませる。
dovodit'
（5）取引市場で、売りたたいて相場を下げる。〔取引所用語字彙｛1917｝〕
90.　「畳み込む」
（1）たたんで中に入れる。
skladyvat', vkladyvat'
（2）心の中に深くおさめ込む。心の中に秘めておく。また、心にしっかり刻み込む。
zapečatlevat'
（3）十分納得し了解する。のみこむ。了解して引き受ける。
schvatyvat', prinimat'
91.　「建て込む」
（3）家などがぎっしりと立ち並ぶ。
zastraivat'sja
92.　「立て込む」
（1）こみあう。また、多人数が一か所に集まって、混雑する。
nagromoždat'sja
（2）たくさんの用事、仕事などが一時に重なる。予定、日程などがぎっしり詰まる。
93.　「騙し込む」
うまくだます。すっかりだます。
naduvat', provodit'
94.　「黙り込む」
全く沈黙してしまう。一言も言わなくなる。
zamolkat'
95.　「たらし込む」
【垂込】
液体を少量ずつしたたらして入れる。したたらせながら入れる。
vpuskat', zakapyvat'
【誑込】
甘言や色仕掛けで、すっかりだます。まんまとたぶらかす。うまうまとだまして自分のものとする。
naduvat'
96.　「垂れ込む」
【一】〔他マ五（四）〕
（1）たらしいれる。小便や大便をたれる。
（2）密告する。秘密を人に話す。
donosit'
【二】〔自マ四〕女にでれでれするの意の、不良仲間の隠語。〔隠語輯覧｛1915｝〕
【三】〔自マ下二〕＝たれこめる（垂込）。
（1）すだれやとばりをたれてとじこもる。戸などをしめて家の中にこもる。
zapirat'sja
（2）雲やすだれなどが低くたれ下がってまわりをおおう。
97.　「談じ込む」
要求などを受け入れてほしいと強く言い入れる。
zajavljat'
98.　「散り込む」

（1）花や葉などが散って、中に舞いこむ。
zaletat'
（2）他人から物品を貰う意をいう、てきや・盗人仲間の隠語。〔日本隠語集｛1892｝〕
99. 「使い込む」
（1）自分のものでない金銭をかってに私用で使う。まかされた金銭をひそかに消費する。
prisvaivat', obkradyvat'
（2）予算以上に使ってしまう。予定以上の金銭を使う。
istračivat'
（3）器具などをぐあいよくなるまで使いならす。また、人を、慣れるまで長い間使う。
upotrebljat', ispol'zovat'
100. 「漬り込む」
もう抜け出せないほどにすっかり漬かっている。
uvlekat'sja
101. 「突き込む」
【一】〔他マ五（四）〕 〔一〕（突込）「つっこむ（突込）【一】」に同じ。
（1）勢いよく突入させる。突進させる。
vryvat'sja
〔二〕（搗込） （1）餅に他のものを入れてつく。
（2）醸造するためにしこむ。
【二】〔自マ五（四）〕 （突込） 「つっこむ（突込）【二】」に同じ。
（2）勢いよく入れる。また、すっぽりと入れる。
vsovyvat', zasovyvat', vtalkivat', vkolačivat', pogružat'
【三】〔他マ下二〕 （築込） ＝つきこめる（築込）。
（1）土石などを築いて、または土石などで口をふさいで中になにかを押し込める。
vtalkivat', zasypat', zasovyvat'
（2）塚を築いて屍を埋める。
zakapyvat'
102. 「つぎ込む」
（1）器の中などに液体をつぎ入れる。そそぎこむ。
vlivat'
（2）知識などを頭に入れる。つめこむ。
（3）人や事業・遊びなどに多くの物や金を出す。
vkladyvat'
103. 「付け込む」
【一】〔自マ五（四）〕 （1）相手の気持やすきに乗じて、自分の有利をはかる。好機をとらえてうまく利用する。つけいる。
（2）あらかじめ約束しておく。前もって申し込む。
【二】〔他マ五（四）〕 （1）跡をつけてゆく。また、あとを追ってそのまま相手の家などに入る。つけいる。
（2）荷物などを運び込む。
vnosit'
（3）仕分けをしないで、次々と帳面にしるす。書き込む。
zapisyvat', vnosit', vpisyvat'
104. 「漬け込む」
野菜などを漬物にする。漬物を桶（おけ）などに漬けておく。
zamačivat', vymačivat'
105. 「突っ込む」
【一】〔他マ五（四）〕 （1）勢いよく突入させる。突進させる。
vlamyvat'sja, vryvat'sja
（2）勢いよく入れる。また、すっぽりと入れる。

vsovyvat', zasovyvat', vtalkivat', vkolačivat', pogružat'

（3）全部のものをへだてなくいっしょにする。二つ以上のものをつき混ぜる。ならす。平均する。

（4）なかに取り入れる。奥底まで入れる。特に、飲食物を腹中に詰めこむ。

zasovyvat', vtalkivat'

（5）弱点や問題の核心などを鋭く指摘して迫る。押し迫る。

【二】〔自マ五（四）〕 （1）勢いよく中にはいる。無理に押し入る。突進する。はいりこむ。

vchodit', vlamyvat'sja, vryvat'sja

（2）ものの内面に深くはいりこむ。一つのことに深くかかわりあう。また、弱点や核心に触れるようにする。

（3）一段と深刻に演技する。転じて、ことさらに感情を込めた声で歌ったり呼んだりする。

（4）めりこむ。落ちこむ。

vstavljat', vsovyvat', osedat', uvjazat', vvalivat'sja

（5）取引市場で、相場が下落する。勢いに乗じて売り進む。安値にかまわず売りこむ。

106. 「包み込む」

【一】〔他マ五（四）〕 包んで中に入れる。周囲をとりかこんで、中にこめる。

upakovyvat', zakutyvat', ukutyvat', zavoračivat'

【二】〔他マ下二〕

（1）包んで中に入れる。包んで中にこめる。

upakovyvat', zakutyvat', ukutyvat', zavoračivat'

（2）表面にあらわさないで心の中にひめる。

107. 「積み込む」

【一】〔他マ五（四）〕 中に積み入れる。貨物を車や船などに入れる。

zagružat', pogružat'

108. 「詰め込む」

【一】〔他マ五（四）〕 （1）物を入れ物にいっぱいつめる。

nabivat', napolnjat', vtiskivat', vpichivat'

（2）知識などをできるかぎり記憶する。

zapominat', usvaivat'

（3）多くの人をせまい場所にむりに入れる。

nabivat', napolnjat', vtiskivat', vpichivat'

（4）腹の中に食物をたくさん入れる。十分食べる。

nabivat', napolnjat'

【二】〔自マ四〕 いっぱいにはいりこむ。

nabivat'sja, vtiskivat'sja

109. 「釣り込む」

（1）うまいことを言ってひきいれる。さそいいれる。ひきこむ。

privlekat', zavlekat'

（2）興味を起こさせて我を忘れさせる。

vovlekat', vtjagivat', zamanivat'

（3）娼婦を相手にして夜を明かすことをいう、盗人仲間の隠語。〔隠語構成様式并其語集｛1935｝〕

110. 「連れ込む」

（1）いっしょにつれて中にはいる。同伴してはいり込む。ひっぱり込む。

vvodit'

（2）愛人を伴って、宿屋などにはいり込む。また、私娼が客を伴って宿にはいる。

111. 「照り込む」

（1）日光が強く照り続く。日照りが長く続く。

（2）家の中に日光が射し込む。

pronikat'

112. 「溶かし込む」

溶かして入れる。ある液体の中に他の物質

を溶かして混ぜ入れる。比喩的に、あるものを別のものの中に入れてすっかりなじませる。
rastvorjat', rastaplivat', rasplavljat'
113. 「溶き込む」
溶いて中へまぜ入れる。
rastvorjat', rastaplivat', rasplavljat'
114. 「溶け込む」
ある物が別の物の中へ溶けてはいって一体となる。
slivat'sja, rastvorjat'sja
115. 「綴じ込む」
（1）とじあわせる。とじて一つにまとめる。
podšivat'
（2）とじたものの中に、あとからとじ入れる。
vkladyvat', prokladyvat'
116. 「飛び込む」
（1）身をおどらせてその中にはいる。勢いよくはいる。おどり込む。
vletat', vparchivat'
（2）突然はいり込む。急いではいる。かけ込む。
vskakivat', vprygivat'
（3）事件・事業などの中に進んではいり込む。みずから進んで事件と関わりを持つ。身を投じる。
（4）思いもよらない物事が突然自分の方にやってくる。舞い込む。
svalivat'sja, prichodit'
117. 「取り込む」
【一】〔他マ五（四）〕 （1）取って内に入れる。とり入れる。収める。
ubirat', zabirat'
（2）自分の手に入れる。自分のものにする。獲得する。
prisvaivat', zachvatyvat'
（3）まるめこむ。籠絡（ろうらく）する。
naduvat', obol'ščat'
【二】〔自マ五（四）〕 家内に事件やもめごと、冠婚葬祭などがあってごたごたする。
118. 「流し込む」
（1）流して中に入れる。流し入れる。
vlivat', zalivat'
（2）遠隔の地に逃走することをいう、盗人仲間の隠語。〔特殊語百科辞典｛1931｝〕
119. 「流れ込む」
流れてその中へ入りこむ。また、流れるように入りこむ。流入する。
vtekat', vlivat'sja
120. 「殴り込む」
（1）殴ろうとして相手の身に近づく。また、相手の近くに踏みこんで殴る。
nasedat', osaždat'
（2）うらみのある人やけんか相手の家などに隊を組んで乱入する。
nagrjanut'
121. 「投げ込む」
投げて入れる。無造作に投げ入れる。なげいれる。
zabrasyvat', zakidyvat', zašvyrivat'
122. 「なすり込む」
なすりつけて中に入れる。すりこむ。ぬりこむ。
natirat', namazyvat', vtirat'
123. 「なだれ込む」
なだれのように、多くの人や物が一度にどっとはいりこむ。
vryvat'sja
124. 「握り込む」
【一】〔他マ五（四）〕 握って掌中に取り込む。また、つかんで容器などに詰め入れる。

schvatyvat', zachvatyvat', sžimat'
【二】〔他マ下二〕 =にぎりこめる（握込）。握って、掌の中に入れる。握って閉じ込める。にぎりこむ。
schvatyvat', zachvatyvat', sžimat'
125. 「逃げ込む」
（1）逃げてある所に入りこむ。
vbegat', zabegat', zabirat'sja, zabivat'sja
（2）競技などで、相手に追いつかれないで逃げ通して勝つ。にげきる。
126. 「煮込む」
（1）種々の材料を混ぜていっしょに煮る。
（2）長い時間煮る。よく煮る。
otvarivat'
127. 「滲み込む」
徐々に中にしみこむ。
vpityvat'sja, propityvat'sja
128. 「にじり込む」
（1）にじるようにしてはいりこむ。無理にはいりこむ。ねじ込む。
vsovyvat', zasovyvat', vvinčivat', vvërtyvat'
（2）座ったまま動いていってはいりこむ。
129. 「縫い込む」
【一】〔他マ五（四）〕
（1）布の中に他の物を入れて縫う。包み込んで縫う。
zašivat', našivat'
（2）本来の縫代（ぬいしろ）以外の余分なゆとりも縫代に入れこんで縫う。また、縫い合わせた布の端が縫い目の中に隠れるように縫う。
【二】〔他マ下二〕 =ぬいこめる（縫込）。縫って中に入れる。中に物を入れて縫う。
zašivat'
130. 「塗り込む」
【一】〔他マ五（四）〕「ぬりこめる（塗籠）」に同じ。
smazyvat', obmazyvat', namazyvat'
【二】〔他マ下二〕 =ぬりこめる（塗籠）。塗って中に入れる。内に物を入れて、上またはまわりから塗りかためる。また、塗ってすき間をなくす。ぬりこむ。
namazyvat', smazyvat'
131. 「寝込む」
（1）ぐっすりと寝入る。熟睡する。
zasypat', usypat'
（2）病気になって床につく。
sleč'
132. 「ねじ込む」
【一】〔他マ五（四）〕
（1）ねじってはめ込む。ねじり入れる。ねじりこむ。
vvinčivat', vvërtyvat'
（2）無理に入れる。強引に押し込む。また、無造作に入れる。ねじりこむ。
vsovyvat', zasovyvat'
【二】〔自マ五（四）〕 （1）相手の失言や失敗などをなじる。苦情を言って責める。また、文句を言いに押しかける。強く抗議する。ねじりこむ。
（2）押し入る。はいり込む。ねじりこむ。
133. 「眠り込む」
すっかり眠ってしまう。よく寝入る。ぐっすり眠る。
zasypat'
134. 「覗き込む」
首をのばすようにして中をのぞく。また、顔を近づけてそれを見る。
zagljadyvat'
135. 「飲み込む」
（1）飲んで胃の方へくだす。嚥下（えんか）する。かみくだかないでそのままの形で飲

みくだす。
proglatyvat', zaglatyvat'
（2）理解する。納得する。会得する。合点する。
schvatyvat'
（3）承諾する。引き受ける。
odobrjat', prinimat'
（4）たかを括（くく）る。見くびる。
（5）（出そうなものを飲み込む意から）おさえる。我慢する。こらえる。
sglatyvat'
136. 「のめり込む」
（1）のめってはいり込む。前に倒れるようにしてはいり込む。また、無遠慮にはいり込む。
（2）ある状況・環境・考えの中に、抜け出せなくなるほどすっぽりとはいり込む。
zachodit', uvlekat'sja, pristrastit'sja
137. 「乗り込む」
（1）乗物に乗ったまま中にはいり込む。乗り入れる。
v"ezžat', priezžat', pribyvat'
（2）乗物の中へはいり込む。
vchodit'
（3）大勢の者が乗る。また、一団の者がある場所へ繰り込む。
vchodit'
（4）勢いよくはいり込む。意を決して進み入る。
vchodit'
（5）特に役者や興行人の一座が、興行地に繰り込む。
（6）仲裁にはいる。
（7）気持が大いにその方へ向く。気乗りする。
zainteresovat'sja
138. 「這い込む」
（1）はって中にはいりこむ。はいいる。
vpolzat'
（2）夜ばいに行く。
139. 「入り込む」
（1）囲ったもの、遮蔽されて外から見えないようになったものなどの中へはいる。奥深くはいる。
vchodit', zachodit'
（2）頻繁にはいる。いりびたる。また、いりこんで住みつく。
（3）無理にはいる。わりこむ。
vtiskivat'sja, protiskivat'sja
140. 「掃き込む」
掃いて中へ入れる。はきこめる。
smetat', zametat'
141. 「履き込む」
（1）あらたまったよそ行きの履物や目立つ履物などをはく。
（2）すっかり自分のものとして、はきならす。
raznašivat'
142. 「運び込む」
持ったり車に載せたりして物をある場所に移し入れる。はこびいれる。
vnosit'
143. 「挟み込む」
はさんで中に入れ込む。はさみいれる。
vsovyvat', vstavljat', vkladyvat'
144. 「走り込む」
（1）走って中にはいる。庇護を求めて駆け込む。飛びこむ。
vbegat', vryvat'sja
（2）走る鍛練を十分に積む。練習でしっかり走っておく。
145. 「はたき込む」

（1）相撲で、叩込みの手を使う。
（2）叩くようにして入れる。
（3）雨、水しぶきなどが叩きつけるようにして入り込む。
prostupat', prosačivat'sja
146. 「話し込む」
話に夢中になる。夢中になって、長時間しゃべる。
razgovorit'sja, zagovorit'sja, razboltat'sja
147. 「跳ね込む」
（1）はねて、中にはいる。とびこむ。
vprygivat', vskakivat'
（2）囲碁で、相手の石の切れ目に「はね」の石を打ちこむ。
148. 「はまり込む」
（1）物の中にぴったりはいりこむ。物の中にひきこまれて身動きできないようになる。中へ落ちこむ。
vstavljat'sja, vchodit', zastrevat', popadat'
（2）かかわりあって、その中にひきこまれ動きがとれなくなる。特に、女の色香におぼれる。はまる。
vpadat', pogrjaznut'
149. 「はめ込む」
（1）隙間のある部分にぴったりと合わせ入れる。また、ある型、範囲などに合わせて押しこむ。はめて押しこむ。はめいる。
vstavljat', vkladyvat', nadevat', nasaživat'
（2）策略をめぐらすなどして、おとし入れる。だましこむ。
naduvat'
150. 「払い込む」
金銭を支払って納める。
uplačivat', vnosit', vznosit'
151. 「張り込む」
【一】〔他マ下二〕
（1）水などを順々に入れていっぱいにする。いっぱいに満たす。
napolnjat'
（2）網などを広げてその中に入れて出ないようにする。
【二】〔他マ五（四）〕　（1）いっぱいに入れる。水などを入れていっぱいにする。
napolnjat'
（3）精出して努力する。力を入れる。意気ごんでする。
（4）（自動詞的にも用いる）奮発して大金を投ずる。奮発して買う。おおいに散財する。おごる。
raskošelivat'sja
（5）理屈を言って屈伏させる。文句を言ってねじこむ。やりこめる。
（6）一定の場所に待機して見張番をする。見張る。
（7）張って固定する。張り渡す。
152. 「貼り込む」
（「貼込」とも）中にはって固定する。台紙などにはりつける。
vkleivat'
153. 「冷え込む」
（1）急に気温が下がる。寒さが増してくる。
（2）寒さが身にしみこむ。寒さを身に強く感ずる。ひえいる。
promerzat', zamerzat'
（3）活気などがなくなる。経済力などが落ちこむ。「景気が冷え込む」
154. 「引き込む」
【一】〔他マ五（四）〕　（1）引いて内へ入れる。ひきいれる。
vtaskivat', vtjagivat'
（2）さそってなかまに入れる。また、ある状態に人をさそい入れる。

vovlekat', vtjagivat', vvjazyvat', zavlekat', zamanivat'
（3）金銭などを引き出して使い込む。費消する。
（4）笠、帽子、頭巾など目深にかぶる。
natjagivat'
（5）感冒を身に受ける。風邪をひく。
【二】〔自マ五（四）〕「ひっこむ（引込）【一】」に同じ。
zapirat'sja
【三】〔他マ下二〕＝ひきこめる（引込）。
（1）引いて内へ入れる。外へ出さないで内におく。隠しておく。
vtjagivat', ubirat'
（2）一度出したものを取り消す。
svoračivat'
155. 「引きずり込む」
（1）ひきずって内へ入れこむ。むりやり中へ入れる。また、仲間へひっぱりこむ。
zavolakivat', zataskivat', vovlekat', vputyvat', vtjagivat'
（2）不法にとりこんで自分のものにする。横領する。とりこむ。
prisvaivat'
156. 「浸り込む」
その状態に十分浸る。ある境地にはいりきる。
pogružat'sja
157. 「引っ込む」
【一】〔自マ五（四）〕（「ひきこむ（引込）」の変化した語）（1）内にはいって外に出ない状態になる。また、勤めを休む。江戸時代の遊里では、遊女が見世に出て客を取ろうとしないことをいった。
zapirat'sja
（2）目立たない所に退く。閑居や引退をする。
uchodit'
（3）引っ込み禿になる。
（4）しりごみする。ぐずぐずする。
ostupat'sja
（5）低く落ち込む。また、深くくぼむ。
vpadat'
（6）後方へ退く。後ろに下がる。奥へはいる。
otstupat', uchodit', otchodit'
（7）売価が仕入れ値よりも低くなる。欠損になる。くいこむ。
【二】〔他マ五（四）〕（「ひきこむ（引込）」の変化した語）
（1）引いて中に入れる。ひっぱりこむ。
vtaskivat', vnosit', vtjagivat'
（2）仲間に加える。
vtjagivat', vovlekat', vvjazyvat', vputyvat'
（3）帽子、笠、頭巾などを深くかぶる。
natjagivat'
【三】〔他マ下二〕＝ひっこめる（引込）。
（1）引いて中へ入れる。外に出さないようにする。また、一度出したものを、もとにもどす。
vtjagivat', ubirat'
（2）取り消す。とりさげる。解消する。
svoračivat'
（3）後ろに下がらせる。後方に位置させる。
158. 「引っ張り込む」
ひっぱって中へ入れる。強引に誘って仲間に加える。
zataskivat', zatjagivat', zavolakivat'
159. 「封じ込む」
【一】〔他マ下二〕＝ふうじこめる（封込）。
（1）封じて中に入れる。閉じこめる。封じる。

（2）相手を自由に活動できないようにする。
zaključat', zatočat'
（3）神仏の力などで、活動させないようにする。
【二】〔他マ五（四）〕 「ふうじこめる（封込）」に同じ。
160. 「拭き込む」
十分に拭く。廊下・柱・たな板などを、つやがでるまで何回も拭く。ふきいれる。
nateret'
161. 「吹き込む」
【一】〔自マ五（四）〕 風が吹いてはいってくる。また、吹く風のために、雨や雪などが内にはいってくる。
zaduvat', pronikat', vduvat'
【二】〔他マ五（四）〕 （1）風が吹いてものを中へ入れる。また、吹いて中に入れる。
zaduvat', vduvat'
（2）前もって教えこんでおく。言いきかせておく。いいふくめておく。そそのかす。教唆する。
3）京坂地方の遊里で、遊女に贈り物を送る。
（4）レコードやテープレコーダーなどに、声や歌、演奏などの音を入れる。録音する。
zapisyvat', nagovorit', napet'
【三】〔他マ下二〕 風が吹くときにものを巻きこむ。いっしょにひっくるめて吹く。
zaduvat', vovlekat'
162. 「老け込む」
すっかり年をとる。年寄りじみる。
sostarivat'sja, postaret'
163. 「ぶち込む」
勢いよく中に入れる。ほうり込む。また、無理に押しこめる。うちこむ。
zabrasyvat', skladyvat', zapirat'
164. 「ぶっ込む」
（1）うちこむ。投げ入れる。たたきこむ。
vbivat', vtykat'
（2）混ぜこむ。混ぜ入れる。
primešivat', dobavljat'
（3）（刀などを腰に）さす。おびる。
165. 「踏み込む」
【一】〔自マ五（四）〕 （1）踏んで落ち込む。
vstupat', zachodit'
（2）足を踏み出して勢いよく前へ進む。
（3）足を踏み出して中へはいる。進んで行ってある場所にはいる。また、物事に深くはいり込む。
vchodit'
（4）無断ではいり込む。強引にはいり込む。
vryvat'sja, naletat'
（5）境界を越えてはいり込む。
vstupat'
【二】〔他マ五（四）〕 （1）力を込めて踏む。踏んで押し込む。また、足を深く中へ入れる。
nastupat'
（2）物事に自分の気持を一段と深入りさせる。また、物事を思い切ってする。
（3）そのままの状態で事をはこぶ。身なりなどをかまわないでいる。
166. 「降り込む」
（1）雨や雪などが外から屋内へはいってくる。
zalivat'
（2）物が突然手元に届く。
svalivat'sja
167. 「振り込む」
【一】〔他マ五（四）〕
（1）振って内へ入れる。勢いよく押し込む。
vpichivat', vtalkivat'

（2）振替口座や預金口座などに金銭を払い込む。預金する。
uplačivat', vnosit'
（3）マージャンで、相手が上がろうとして待っている牌（パイ）を捨てる。
【二】〔自マ四〕 勢いよく入り込む。押しかける。闖入（ちんにゅう）する。
vryvat'sja, vlamyvat'sja
168. 「触れ込む」
（1）前もって広く知らせる。宣伝する。多く、実際とは違って宣伝する場合にいう。
izveščat'
（2）申し入れる。
（1）外から内に向かって申しあげる。また、他を通して話などを通じ申しあげる。
（2）招待する。お招きする。
169. 「へたり込む」
べったりとすわり込む。また、気が抜けたり、疲れたりしてすわり込み、立てなくなる。
opuskat'sja
170. 「放り込む」
投げて入れる。また、投げるようにして入れる。むぞうさに、または乱暴に入れる。比喩的に、人をある状況にはいらせる。
zabrasivat', zakidyvat', zašvyrivat'
171. 「掘り込む」
【一】〔他マ下二〕 深く掘ってその中へ入れる。
vyryvat', proryvat'
【二】〔他マ四〕 （1）【一】に同じ。
vyryvat'
（2）ある方向に向かって掘る。
proryvat'
172. 「彫り込む」
【一】〔他マ下二〕 彫る。彫って刻みつける。
vyrezat', vygravirovat'
【二】〔他マ五（四）〕 【一】に同じ。
vyrezat', vygravirovat'
173. 「惚れ込む」
（1）対象に、すっかり夢中になる。
uvleč'sja
（2）特に、人の性質や言動に、すっかり夢中になる。深く好意をおぼえる。
poljubit', vljubljat'sja
174. 「舞い込む」
（1）雨や雪、また花びらなどが、舞いながらはいってくる。
zaletat'
（2）どこからともなくはいってくる。思いがけなくはいってくる。
prichodit', vchodit'
（3）おどりながらはいってくる。
175. 「曲がり込む」
曲がってはいる。
izgibat'sja, iskrivljat'sja, zagibat'sja, zavoračivat'sja
176. 「巻き込む」
【一】〔他マ五（四）〕 （1）巻いて中へ入れる。おおって中に込める。また、巻く。巻きこめる。
zavoračivat', svoračivat', skatyvat'
（2）ある関係や仲間に引き入れる。まきぞえにする。
vovlekat', vputyvat', vtjagivat'
【二】〔他マ下二〕 ＝まきこめる（巻込）。「まきこむ（巻込）【一】（1）」に同じ。
（1）巻いて中へ入れる。おおって中に込める。また、巻く。巻きこめる。
zavoračivat', svoračivat', skatyvat'
177. 「紛れ込む」

混雑・混乱に乗じて入り込む。わからないように入ってしまう。また、まちがって入り込む。まぎれいる。
smešivat'sja, zamešivat'sja, vkradyvat'sja, primešivat'sja
178. 「まくれ込む」
内側へ巻いてはいる。巻きこんだ状態になる。
zavoračivat'sja
179. 「負け込む 」
負ける回数が多くなる。
proigryvat'
180. 「曲げ込む」
（1）品物を質入れする。まげる。
（2）曲げて、中へ折り入れる。
sgibat', izgibat', iskrivljat', naklonjat', nakrenjat'
181. 「混じり込む」
他のものにまじって入りこんで一緒になる。まざりこむ。
primešivat'sja, smešivat'sja, zamešivat'sja
182. 「混ぜ込む」
異種・異質のものを詰め入れていっしょにする。
vmešivat', smešivat', primešivat', podbavljat', pribavljat'
183. 「迷い込む」
迷ってはいりこむ。
zabludit'sja
184. 「丸め込む」
（1）丸めて中に入れる。
zavërtyvat', zavoračivat', skatyvat'
（2）他人を自分の思い通りにだきこむ。籠絡（ろうらく）する。丸める。
privlekat', raspolagat'
185. 「回り込む」
周囲を回ってはいりこむ。
obchodit', ob"ezžat'
186. 「磨き込む」
十分に磨く。磨いて美しく仕立てる。また比喩的に、洗練されたものにする。磨き入る。
napolirovat', našlifovat', načistit', nateret'
187. 「見込む」
【一】〔他マ五（四）〕 （1）見入る。見つめる。じっと見る。
vgljadyvat'sja, vsmatrivat'sja, prismatrivat'sja
（2）めあてとする。あてこむ。また、目をつけてねらう。
rasščityvat'
（3）有望だと思う。よいとみて思い定める。人のねうちを認める。
（4）執念深くとりつく。みいる。
（5）予想して勘定に入れる。あらかじめ考慮しておく。
predpolagat', ožidat'
【二】〔他マ下二〕 有望だと思う。
188. 「めかし込む」
たいそう身なりを飾りたてる。おしゃれをする。
razrjažat'sja
189. 「めくり込む」
すうっと、はいり込む。ぬめりこむ。
zavërtyvat'sja, zavoračivat'sja
190. 「めくれ込む」
内部の方へめくれる。めくれてはいる。
zavërtyvat'sja, zavoračivat'sja
191. 「申し込む」
【一】〔他マ五（四）〕
（1）意志や願いなどを申しあげる。頼み込む。
umoljat'
（2）相手に意志を伝える。 （イ）意志や

要求を先方に告げ知らせる。申し入れる。
zajavljat'
【二】〔他マ下二〕　【一】(1) に同じ。
(1) 意志や願いなどを申しあげる。頼み込む。
umoljat'
192. 「潜り込む」
(1) 水中または物の中や下などにはいりこむ。また、こっそりと中にはいる。
zalezat', prolezat', zapolzat', zabirat'sja
(2) 不正な手段ではいりこむ。正規の手続きをとらないではいる。
prolezat'
193. 「持ち込む」
(1) 持ってはいる。運び入れる。送り入れる。持って来る。取り入れる。
vnosit', prinosit', dostavljat'
(2) 事件などをもってくる。また、交渉をしかける。相談をしかける。
194. 「もつれ込む」
事柄の決着がつかないまま、次の段階にはいる。「延長戦にもつれ込む」
zaputyvat'sja, osložnjat'sja
195. 「揉み込む」
(1) 揉んで中に入れる。
vtirat', vminat'
(2) 仕込む。教え込む。
196. 「盛り込む」
(1) 盛って中に入れる。
vkladyvat', vlivat', vnosit'
(2) 一つの計画や考えの中に、いろいろなものをいっしょに取り入れる。
vključat'
197. 「呼び込む」
【一】〔他マ下二〕　呼んで引き入れる。呼び入れて、そのまま出さないようにする。
priglašat', prizyvat'
【二】〔他マ五(四)〕呼んで中へ入らせる。呼び入れる。
priglašat', vvodit'
198. 「詠み込む」
(1) ある事物の名前などを特に入れて、歌や俳句などを作る。よみ入れる。
vospevat'
199. 「弱り込む」
まったく弱る。ひどく困る。よわりきる。
oslabevat', zachirevat'
200. 「割り込む」
(1) 割って中にはいりこむ。押し分けてはいる。無理に中にはいる。
vmešivat'sja
(2) 取引市場で、相場がある値段よりも下落する。〔取引所用語字彙 {1917}〕
ponizit'sja, upast'

5.2.2. 「～でる」「～だす」複合動詞の訳語に使用される動詞接頭辞

国語辞典および複合動詞の先行研究における後項動詞「～でる」「～だす」の定義は以下のものである。

「～でる」に関して言えば,『日本国語大辞典』と城田（1998）には後項動詞としての用法が記述されておらず，両者ともに「～でる」を後項動詞として認識していないことが分かる。従って,「～でる」の定義については姫野（1999）のみを引用する：

❑ 姫野（1999: 83-87）における「～でる」の定義

後項動詞が「～でる」の場合，「外部，前面，表面への移動」と「表だった場への登場」という 2 つの意味が認められる。前者の意味の場合，形成される複合動詞は，たとえ前項動詞が他動詞であっても自動詞となり，一方，後者の意味における複合動詞の自他の区別は前項動詞の自他と一致する（姫野 1999: 84）。さらに，「外部，前面，表面への移動」に分類される複合動詞は，外部への移動が前項動詞の意味に含まれるか否かによって 2 つのタイプに分類される。前項動詞が外部への移動の意味を含む「溢れでる」「漏れでる」などのタイプでは，後項動詞によって前項動詞の意味が強調されているにすぎないため，「～でる」を除いても意味の上ではほとんど変化がない。他方，前項動詞に外部への移動の意味が含まれない「這いでる」「転がりでる」などのタイプでは，後項動詞が移動の方法，様相を示しているため，前項と後項がそれぞれ修飾・被修飾の関係にある。また，どちらのタイプでも，同一の文脈で後項動詞「～だす」に置き換えられる場合がある[43]。「表だった場への登場」に分類される複合動詞の自他の区別は前項動詞のそれと一致し，自動詞の場合は主体の登場が，他動詞の場合は登場の目的が示されるため，必ずしも物理的な移動を伴わない（姫野 1999: 86-87）。

- 語彙的複合動詞を構成する後項動詞「～でる」の意味（姫野 1999: 83-87）
  1) 外部，前面，表面への移動
     i. 前項動詞が外部への移動の意味を含むもの
        例.「溢れでる」「漏れでる」「浮きでる」「にじみでる」など
     ii. 前項動詞が外部への移動の意味を含まないもの
        例.「這いでる」「転がりでる」「飛びでる」「突きでる」など
  2) 表だった場への登場
     例.「まかりでる」「のさばりでる」「訴えでる」「届けでる」など

続いて，後項動詞「～だす」の定義を以下に引用する。ただし，城田（1998: 144）では「段階相動詞」[44]に属する「開始相動詞」[45]に「～だす」が分類されている。これは統語的複合動詞としての用法であり，語彙的複合動詞の用法については説明がない。

❑ 『日本国語大辞典』における「～だす」の定義

〔他サ五（四）〕

〔三〕補助動詞として用いる。動詞の連用形に付く。

（1）その動作によって表や外に現われるようにする意を表わす。「染め出す」「作り出す」など。

---

[43] 後項動詞に「～でる」あるいは「～だす」が適用される条件について，影山（2002: 136）は前項動詞が非能格自動詞（動作主の自主的な動き）の場合に「～でる」が，前項動詞が非対格自動詞（動作主の意図がない動き）の場合に「～だす」が用いられるとの説明を与えている。

[44] 「コトがうごきとしていかなる段階にあるかを示す」（城田 1998: 144）

[45] 「コトがうごきとしてはじまりの段階にあることを示す」（城田 1998: 144）

（2）その動作を始める意を表わす。「歩き出す」「話し出す」「読み出す」など。

❑ 姫野（1999: 87-95）における「～だす」の定義

後項動詞「～だす」によって構成される語彙的複合動詞では，「移動」と「顕在化」の 2 つの意味的傾向が見られる。「移動」の意味は，「～でる」の場合と同様に，「外部，前面，表面への移動」と「表だった場への出現」の 2 つに区別されるものの，前者の意味を持つ複合動詞の自他は前項動詞の自他と一致しない（姫野 1999: 88）。他方，「表だった場への出現」ならびに「顕在化」に属す複合動詞の前項はすべて他動詞から成り，複合動詞自体も他動詞として実現する（姫野 1999: 93）。「移動」のサブタイプとして設定されている「表だった場への出現」は，当事者の意思とは無関係に人を表だった場に出すことを表す。「移動」の意味的ヴァリアントと言うべき「顕在化」は，対象を外部や表面に出現させることによって人の目に触れさせることを意味し，前項動詞の意味特徴によって「顕現」「創出」「発見」という 3 つの意味に細分化することができる（姫野 1999: 93）。姫野の定義によれば，「顕現」は人が知覚できるようになることで既存の事物の存在が変化を伴って明らかになることを，「創出」は人の手によって無の状態から対象が生じることを，「発見」は求めていたものの存在が明らかになることを意味する。

➢ 語彙的複合動詞を構成する後項動詞「～だす」の意味（姫野 1999: 87-95）

1) 移動

i. 外部，前面，表面への移動（姫野 1999: 89）[46]

例.「溢れだす」「這いだす」「運びだす」「担ぎだす」「売りだす」など

ii. 表だった場への出現

例.「召しだす」「突きだす」「駆りだす」など

2) 顕在化

i. 顕現：例.「暴き出す」「削り出す」「映し出す」など

ii. 創出：例.「考え出す」「染め出す」「ひねくり出す」など

iii. 発見：例.「見出す」「探り出す」「洗い出す」など

なお，姫野では，統語的複合動詞を構成する「～だす」の用法も説明されているが，本稿では語彙的複合動詞のみを扱うため，それに関しては省略する。

姫野（1999: 83）が指摘しているように，語彙的複合動詞を構成する後項動詞「～でる」「～だす」は「方向性」を共通の基本的な意味として持っている。そして，その方向性は物理的な移動を伴うものとそうではないものの 2 つに大別されている。これを物理的な空間と抽象的な空間における移動と考えれば，後項動詞「～こむ」の反義語としてみなすことができる。

次に，「～でる」「~だす」両複合動詞の訳出調査の結果を表（図表 4-1），グラフ（図表

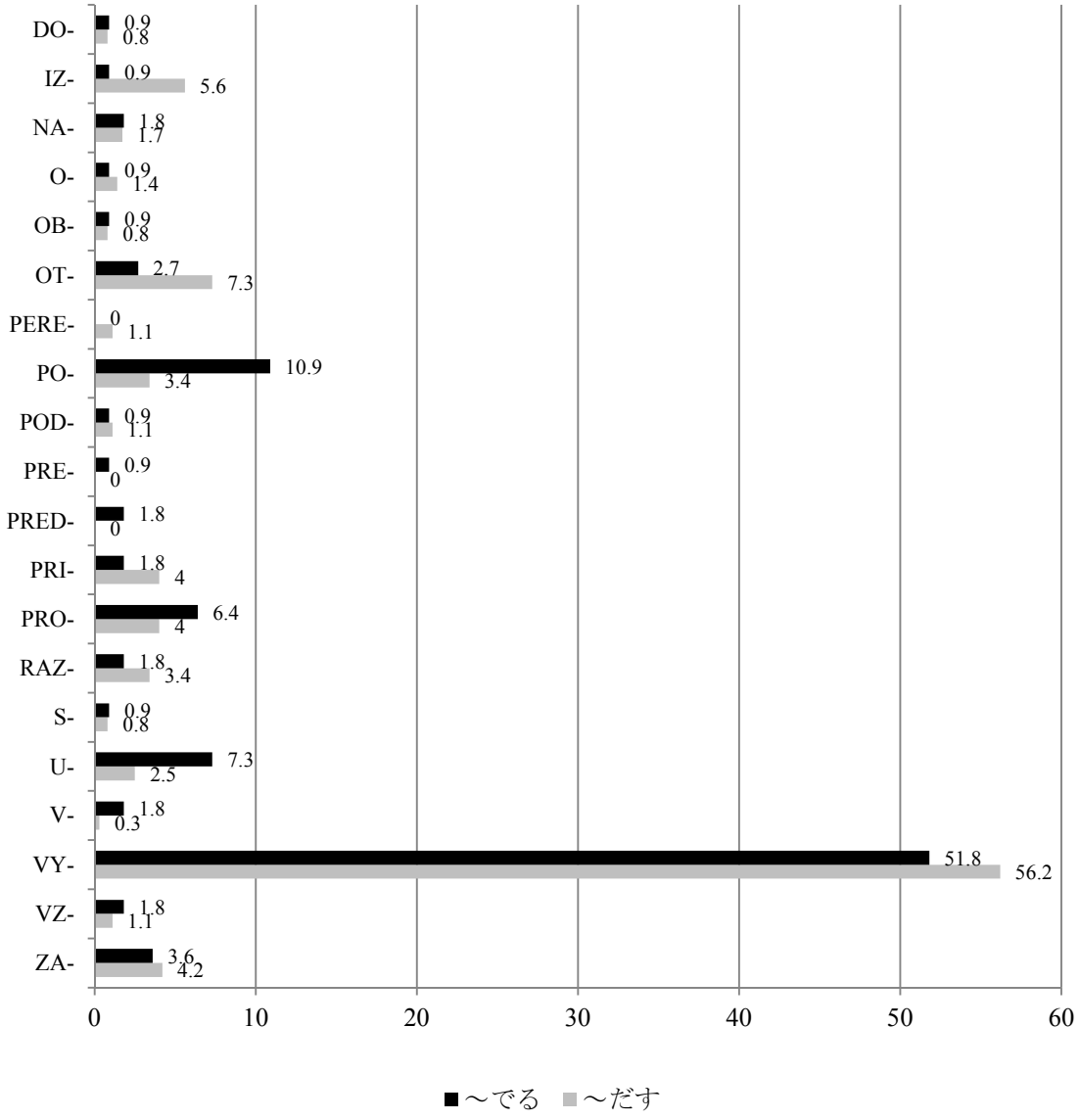
[46] 「～だす」によって構成された複合動詞が自動詞の場合，外部への移動の意味の有無にかかわらず，「～でる」による交替が可能な場合が多い（姫野 1999: 89）。

4-2）の形式で提示する。図表 4-1 における列 A は，訳語として登場した接頭辞付加動詞の数を，列 B は接頭辞付加動詞全体に対する当該接頭辞の割合を示している。そして，図表 4-1 における列 B の数値をグラフで表したものが図表 4-2 である。数値は全て%による表示である。

図表 4-1. 語彙的複合動詞「～でる」「～だす」の訳語に使用された動詞接頭辞の数と割合

ロシア語 動詞接頭辞	～でる		～だす		ロシア語 動詞接頭辞	～でる		～だす	
	A	B (%)	A	B (%)		A	B (%)	A	B (%)
DE-	-	-	-	-	PRE-	1	0.9	-	-
DIS-	-	-	-	-	PRED-	2	1.8	-	-
DO-	1	0.9	3	0.8	PRI-	2	1.8	14	4
IZ-	1	0.9	20	5.6	PRO-	7	6.4	14	4
NA-	2	1.8	6	1.7	RAZ-	2	1.8	12	3.4
NAD-	-	-	-	-	RE-	-	-	-	-
NEDO-	-	-	-	-	S-	1	0.9	3	0.8
NIZ-	-	-	-	-	SO-	-	-	-	-
O-	1	0.9	5	1.4	U-	8	7.3	9	2.5
OB-	1	0.9	3	0.8	V-	2	1.8	1	0.3
OT-	3	2.7	26	7.3	VOZ-	-	-	-	-
PERE-	-	-	4	1.1	VY-	57	51.8	199	56.2
PO-	12	10.9	12	3.4	VZ-	2	1.8	4	1.1
POD-	1	0.9	4	1.1	ZA-	4	3.6	15	4.2

図表 4-2．接頭辞付加動詞全体における各接頭辞の割合（～でる，～だす）



以下に，接頭辞付加動詞を訳語に使用しうる「～でる」複合動詞 37 語，および「～だす」複合動詞 108 語と，訳語として使用可能な接頭辞付加動詞（「～でる」の場合は 110 語，「～だす」の場合は 354 語）のデータを示す。なお，各複合動詞の定義は全て『日本国語大辞典』に従っている。

「～でる」複合動詞とその訳語

1.　「現れ出る」
姿を現わす。出現する。登場する。
pokazyvat'sja, pojavljat'sja

2.　「浮かび出る」
（1）水面に現われ出る。また、ものの表面に現われる。
vsplyvat', vyplyvat', pojavljat'sja, vystupat'
（2）下地や背景から区別されてはっきり見える。
pokazyvat'sja
（3）意識に現われる。思いだす。
vyrisovyvat'sja, vsplyvat'

3.　「浮かれ出る」
どこというあてもなしに家を出る。また、浮き立った気持で外へ出る。
vychodit'（v prepodnjatom nastroenii）

4.　「浮き出る」
（1）表面に現われる。浮かび出る。
vsplyvat', vystupat', vyplyvat', pokazyvat'sja
（2）文字、模様、形などが、下地や背景から区別されてはっきり見える。
vyrisovyvat'sja, pokazyvat'sja, prostupat', vypirat'

5.　「訴え出る」
物事の理非曲直を判断してもらうために、人や機関に申し出る。
pribegat'

6.　「生まれ出る」
（1）生まれて現われる。誕生する。
pojavjat'sja na svet, porožđat'sja
（2）世に現われる。
pojavjat'sja na svet

7.　「躍り出る」
勢いよく外に現われる。急に人目につく所へ出る。
vyskakivat', vyprygivat'

8.　「泳ぎ出る」
泳いで遠方へ行く。およぎいず。
vyplyvat'

9.　「おん出る」
（「追い出る」の変化した語）　自分から進んである場所を出る。むりに出される、あるいは、いやいや出るのではないことを強調するいい方。
uchodit'

10.　「漕ぎ出る」
舟を漕いで出る。こぎいず。
otčalivat', otplyvat', vychodit'

11.　「転がり出る」
ころがって物の外部に出る。ころがりだす。ころげでる。
vykatyvat'sja, vyvalivat'sja

12.　「転げ出る」
「ころがりでる（転出）」に同じ。
ころがって物の外部に出る。ころがりだす。ころげでる。
vykatyvat'sja, vyvalivat'sja

13.　「差し出る」
〔一〕（「さし」は光が照射する意）「さしいず（差出）【一】〔一〕」に同じ。
さしいず　〔一〕（「さし」は光が照射する意）輝き出る。照り出す。
zasijat'
〔二〕（「さし」は接頭語）　(1)「さしいず（差出）【一】〔二〕(1)」に同じ。
（1）あらわれる。外へ出る。外に姿を現わす。人前に出る。また、出仕する。
vychodit'
(2)「さしいず（差出）【一】〔二〕(2)」に同じ。
分を越えて進み出る。出すぎたことをする。

でしゃばる。
vmešivat'sja
（3）つき出る。突出する。
vydavat'sja, vystupat'
14.　「染み出る」
外へ、にじみ出る。包まれている物や、内部に含まれている水分、色素などが、自然に表面に現われる。
prosačivat'sja, prostupat', vystupat'
15.　「進み出る」
進んで前へ出る。
prodvigat'sja
16.　「滑り出る」
（1）すべって外に出る。すべるようにして外に出る。
vyskal'zyvat'
（2）そっと座をはずす。静かに退出する。すべりいず。
vyskal'zyvat'
17.　「突き出る」
（1）覆いや壁などを突いて出る。突き破って出る。
vysovyvat'sja, vystupat', vydavat'sja
（2）ふいに出る。ぐっと前へ出る。さっと出る。
vychodit', vysovyvat'sja
（3）高く、または長く出る。ある部分が前や上に出張る。
vystupat'
18.　「届け出る」
役所・学校・会社の上司などに書類または口頭で申し出る。届ける。とどけいず。
zajavljat', dokladyvat'
19.　「飛び出る」
「とびだす（飛出）」に同じ。
（1）人が内から外へとんで出る。また、走って出る。
vyletat', vyskakivat', vyprygivat', vybegat'
（2）勢いよく出る。勢い込んで出る。また、急に突き出る。とびでる。
vychodit', vystupat', vydavat'sja
（3）不都合があったりして家や故郷から急に出る。
uchodit', pokidat'
（4）急に現われる。突然、眼前に現出する。
pojavljat'sja
（5）飛び始める。「春になって蝶々が飛び出す」
20.　「流れ出る」
流れて出る。また、流れるように外部に出る。流出する。ながれいず。ながれだす。
vytekat', vylevat'sja
21.　「名乗り出る」
自分の姓名、身分などを皆の前へ名のって出る。自分がその本人であることを申し出る。また、候補者として申し出る。
nazyvat' sebja, predstavljat'sja, zajavljat' o sebe
22.　「滲み出る」
（1）液体がじわじわとわき出てひろがる。にじみいず。
rastekat'sja, propityvat', vystupat', prostupat'
（2）感情や思いが自然にわき出る。にじみいず。
vystupat', nachlynut'
23.　「にじり出る」
座ったままで、すこしずつ出る。また、じわじわと出る。
pododvigat'sja （sidja na kolenjach）, pridvigat'sja （sidja na kolenjach）
24.　「抜きん出る」
（「ぬきいず（抜出）」の変化した語）
【一】〔他ダ下一〕＝ぬきん・づ〔他ダ下二〕

（1）選び出す。よりぬく。抜擢（ばってき）する。
otbirat', vybirat'
（2）抜いて先に出る。追い越す。
obgonjat', operežat'
（3）卓越した働きをする。志を人一倍あらわす。
【二】〔自ダ下一〕＝ぬきん・づ〔自ダ下二〕
（1）仲間から抜け出る。とびだす。抜け駆けする。さきがける。
ubegat', operežat', vyryvat'sja, obgonjat'
（2）人なみはずれてすぐれる。ひいでる。
vydavat'sja, vydeljat'sja
（3）他よりひときわ高く出る。
vydavat'sja, vydeljat'sja
25.　「抜け出る」
（1）中から抜けて出る。外へ出る。ぬけいず。
vybirat'sja, uletat', ubegat'
（2）のがれ出る。こっそりと出る。また、ある情況や考えから離れ出る。ぬけいず。
vyskal'zyvat', uskol'zat', sbegat'
（3）高く突き出る。突出する。ぬけいず。
vydavat'sja, vystupat'
（4）他を抜いてすぐれる。群を抜く。ぬきんでる。ぬけいず。
26.　「願い出る」
願いを申し出る。願いの趣旨を申し出る。また、願書を差し出す。ねがいいず。
podavat'
27.　「逃れ出る」
逃げて出る。にげだす。のがれいず。
ubegat', uchodit'
28.　「のさばり出る」
図太く出しゃばる。横柄にしゃしゃり出る。
vmešivat'sja
29.　「這い出る」
（1）はって外へ出る。はいだす。はいいず。
vypolzat'
（2）苦労して、ある状態からぬけ出る。
vybirat'sja
30.　「走り出る」
（1）走って飛び出す。
vybegat', vyryvat'sja vperëd
（2）水などが勢いよく出る。
vytekat', vychodit'
31.　「はみ出る」
「はみだす（食出）（1）」に同じ。
（1）中にきちんとおさまらずに、外部へふくれ出る。すきまから外へあふれ出る。一定の範囲から一部が外へ出る。また、一定の規範に適合せず、そこからはずれる。はみでる。
vydavat'sja, vypirat', vychodit', prevyšat'
32.　「吹き出る」
（1）内にあるものが勢いよく出てくる。水や蒸気などが勢いよくわき出る。ふきだす。ふきいず。
vypuskat', izvergat', vybrasyvat'
（2）吹出物が出る。
vysypat'
33.　「ほとばしり出る」
勢いよく噴き出る。強く噴き出す。ほとばしりいず。
vytekat', vylivat'sja
34.　「まかり出る」
〔自ダ下一〕＝まかり・づ〔自ダ下二〕（「まかりいず（罷出）」の変化したもの）　（1）「まかりいず（罷出）（1）」に同じ。
（1）（上位者の命によって、あるいは、許しを得て、貴所・貴人のそばから出る意のもの）貴所や貴人のもとから出るの意の謙

譲語で、その「出る」動作の出発点やそこにいる人を敬う。退出する。退下する。退去する。まかりでる。まかず。
uchodit'
（2）「まかりいず（罷出）（2）」に同じ。
（「まかり」が自己側の動作をへりくだる意のもの）かしこまった気持での対話や消息（勅撰集などの詞書を含む）に用い、自己側の者の「出る」動作を、聞き手に対しへりくだる気持をこめて丁重にいう。出てまいります。（御免をこうむって）出ます。まかりでる。まかず。
uchodit', pokidat'
（3）「まかりいず（罷出）（3）」に同じ。
（（2）から転じて）「出る」を改まった表現にしたもの。地の文にも用いる。かしこまって出る。出頭する。また、単に「出る」を堅苦しく表わすのにも用いる。まかりでる。
pokidat', uchodit'
（4）あつかましい態度で、人前へ出る。「臆面（おくめん）もなく人前にまかりでる」
pojavljat'sja, predstavat'

35.　「申し出る」
意見や希望などを、自分から進んで言って出る。目上の人に進言する。申し出す。
zajavljat', vystupat'
36.　「萌え出る」
「もえだす（萌出）」に同じ。
草木が芽ぶく。芽ぐむ。萌え出る。
raspuskat'sja
37.　「湧き出る」
〔自ダ下一〕＝わき・づ〔自ダ下二〕見えないところにあったものが、突然に現われ出る。わきいず。
（1）水などの液体が地中から湧いて出る。わきだす。
vytekat'
（2）涙が目からあふれ出る。
vystupat'
（3）物が次々とあふれるように現われ出る。また、虫などが発生する。
pojavljat'sja, pokazyvat'sja
（4）考え・感情などが、あふれるように出る。
projavljat'sja, pojavljat'sja

「～だす」複合動詞とその訳語

1.　「あふれ出す」
液体などがあふれて、外に流れ出す。
perelivat'sja, vylivat'sja

2.　「編み出す」
（1）編み始める。
（2）自分でくふうして新しい物事や方法を考え出す。また、作り出す。
pridumyvat', razrabatyvat'

3.　「洗い出す」
（1）洗って木の板目などを出す。
（2）雑巾などを洗って、よごれを取り去る。
vystiryvat'
（3）形や事情などをあきらかにする。
vyjasnjat', rassledovat'

4.　「言い出す」
言葉に出して言う。特に、他にさきがけて言い始める。言い始める。
vyskazyvat', vydvigat'

5.　「いぶり出す」
（1）物を焼いて煙を出し、けむたがらせて中にいるものを外へ追い出す。
vykurivat'
（2）人をいじめ苦しめて追い出す。いびりだす。
vyživat', izvodit', vygonjat'

6.　「浮かび出す」
ものの表面に現われる。うかみだす。
vsplyvat', pojavljat'sja

7.　「浮き出す」
（1）表面に浮いて出る。意識に表われる。
vsplyvat', vystupat', vyplyvat', pokazyvat'sja
（2）文字、模様、形などが、下地や背景から区別されてはっきり見えるようになる。
vyrisovyvat'sja, pokazyvat'sja, prostupat', vypirat'

8.　「打ち出す」
（1）打って物を出す。また、撃って弾丸などを飛び出させる。
vybivat', vystrelivat'
（2）打ち始める。 始動
（3）興行の終演を知らせる太鼓を打つ。
ob"javljat'
（4）金具などを裏から打って、模様を表面に浮き出させる。また、色ガラスで模様を浮き出させる。
vybivat'
（5）検地をして地積を増す。
（6）勝負事などでもうける。
（7）（「うち」は接頭語）勢いよく出す。外側に突き出す。
vystavljat', vysovyvat'
（8）（「うち」は接頭語）家のひさしを外に突き出す。
（9）（「うち」は接頭語）ひょいと口に出す。また、はっきりと主張などを示す。「方針を打ち出す」
ob"javljat'

9.　「映し出す」
（1）見聞したり考えたりした事柄を、絵や文章に書いて表わす。うつしいだす。うつしいず。
otobražat', izobražat'
（2）光があたって物の形をよく見えるようにする。映画、スライドなどで、映像をスクリーンに現わす。また、映像をむすぶ。
otobražat'

10.　「生み出す」
（1）子、卵などを産む。
porožďat'
（2）それまで無かったものを新しくつくり出す。工夫や努力をしてつくり出す。また、

かせいで金銭をもうける。
vyrabatyvat', vydumyvat'
11.　「描き出す」
（1）言語、絵画などによって、物事や考えを表現する。また、表現しはじめる。えがきいだす。
izobražat', opisyvat'
（2）物事をによって、心の中に思い浮かべる。また、思い浮かべはじめる。えがきいだす。
（3）比喩的に、光などが物事に影響を与えて、ある特別な状態を表わす。また、表わしはじめる。えがきいだす。
osveščat'
12.　「えぐり出す」
くりぬくようにして掘り出す。また、隠れているものを、明かるみに出す。
vykovyrivat', raskryvat'
13.　「選び出す」
多くのものの中から、目的に合うものを出す。せんしゅつする。えらびいだす。えらびいず。えらみいだす。えらみだす。
vybirat', otbirat', izbirat'
14.　「追い出す」
（1）ある場所から外へ追いやる。追い払って外へ出す。追い払う。
vygonjat', progonjat', izgonjat', vystavljat', vyprovaživat'
（2）ある特定の社会、組織、仲間、家族などの構成員であった者を除外して関係をたち切る。
isključat'
（3）追い出し薬を使って、こもった病毒を体外に発散させる。
vydeljat', ispuskat'
（4）追い出し算をする。
15.　「送り出す」
（1）出て行くのを送る。
provožat'
（2）品物を手許から他へ運び出す。送付する。
posylat', otpravljat'
（3）相撲で、相手の背を押して土俵の外へ出す。
vytalkivat'
16.　「押し出す」
【一】〔自サ五（四）〕
（1）（他のものより目立ち、表面に出ている状態についていう）下から上に出る。下から高く出る。中から外へ出る。
vychodit'
（2）（「て」「たる」などを伴って）世間に公然のものとなる。人に隠れないものとして知れわたる。
（3）大勢で遊山または遊所（あそびどころ）などに出かける。
vychodit'
（4）（人中に出て行き自分自身を積極的に目立たせようとするところから）
（イ）芸妓などが披露をする。自分自身を売り込みに人前に出て来る。
（ロ）目立つところへ出て行く。大勢の中へ出かけて行く。また、進出する。
【二】〔他サ五（四）〕
（1）力を加えて、外へまたは向こうの方へ出す。
vytalkivat', ottalkivat', vytesnjat'
（2）人中へ積極的に出す。格別のものとしてとりあげて人前に出す。
vystavljat'
（3）野球で、押し出しをする。
17.　「おっぽり出す」

捨てるようにして投げ出す。また、中途であきらめてやめてしまう。
vybrasyvat', vyšvyrivat'
18.　「おびき出す」
だましてさそい出す。おびきいだす。
zamanivat', vymanivat'
19.　「思い出す」
（1）前にあったことや忘れていたことを再び思う。おもいいだす。
vspominat', pripominat'
（2）ある考えが心に浮かぶ。おもいつく。おもいいだす。
pridumyvat'
（3）あることを考えはじめる。
zadumyvat'
20.　「織り出す」
（1）織って布を作る。また、織って紋様などを作り出す。
vytkat'
（2）織り始める。
（3）（比喩的に）いくつかの事柄がいりまじって、ある情景をつくり出すことにいう。
21.　「おん出す」
（「おいだす（追出）」の変化した語）　追い出すの俗語的な表現。
vygonjat', progonjat', izgonjat', vystavljat', vyprovaživat'
22.　「掻い出す」
（1）水などを汲み出す。
vygrebat', vyčerpyvat'
（2）人を誘い出す。おびき出す。
vymanivat', zamanivat', zavlekat'
23.　「抱え出す」
腕でかかえて外へ出す。
vynosit'
24.　「駆け出す」
（1）馬に乗って走り出す。人などが走る。また、走り始める。
（2）走って出る。
vybegat'
（3）ある場所から逃げ出す。出奔する。
ubegat'
25.　「貸し出す」
（1）貸付けのために、金品を支出する。
vydavat'（v dolg）, odalživat'
（2）本などを外部に貸す。
vydavat'（na dom）
26.　「稼ぎ出す」
（1）かせぎ始める。働き出す。
（2）働いて、ある額の金を得る。
zarabatyvat'
27.　「担ぎ出す」
（1）物を肩や背にになって運び出す。かつぎいだす。
vynosit'
（2）（比喩的に）上に立つ人として表面に押し出す。おだてて物事の表面に出す。かつぎいだす。
vydvigat'
（3）問題や話題、または、必要なものとしてとり上げ、持ち出す。かつぎいだす。
vydvigat'
28.　「駆り出す」
（1）（動物などを、その隠れている所から）追い立てて出す。かりいだす。かりいず。
vygonjat'
（2）ある目的のために、人をせかしたり、うながしたりして、引き出す。
vygonjat'
（3）（受身形で用いて）犯人を発見、逮捕することをいう、盗人仲間の隠語。〔隠語輯覧｛１９１５｝〕

（4）盗品を運び出すことをいう、盗人仲間の隠語。〔隠語輯覧｛1915｝〕
29.　「借り出す」
（1）借りて持ち出す。かりいだす。
zanimat'
（2）借り始める。
30.　「考え出す」
（1）考えた結果、手段、方法、着想などをうみだす。考案する。考えいだす。
zadumyvat', pridumyvat', vzdumyvat'
（2）考えはじめる。考えいだす。「考え出したらきりがない」
31.　「聞き出す」
（1）聞いて秘密などをさぐり出す。
vyvedyvat', razuznavat'
（2）聞くことをはじめる。聞きはじめる
（3）においをかいでそれと知る。
unjuchivat'
32.　「刻み出す」
細かに切って出す。また、彫って現わす。
vyrezat', vykolot', vyrubit'
33.　「繰り出す」
【一】〔自サ五（四）〕何人かが勢いこんで、出てくる。また、出かける。くりいだす。
otpravljat'sja
【二】〔他サ五（四）〕
（1）糸や綱などを繰って順々に出していく。また、ものを順々に引き出す。くりいだす。
vytaskivat', otpuskat'
（2）手元から勢いよく突き出す。
vystavljat', vydvigat'
（3）事実を探り出す。
vyvedyvat'
34.　「漕ぎ出す」
（1）漕いで舟などを出す。こぎいだす。
vyplyvat'
（2）漕ぐことを始める。居眠りを始める。
35.　「こしらえ出す」
工夫して物を作りだす。こしらえいず。こしらえいだす。
vydumyvat'
36.　「探し出す」
さがして見つけ出す。探りあてる。さがしいだす。
otyskat', razyskat'
37.　「探り出す」
（1）手さぐりでみつける。さぐりあてて取り出す。また、いろいろとさぐって目的の物事を知る。かぎだす。さぐりいだす。
razuznavat', vyvedyvat', pronjuchivat', dopytyvat'sja
（2）探し始める。
38.　「差し出す」
（1）前や上などの方向に出す。つき出す。さしのばす。さしいだす。
protjagivat'
（2）提出する。さしあげる。引き渡す。さしいだす。
podavat'
（3）遣わす。派遣する。
posylat', napravljat'
（4）郵便物などを送り出す。
otpravljat', posylat'
39.　「誘い出す」
人を誘って外に出す。おびきだす。また、比喩的に、相手の行為をうながすためにうまくしむける。
vymanivat', zamanivat', zavlekat'
40.　「さらえ出す」
すっかりかき集めて出す。ありたけ出す。
vyčiščat'
41.　「さらけ出す」

（1）追い出す。たたき出す。
vygonjat', progonjat'
（2）隠すところなく出す。また、ありのままに言う。ぶちまける。
obnaruživat', vykazyvat', otkryvat'
42.　「絞り出す」
絞って中の液体を外に出す。また比喩的に、知恵、考え、声などを苦心して出す。ひねりだす。しぼりいだす。しぼりいず。
vydavlivat', vyžimat', vydeljat', vypuskat', izdavat'
43.　「染み出す」
（1）外ににじみ出る。しみ出る。
prosačivat'sja, prostupat', vystupat'
（2）（比喩的に）次第に、ひとりでに表面に現われてくる。
projavljat'sja, pojavljat'sja
44.　「締め出す」
門戸を閉めて中に入れないようにする。外に追い出す。また、外部のものをある範囲の内にいれない。
vystavlyat', vytesnjat'
45.　「吸い出す」
気体や液体などを吸って、内から外へ出す。
vysasyvat', vytjagivat'
46.　「掬い出す」
すくって取り出す。すくって内から外へ移す。
vyčerpyvat'
47.　「救い出す」
危難を免れさせる。困ったり苦しんだりしている状態から助け出す。
izbavljat', vyručat'
48.　「刷り出す」
印刷しはじめる。また、印刷して世に出す。
napečatat'
49.　「磨り出す」
とぎみがいて光沢や模様をあらわし出す。
vytačivat'
50.　「煎じ出す」
煎じて汁を出す。煮て成分をしみ出させる。煮出す。
vyvarivat'
51.　「染め出す」
（1）染めて色や模様などをあらわし出す。そめいだす。そめいず。
nabivat'（tkan'）
（2）光などが、染めたかのようにあたりの色や姿をあらわし出す。
okrašivat'
52.　「たぐり出す」
たぐって引き出す。ひも状のものを少しずつ引き出す。たぐりいだす。
vytjagivat'
53.　「助け出す」
危険な目にあっている者をその場から救う。たすけいだす。
izbavljat', vyručat'
54.　「尋ね出す」
あちこち捜して見つけ出す。捜し出す。たずねいず。たずねいだす。
razyskivat', nachodit', otyskivat'
55.　「叩き出す」
（1）たたくことを始める。うちだす。
（2）たたいて外に出す。打擲（ちょうちゃく）して追いだす。また、たたくようにして出す。出すを強めていう語。追いだす。
vybivat', vygonjat', progonjat'
（3）金属をたたいて、模様などが浮き出るようにする。うちだす。
56.　「掴み出す」
物をつかんで取り出す。つかんで外へ放り

出す。また、無造作にとらえてつき出す。つまみ出す。
vygonjat', vystavljat', vyšvyrivat', vytaskivat'
57.　「突き出す」
〔一〕(突出)　(1) 外へ突いて出す。また、追い出す。
vytalkivat', vygonjat'
(2) 物を勢いよく出す。前の方へ出るようにする。出す。
vysovyvat', vystavljat', protjagivat'
(3) 犯罪者などを、番所・警察などに連行する。
(4)（自動詞的に用いて）建物や、その一部を外の方へ向かって張り出して設ける。また、そのような地形にもいう。
vysovyvat'sja, vystavljat'sja, protjagivat'sja
(5) 突き出し (3) として初めて客を取らせる、または披露する。
(6)（江戸深川の遊里語から）男女間の関係を断つ。あいそづかしをして手を切る。また、仲間はずれにしたりする場合にもいう。
(7) (自動詞的に用いて) 立ちあらわれる。勢いよく出る。くり出す。
58.　「作り出す」
(1) こしらえだす。製作する。また、新しく作る。創作する。考えだす。つくりいだす。
pridumyvat'
(2) 生産する。産出する。つくりいだす。
izgotavlivat', vypuskat'
(3) 作りはじめる。
59.　「つつき出す」
(1) つついて外に出す。
vytalkivat', vystavljat', vygonjat'
(2) 欠点や問題点をわざわざ指摘して問題とする。
ukazyvat'
60.　「積み出す」
貨物を船や車に積んで送り出す。出荷する。
otpravljat' gruz
61.　「連れ出す」
(1) 取り出す。また、持ち出す。
vynosit'
(2) 連れて外へ出す。誘って外へ出す。
vymanivat', vyvodit'
62.　「照らし出す」
（光をあてて）はっきり示す。見えなかったものを見えるようにする。
osveščat'
63.　「飛び出す」
(1) 人が内から外へとんで出る。また、走って出る。
vyletat', vyskakivat', vyprygivat', vybegat'
(2) 勢いよく出る。勢い込んで出る。また、急に突き出る。とびでる。
vychodit', vystupat', vydavat'sja
(3) 不都合があったりして家や故郷から急に出る。
uchodit', pokidat'
(4) 急に現われる。突然、眼前に現出する。
pojavljat'sja
(5) 飛び始める。「春になって蝶々が飛び出す」
64.　「取り出す」
(1) 取って出す。あるものの中から取って、外に出す。選び出す。とりいだす。
vynimat', vybirat'
(2) 芸娼妓などの身請けをする。請け出す。
vykupat'
65.　「流し出す」
流して外に送り出す。水などの力で外に移

動させる。
vylivat', smyvat'
66.　「流れ出す」
（1）「ながれでる（流出）」に同じ。
流れて出る。また、流れるように外部に出る。流出する。ながれいず。ながれだす。
vytekat', vylivat'sja
（2）流れはじまる。
67.　「投げ出す」
（1）投げて外へ出す。ほうり出す。また、投げるようにしてその場に置く。
vybrasyvat', vykidyvat', vyšvyrivat'
（2）座っている人が自分の足を前方にのばす。
vytjagivat'
（3）命、財産、権利などを惜しげもなく差し出す。
otdavat'
（4）事が完成しないうちに途中であきらめてやめてしまう。放棄する。
pokidat', otkazyvat'sja
（5）持ち出す。提出する。
vydvigat'
68.　「逃げ出す」
（1）逃げてその場を去る。逃げて出て行く。
ubegat', sbegat'
（2）逃げ始める。
69.　「にじり出す」
【一】〔自サ五（四）〕 ひざでじりじりと前に出る。座ったまま動いて前に出る。
pridvigat'sja, pododvigat'sja
【二】〔他サ五（四）〕　（1）押しつけてすり動かすようにして出す。
vytaskivat'
（2）泥中などから、ものを足でさぐって取り出す。
dostavat'
70.　「煮出す」
水または湯から煮て味や成分を出す。
otvarivat'
71.　「抜き出す」
（1）ひき抜いて出す。取り出す。
vytjagivat', vytaskivat', vynimat'
（2）多くの中から選び出す。より出す。
vybirat', otbirat'
（3）外に表わし出す。他より上に出す。つき出す。
vysovyvat', vystavljat'
（4）その部分だけをとり出して目立たせる。
otbirat', vybirat'
72.　「抜け出す」
（1）中から外に出る。
（イ）仕切られた場所から外へ出る。また、こっそりと出る。
sbegat'
（ロ）競っているものの中から抜けて先に出る。
vychodit'（vperëd）
（ハ）ある状態から離れ出る。
vychodit'
（2）抜け始める。「毛がぬけだす」
73.　「盗み出す」
盗んで持ち出す。ぬすみいだす。
ukradyvat'
74.　「乗り出す」
【一】〔自サ五（四）〕　（1）乗ることをしはじめる。のりいだす。
（2）乗物に乗って出発する。また、勢いよく出発する。くりだす。のりいだす。
vyezžat', otpravljat'sja, otplyvat', vychodit'
（3）進んで物事に関与する。積極的にその世界へはいっていく。

prinimat'sja, pristupat'
【二】〔他サ五（四）〕 （1）乗って船、馬などを進める。のりいだす。
（2）からだを前へぐっと出す。また、膝を進めて前へ出る。のりいだす。
naklonjat', vysovyvat'
75. 「這い出す」
（1）はって出る。はうようにして外へ出る。はいでる。
vypolzat'
（2）はいはじめる。
76. 「掃き出す」
（1）ちりやごみなどを外へ掃いて出す。
vymetat'
（2）不必要なものや悪いものなどを除き去る。追い出す。
（3）掃き始める。
77. 「吐き出す」
（1）口または胃の中にある物をはいて外へ出す。ほき出す。
vydychat', vyrvat', vycharkivat', vyplëvyvat', vypuskat'
（2）内から外へ出す。比喩的にもいう。
vydychat', vyrvat', vycharkivat', vyplëvyvat', vypuskat'
（3）心の中にあることを全部しゃべる。また、ことばに出す。
vyskazyvat'
（4）腹を立て、あるいは相手を軽蔑して乱暴にものを言う。多く「はき出すように」の形で用いる。はきすてる。
（5）たくわえている金品を出す。
otdavat'
（6）取引所の仲買人が呑玉（のみぎょく）を市場に建てる。〔取引所用語字彙｛1917｝〕
（7）吐き始める。
78. 「運び出す」
外に持って出る。内から外へ物を運んで出す。はこびいだす。はこびいず。
perenosit', vynosit', vytaskivat', perevozit', vyvozit', peredvigat'
79. 「挟み出す」
はさんで取り出す。つまみ出す。
vytaskivat'
80. 「弾き出す」
（1）はじいて外へ出す。
otbrasyvat', vybrasyvat', vyšvyrivat'
（2）のけものにして追い出す。
izgonjat', otstranjat'
（3）算盤（そろばん）で計算する。計算して利害得失を考える。また、費用をひねり出す。
podsčityvat'
（4）はじき始める。
81. 「跳ね出す」
除いて外に出す。のけ者にする。
isključat', izgonjat', otvergat', otklonjat', vyprygivat'
82. 「はみ出す」
（1）中にきちんとおさまらずに、外部へふくれ出る。すきまから外へあふれ出る。一定の範囲から一部が外へ出る。また、一定の規範に適合せず、そこからはずれる。はみでる。
vydavat'sja, vypirat', vytjagivat'sja
（2）食べ始める。食いだす。
83. 「払い出す」
（1）払いのける。追い出す。
vymetat', vytirat', vyčiščat', vygonjat', progonjat', izgonjat'
（2）金銭を支払い出す。金融機関や会社などが、事務処理として支払うような場合に

いう。
vyplačivat', raschodovat'
84.　「貼り出す」
広く示すために、紙や札に書いたものを人目にふれる所にかかげる。
raskleivat', vyvešivat'
85.　「張り出す」
【一】〔自サ五（四）〕 外へ出っぱる。突き出る。張り出る。
vystupat', vydavat'sja, navisat'
【二】〔他サ五（四）〕 （1）外へ出っぱらせる。外へひろげ出す。
86.　「引きずり出す」
ひきずって外へ出す。ひっぱり出す。また、むりやり出す。
vytjagivat', vytaskivat', vynimat', vyvodit', vyvolakivat'
87.　「引き出す」
（1）物や人を引いて外に出す。引っ張り出す。ひきいだす。ひきいず。
vytjagivat', vytaskivat', vynimat', vyvodit'
（2）連れ出す。誘い出す。引っ張り出す。
vymanivat', vytaskivat'
（3）遊女などを身請けする。請け出す。
vykupat'
（4）隠れている物事を表面に出す。引っ張り出す。ひきいだす。ひきいず。
vytjagivat', vynimat'
（5）事をひき起こす。発生させる。
vyzyvat'
（6）資金を、他の人や機関に出させる。
（7）預金や貯金を、預けてある所から出す。おろす。
（8）引合いに出す。また、引用する。
88.　「引っ張り出す」
（1）しまってある物をとり出す。ひっぱって出す。また、人をむりにつれだす。ひきだす。
vynimat', vytaskivat', vytjagivat', vyvodit'
（2）人を公的な役職などに強引に推挙する。
vydvigat'
89.　「ひねくり出す」
（1）ねじり、ゆがめて姿を現わす。
（2）「ひねりだす（捻出）（1）」に同じ。
（1）さまざまに考えをめぐらして案を出す。工夫して作り上げる。やっとつくり出す。また、適当につくり出す。ひねってつくり出す。
pridumyvat', vydumyvat'
90.　「ひねり出す」
（1）さまざまに考えをめぐらして案を出す。工夫して作り上げる。やっとつくり出す。また、適当につくり出す。ひねってつくり出す。
pridumyvat', vydumyvat'
（2）工面（くめん）して費用を調える。むりに金銭を都合する。
vyžimat', razdobyvat', izmyšljat', izyskivat', vykraivat'
91.　「拾い出す」
見つけ出して拾う。特定のものを選び出す。
podbirat', vybirat'
92.　「吹き出す」
【一】〔自サ五（四）〕
（1）風が吹きはじめる。ふきたつ。
（2）内にあるものが一気に外に出る。狭いところから勢いよく外に出る。あふれて外に出る。わき出る。噴出する。
vypuskat', izvergat', vybrasyvat'
（3）こらえかねて、ぷっと笑う。我慢しきれず急に笑い出す。
zachochotat', zasmejat'sja

（4）草木の芽が勢いよく出る。萌（も）え出る。
（5）相場が急に上がる。
93.　「踏み出す」
（1）踏んで足を前に出す。前方へ進む。足をある区域から外へ出す。また、比喩的に用いて、新しく仕事などを始める。着手する。ふみいず。ふみいだす。
vstupat', pristupat'
（2）長く歩いたため足にまめをつくる。また、足に腫物（はれもの）をつくる。足をわずらう。ふみいだす。
94.　「振り出す」
（1）容器を振って中から物を出す。ゆすって出す。
vytrjachivat', vymachivat'
（2）市（いち）で手を振って合図をし、せりの値をつける。
（3）物を振りはじめる。
（4）振出薬を湯の中で振り動かして、その成分を湯の中に溶け出させる。
（5）湯水につけて振ってよごれをおとす。
（6）振って、前方もしくは左、右などに出す。
（7）物事をし始める。
（8）為替または手形・小切手などを発行する。
vydavat', vystavljat', posylat'
（9）遊女などが客をつめたくあしらう。ふる。
95.　「放り出す」
（1）物などを投げて外へ出す。また、乱暴に外へ出す。
vybrasyvat', vyšvyrivat', vykidyvat'
（2）手に持った物などを目の前のような近くへ投げる。また、投げるようにして置く。むぞうさに置く。乱暴につき出す。
（3）仕事などをあきらめて途中でやめる。投げ出す。
zabrasyvat', prekraščat', otkladyvat'
（4）人をすげなく仲間や仕事から除外する。むりにやめさせる。また、世話しないで追い出す。
pokidat'
96.　「ほじくり出す」
ほじくってとりだす。転じて、隠された物事や、人のわずかな欠点などをむりにあばきたてる。
vykovyrivat', vykapyvat', raskapyvat', vypytyvat', dopytyvat'sja
97.　「ほっぽり出す」
（1）勢いよく投げ出す。また、むぞうさに投げ出したままにする。
vybrasyvat', vyšvyrivat', vykidyvat', vystavljat'
（2）あきらめて途中でやめる。投げ出す。
zabrasyvat', otkladyvat'
98.　「掘り出す」
（1）掘って中にある物を取り出す。また、比喩的に用いて、覆われている物事を表面に出す、不明のことを明らかにする意にいう。
vykapyvat', vyryvat', otkapyvat'
（2）思いがけなくよい品物を探しだす。安い値段で珍しい物を手に入れる。掘出し物を見つける。
vykapyvat', priobretat'
99.　「導き出す」
あることをもとにして、考えを引き出す。うまく働きかけてある状態を生じさせる。
privodit', zaključat'
100.　「見つけ出す」
発見する。目でさがしだす。見いだす。み

つけいだす。
otkryvat', obnaruživat'
101. 「召し出す」
「めしいだす（召出)」に同じ。
（1）上位者が目下の者を呼び出す。命じて呼び寄せる。めしいず。
vyzyvat'
（2）上位者が持って来させる。お取り寄せになる。召し寄せる。めしいず。
（3）召して官職、祿などを授ける。
prizyvat'
（4）目下の者に杯を与えて酒を飲ませる。
102. 「萌え出す」
（1）草木が芽ぶく。芽ぐむ。萌え出る。
raspuskat'sja, prorastat'
（2）転じて、心に思いがきざす。
103. 「持ち出す」
（1）手に持って外へ出す。内にあった物を外へ出す。かくれていた物を人目につく所へ出す。もちいず。もちいだす。
vyvozit', vynosit', unosit', uvozit'
（2）持ち始める。
（3）言い出す。話題にする。問題を人前に出す。提案する。
vynosit', vydvigat'
（4）訴えて出る。
（5）費用などを自分が負担する。費消する。また、予算以上になった費用を自分が負担する。
104. 「揉み出す」
（1）揉んで外へ出す。
vyžimat'
（2）揉み洗いをして、汚れなどをのぞく。
105. 「呼び出す」
（1）呼び寄せる。呼んで来させる。出頭させる。めしだす。召喚する。呼びいだす。
vyzyvat'
（2）呼んで外へつれ出す。呼んで誘い出す。呼びいだす。
vyzyvat'
（3）呼びはじめる。呼びいだす。
（4）電話の呼び出し音を鳴らす。電話口に出させる。
vyzyvat'
106. 「選り出す」
（1）より分けて外に出す。多くのものの中から、目的に合うものをえり抜いて取り出す。選び出す。えりだす。
vybirat', izbirat', otbirat'
（2）選ぶことを始める。
107. 「湧き出す」
液体などが底の方から表面に吹き出してくる。中からわいて出てくる。わきでる。
vystupat'
108. 「割り出す」
（1）割算をして答えを出す。また、計算によって結果を出す。算出する。
podsčityvat'
（2）ある根拠をもとにして考え出す。状況証拠から結論を導く。
ugadyvat', zaključat'
（3）あからさまにさらけ出す。
vykazat', vystavit'

5.2.3. 「～たつ」「～たてる」複合動詞の訳語に使用される動詞接頭辞

国語辞典および複合動詞の先行研究における「～たつ」「～たてる」の定義は以下のものである。なお，城田（1998）では後項動詞「～たつ」は取り上げられていない。

❑ 『日本国語大辞典』における「～たつ」の定義

【一】〔自タ五（四）〕

〔六〕補助動詞として用いる。他の動詞の連用形に付いて，さかんに…する，すっかり…するの意を表わす。

❑ 姫野（1999: 207-212）における「～たつ」の定義

姫野（1999: 209-212）は，後項動詞「～たつ」の意味を「直立（出現）」「出発」「感情の発露・高揚」「生起・昂進」「その他」の 5 つに分類している。

まず，「直立（出現）」の意味の場合，「そびえたつ」や「降りたつ」といった例で見られるように，本動詞「立つ」の本義が残され，「立つ」という動作の様相を表す機能を前項動詞が担っている。「出発」を表す「飛びたつ」や「舞いたつ」などの例でも本義が残されており，ここでも前項動詞によって後項動詞の様相が示されている。「感情の発露・高揚」の意味では，「いきりたつ」や「浮きたつ」のように，感情の動きを表す語を前項動詞に持つことで，人間の感情や気分が高まることが強調されるのに対し，「かおりたつ」や「煮えたつ」のような自然現象の発生を表すものは「生起・昂進」として分類されている。そして，これら 4 つの意味に該当しない「思いたつ」「引きたつ」「成りたつ」を「その他」として分類し，3 つの複合動詞に対して個別的な説明を与えている。「思いたつ」では，何かをしようとする思いが偶然起こることが表現されており，この偶然・無意志性という点で類似表現の「思いつく」との違いを明らかにしている。また，「引きたつ」については類似表現の「目立つ」と比較することで，肯定的な評価を伴うものであると説明されている。そして 3 つ目の「成りたつ」における後項動詞「～たつ」には「確立」の意味が含まれている。

➢ 語彙的複合動詞を構成する後項動詞「～たつ」の意味（姫野 1999: 207-212）

1) 直立（出現）:「突きたつ」「そびえたつ」「並びたつ」など
2) 出発 :「飛びたつ」「舞いたつ」「群がりたつ」など
3) 感情の発露・高揚 :「焦りたつ」「いきりたつ」「色めきたつ」など
4) 生起・昂進 :「煮えたつ」「においたつ」「沸きたつ」など
5) その他（一語化されていて分析しにくいもの）:「思いたつ」「引きたつ」「成りたつ」

なお，これらの意味のうち，後項動詞「～たつ」がなくとも文意が通じるものは「生起・昂進」であると姫野（1999: 211）は指摘している。また，前項動詞が表す動作が「～たつ」によって強調されていると考えれば「感情の発露・高揚」においても後項動詞なしで文意が通じると思われる。

続いて，後項動詞「～たてる」の定義を以下に引用する。

❑ 『日本国語大辞典』における「～たてる」の定義

〔他タ下一〕文語形は「た・つ」〔他タ下二〕

〔六〕補助動詞として用いる。他の動詞の連用形に付いて，さかんに…する，しきりに…するの意を表わす。

❑ 姫野（1999: 212-216）における「～たてる」の定義

後項動詞「～たてる」の意味については「直立（確立）」「顕彰・抜擢」「構築・達成」「強調・旺盛」の 4 つが挙げられている（姫野 1999: 208-216）。

「～たつ」の場合と同様，「直立（確立）」の意味で使用される「～たてる」には本動詞「立てる」の本義が保たれており，「突きたてる」「並びたてる」などの複合動詞がこれに該当する。また，「引きたてる」「とりたてる」のような登用の意味で使用される複合動詞は「顕彰・抜擢」に分類され，「組みたてる」「積みたてる」のような，何らかの動作の繰り返しによって目的を達成する複合動詞は「構築・達成」に分類されている。最後の「強調・旺盛」は動作がさかんに行われる様子を表し，「煮たてる」「塗りたてる」「書きたてる」など数多くの複合動詞が属する。

➢ 語彙的複合動詞を構成する後項動詞「～たてる」の意味（姫野 1999: 212-216）

1) 「直立（確立）」:「突きたてる」「打ちたてる」「蹴りたてる」など
2) 「顕彰・抜擢」:「引きたてる」「盛りたてる」「とりたてる」など
3) 「構築・達成」:「組みたてる」「積みたてる」「仕たてる」など
4) 「強調・旺盛」:「扇ぎたてる」「煮たてる」「塗りたてる」など

なお，これらの意味のうち，「直立（確立）」では前項動詞がなくとも文意が通じ，「強調・旺盛」では後項動詞がなくとも文意が通じると姫野（1999: 213, 215）は指摘している。

❑ 城田（1998: 146）における「～たてる」の定義

「～こむ」の場合と同様，城田は「～たてる」を「状態相動詞」[47]の中の「旺盛・強化相動詞」に分類し，「タテルはうごきが盛んに行われることを示す。住専問題ヲ週刊誌ガ書キタテル。ハヤシタテル」と説明している。

『日本国語大辞典』の「～たてる（たつ）」の例文はいずれも古典だが[48]，強調の意味であれば，姫野（1999）が指摘するように，現代語でも生きている。前項動詞が表す動作が「～たてる」によって「強調」されるという点に限って言えば，三者の説明は一致して

[47] 状態相動詞は「何らかの程度に主体の状態に言及しつつ，コト（動作）の流れの様子を表す」（城田 1998: 145）。

[48] 『日本国語大辞典』の「～たてる（たつ）」の例文として挙げられていたのは以下のものである：万葉集〔8C 後〕二〇・四三二〇「大夫（ますらを）の呼び多天（タテ）しかばさを鹿の胸分け行かむ秋野萩原〈大伴家持〉」，枕草子〔10C 終〕八四・里にまかでたるに「一夜は，せめたてられて，すずろなる所々になん率てありき奉りし」，徒然草〔1331 頃〕一〇「おほくのたくみの心をつくしてみがきたて」

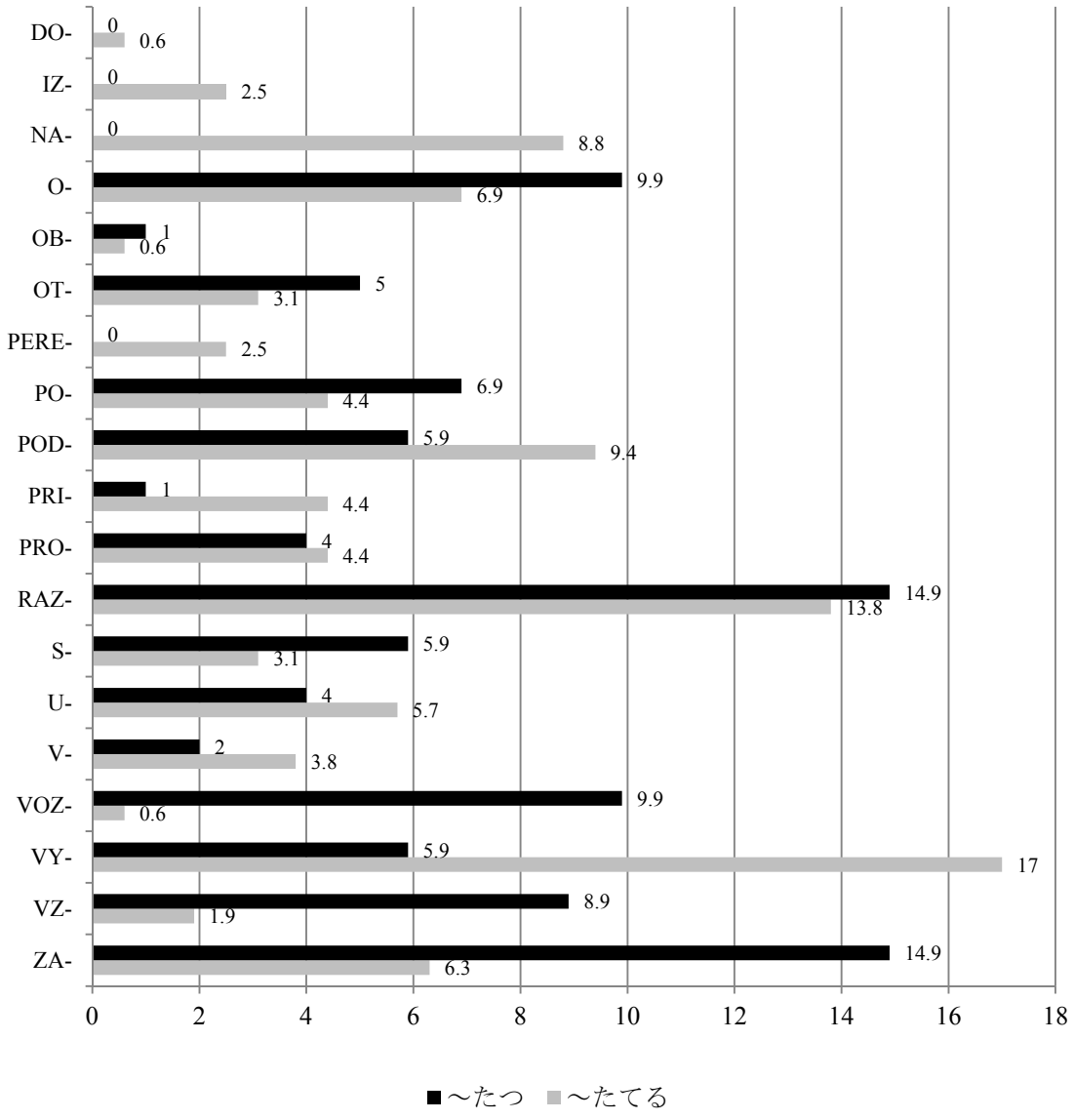
いる。

次に，「～たつ」「～たてる」両複合動詞の訳出調査の結果を表（図表 5-1），グラフ（図表 5-2）の形式で提示する。図表 5-1 における列 A は，訳語として登場した接頭辞付加動詞の数を，列 B は接頭辞付加動詞全体に対する当該接頭辞の割合を示している。そして，図表 5-1 における列 B の数値をグラフで表したものが図表 5-2 である。数値は全て%による表示である。

図表 5-1. 語彙的複合動詞「～たつ」「～たてる」の訳語に使用された動詞接頭辞の数と割合

ロシア語 動詞接頭辞	～たつ		～たてる		ロシア語 動詞接頭辞	～たつ		～たてる	
	A	B (%)	A	B (%)		A	B (%)	A	B (%)
DE-	-	-	-	-	PRE-	-	-	-	-
DIS-	-	-	-	-	PRED-	-	-	-	-
DO-	-	-	1	0.6	PRI-	1	1	7	4.4
IZ-	-	-	4	2.5	PRO-	4	4	7	4.4
NA-	-	-	14	8.8	RAZ-	15	14.9	22	13.8
NAD-	-	-	-	-	RE-	-	-	-	-
NEDO-	-	-	-	-	S-	6	5.9	5	3.1
NIZ-	-	-	-	-	SO-	-	-	-	-
O-	10	9.9	11	6.9	U-	4	4	9	5.7
OB-	1	1	1	0.6	V-	2	2	6	3.8
OT-	5	5	5	3.1	VOZ-	10	9.9	1	0.6
PERE-	-	-	4	2.5	VY-	6	5.9	27	17
PO-	7	6.9	7	4.4	VZ-	9	8.9	3	1.9
POD-	6	5.9	15	9.4	ZA-	15	14.9	10	6.3

図表 5-2．接頭辞付加動詞全体における各接頭辞の割合（～たつ，～たてる）



以下に，接頭辞付加動詞を訳語に使用しうる「～たつ」複合動詞 38 語，および「～たてる」複合動詞 44 語と，訳語として使用可能な接頭辞付加動詞（「～たつ」の場合は 101 語，「～たてる」の場合は 159 語）のデータを示す。なお，各複合動詞の定義は全て『日本国語大辞典』に従っている。

「～たつ」複合動詞とその訳語

1.　「いきせきたつ」【息急立】
「いきせききる（息急切)」に同じ。
大そう急いで、はあはあと息をつく。あえぎあえぎ急いで行動する。
zapychivat'sja

2.　「いきり立つ」
（1）熱湯や油などが、にえたぎる。沸騰する。にえたつ。
vskipat', zaburlit'
（2）血をわかしていきまく。怒って興奮する。

3.　「勇み立つ」
勢い込む。きおいたつ。奮起する。
utešat', obodrjat'

4.　「出で立つ」
（1）ある場所に出て立つ。
otbyvat', uezžat'
（2）外に現われる。出る。出てくる。
pojavljat'sja
（3）出発する。旅立つ。
otbyvat', otpravljat'sja
（4）宮仕えに出る。出仕する。
（5）立身出世する。
（6）整った姿をする。身じたくする。晴れの装束をつける。扮装する。
（7）山などがそびえ立つ。
vozvyšat'sja

5.　「色めき立つ」
（1）戦いに敗れる気配が現われる。動揺し始める。
vstrevožit'sja, zakolebat'sja
（2）緊張・興奮した様子がみなぎる。
razvolnovat'sja, vozbuždat'sja, oživljat'sja

6.　「浮き立つ」
（1）空中に浮かび上がる。立ち昇る。
podnimat'sja
（2）世間の状態、人の心などが動いて定まらない状態になる。
oživljat'sja, zaradovat'sja
（3）まわりの物から区別されて、よく目立つ。ひきたつ。
vydeljat'sja

7.　「生い立つ」
（1）（「おいだつ」とも）木や草などが生えて立つ。生長する。
vyrastat'
（2）子供がしだいに成長していく。育っていく。大きくなっていく。成人する。
vyrastat'
（3）比喩的に、考えや思いなどが広がっていく。
rasširjat'sja
【二】〔他タ下二〕子供をはぐくみ育てる。養育する。育てあげる。
vyraščivat'

8.　「思い立つ」
【一】〔他タ五（四)〕　（1）ある事をしようという考えを起こす。発起する。決意する。決心する。
zadumyvat', vzdumyvat'
（2）意気込む。気負う。自負する。
【二】〔他タ下二〕決意する。決心する。

9.　「降り立つ」
（1）馬や乗物などからおりて地上に立つ。高い所からおりて地上に立つ。
spuskat'sja
（2）川や田など、水のある低い所におりて行く。田にはいって働く。
（3）自分で手を下して物事を行なう。立ち入ってふるまう。
（4）身も心も打ち込む。熱中する。懸命に

なる。
10.　「おりたつ」【織立】
【一】〔他タ四〕　織る。織りあげる。
sotkat', vytkat'
【二】〔他タ下二〕　【一】に同じ。
11.　「気負い立つ」
あることをしようと、はりきった気持になる。きおいこむ。意気込む。
vozbuždat'sja
12.　「きっ立つ」
【一】〔自タ四〕　まっすぐにそびえ立つ。直立する。切り立つ。
podnimat'sja
【二】〔他タ下二〕　そびえ立たせる。直立させる。
13.　「切り立つ」
【一】〔自タ五（四）〕　山肌や崖（がけ）などが、刃物で切ったように鋭い傾斜でそびえ立つ。
podnimat'sja
【二】〔他タ下二〕　＝きりたてる（切立）。
（1）切りはじめる。切りかかる。
（2）激しく切って相手を圧倒する。切りまくる。
porubit', poseč', zarezat', porezat'
（3）石を切断する。石を割る。
（4）山肌、崖（がけ）などを切って立てたように鋭くそばだたせる。
14.　「きりたつ」【切裁】
切りはなす。切断する。
otrezat', razrezat'
15.　「狂い立つ」
感情が、狂ったようにわきあがる。すっかり狂ったようになる。狂ったような振舞をする。
pomešat'sja
16.　「ささくれ立つ」
ささくれた状態になる。ささくれができて目立つ。また、感情がとげとげしく荒くなる。
rasščepljat'sja, raskalyvat'sja
17.　「騒ぎ立つ」
【一】〔自タ四〕
（1）やかましい音を出しながら立ち去る。さわがしく発（た）つ。
（2）大勢の者が蜂起する。
（3）（「たつ」は接尾語）さわぎはじめる。また、さかんにさわぐ。
rasšumet'sja
（4）（「たつ」は接尾語）気持が落ち着きを失いはじめる。不安になってくる。
razvolnovat'sja, rastrevožit'sja
【二】〔自タ下二〕＝さわぎたてる（騒立）。騒々しくする。また、ことさらにうるさく言う。
rasšumet'sja
18.　「ざわめき立つ」
落ち着きがなく、さかんにさわぎ動く。
razvolnovat'sja, rasšumet'sja
19.　「急き立つ」
（1）いそぐ。あせっていらだつ。はやる。
zatoropit'sja, pospešit'
（2）怒りでかっとのぼせあがる。
razdražat'sja
【二】〔他タ下二〕　＝せきたてる（急立）。ある動作をすぐさまするように促す。
20.　「そそけ立つ」
（1）ほつれ乱れる。表面がざらざらする。けばだつ。そそける。
obtrëpyvat'sja
（2）恐怖や寒さのために身の毛がよだつ。ぞっとする。

（3）気分、感情などがすさむ。
odičat'
21.　「そそり立つ」
（1）高くそびえる。そびえ立つ。
vozvyšat'sja
（2）心が浮きたつ。浮かれて騒ぎ出す。
22.　「そびえ立つ」
そびえて立つ。そばだって立つ。
vozvyšat'sja
23.　「たぎり立つ」
煮えたぎってわき立つ。
zaburlit', vskipat'
24.　「たけり立つ」
（1）盛んにたける。ひどく興奮する。興奮してわめく。
razbuševat'sja, rassvirepet'
（2）風、波などが激しく荒れ狂う。
razbuševat'sja, rassvirepet'
25.　「突き立つ」
【一】〔自タ五（四）〕
（1）急に立ち上がる。つったつ。
vozvyšat'sja
（2）突きささる。
vtykat'sja
【二】〔他タ四〕「つきたてる（突立）〔一〕（1）」に同じ。
vtykat'
【三】〔他タ下二〕＝つきたてる（突立）。
（1）突き刺して立てる。また、勢いよく突き入れる。つっこむ。つきたつ。
vtykat'
（2）激しく突く。突きまくる。また、突きやぶる。突破する。
probivat', prorezat'
（3）表面に押し立てる。もりたてる。
〔二〕（築立）きずき立てる。造りあげる。こしらえおわる。ついたつ。
sooružat', vozdvigat'
26.　「突っ立つ」
（1）まっすぐに立つ。勢いよく立つ。
vozvyšat'sja
（2）何もしないでただ立つ。ぼんやり立つ。
（3）突き刺さる。
vtykat'sja
【二】〔他タ下二〕＝つったてる（突立）。
（1）先の鋭いものを勢いよく突き刺す。
vtykat'
（2）まっすぐに立てる。勢いよく立てる。
27.　「飛び立つ」
（1）とんでその場を離れる。とびあがる。とびさる。
vzletat', podnimat'sja（v vozduch）
（2）感情が激して心がそわそわする。うれしさに胸がおどる。おどりあがる。
28.　「並び立つ」
（1）ならんで立つ。なみたつ。
vystraivat'sja
（2）対等の位置にならぶ。同等の勢力を持つ。肩を並べる。
29.　「成り立つ」
（1）一人前になって世に立つ。人となる。成長する。立身する。
sostojat'sja
（2）ある状態・事態にたち至る。すっかりそういう気持になる。
osuščestvljat'sja
（3）ある要素が組みたてられてできあがる。また、まとまったり、認められたり、結論を得たりしてある状態ができあがる。
sostojat', osuščestvljat'sja
（4）経済的にやっていける状態になる。「商売が成り立たない」

proderživat'sja
30.　「煮え立つ」
（1）沸騰してぐらぐらとわきたつ。にえあがる。にえかえる。
vskipat'
（2）感情が激しく動く。ひどく怒る。
vskipat'
31.　「煮立つ」
【一】〔自タ五（四）〕 煮えてわきたつ。十分に熱せられてよく煮える。煮えたつ。
zakipat', provarivat'sja
【二】〔他タ下二〕 ＝にたてる（煮立）。十分に煮えたたせる。熱してよく煮る。煮たたす。
32.　「はやり立つ」
心が勇み立つ。勢いこむ。はやりごつ。
razdražat'sja, vozbuždat'sja
33.　「引き立つ」
【一】〔自タ五（四）〕
（1）勢いがよくなる。
（イ）状況がさかんになる。活発になる。
oživljat'sja
（ロ）気分・気力の勢いがよくなる。元気づく。気力が加わる。
oživljat'sja
（2）一段とみごとに見えるようになる。特に目立つ。きわだつ。
vydavat'sja
（3）しりぞく態勢になる。逃げ腰になる。浮足立つ。
otstupat'
【二】〔他タ下二〕 ＝ひきたてる（引立）。
（1）横になっている物や人を引っ張って立つようにする。引き起こす。
podnimat'
（2）戸、障子などを、引き出してたてる。引いて閉じる。
zadvinut'
（3）引いてきた車などを、とめる。車をとどめる。
（4）馬などを、引いて連れ出す。引いて連れて行く。
uvodit'
（5）いっしょに連れて行く。いっしょに行くようにせきたてる。また、無理に連れて行く。連行する。
uvodit', otvodit'
（6）人や、ある方面の事柄を、重んじて特に挙げ用いる。特に目をかける。ひいきにする。
pokrovitel'stvovat'
（7）勢いがよくなるようにする。気分・気力の勢いをよくする。気を奮い立たせる。
obodrjat'
（8）一段とみごとに見えるようにする。特に目立つようにする。きわだたせる。
（9）注意を集中する。特に、聞き耳を立てる。
prislušivat'sja, vslušivat'sja
34.　「引っ立つ」
【一】〔自タ五（四）〕 （1）勢いがよくなる。盛んになる。元気になる。
oživljat'sja
（2）きわだって見える。めだつ。はえる。
【二】〔他タ下二〕 ＝ひったてる（引立）。
（1）引いて立たせる。引き起こす。引っぱって持ち上げる。また、立てるを強めていう語。
podnimat'
（2）無理に連れて行く。手荒に引っぱって行く。
uvodit'

（3）無理に取り上げる。しいて金を棒引きにする。
（4）勢いをつける。元気をだす。
oživljat', obodrjat'
（5）歌舞伎の「暫（しばらく）」の場面で、花道へ登場した主人公を揚幕の方へ追い払う。
35.　「奮い立つ」
【一】〔自タ五（四）〕 ある行動をしようとする気力がみなぎる。心が勇みふるう。勇みたつ。奮起する。
obodrjat'sja
【二】〔他タ下二〕 **=** ふるいたてる（奮立）。弱気になりそうな心を勇みたたせる。心を勇みふるわせる。奮起させる。
36.　「燃え立つ」
（1）さかんにもえる。炎が勢いよく燃えあがる。また、赤い色などがあざやかに輝くたとえにいう。
vspychivat', zagorat'sja
（2）感情が激しくわきおこる。
zapylat'
37.　「萌え立つ」
さかんに芽を出す。
raspuskat'sja
38.　「沸き立つ」
（1）液体が底の方から激しく盛り上がってくる。湯が煮えたつ。また、そのように物事が生じる。
vskipat', zaburlit'
（2）雲などが、むくむくとひろがり起こる。
（3）激しい感情が突き上げてくる。胸が騒いで興奮状態になる。
vozbuždat'sja, zavolnovat'sja
（4）大勢が熱狂して騒ぐ。わきかえる。
（5）発酵する。
zabrodit'

「～たてる」複合動詞とその訳語

1.　「煽り立てる」

（1）風などの勢いで、物を激しく動かす。

razduvat', napolnjat'

（2）はたから、盛んにそそのかす。ある感情を盛んにさせる。扇動する。

razduvat', razžigat'

2.　「暴き立てる」

他人の秘密、失敗、悪事などをしきりにさぐって公表する。

razoblačat', raskryvat'

3.　「洗い立てる」

（1）くりかえし念を入れて洗う。じゅうぶんに洗う。

vystiryvat'

（2）他人の品行や悪事などの真相を探り出して、ことさらにあばき出す。内情をあばきたてる。

doiskivat'sja, vypytyvat', razoblačat'

4.　「言い立てる」

（1）特に取り立てて言う。強調する。主張する。言い張る。

utverždat', zajavljat', nastaivat', ukazyvat'

（2）次々と数え上げて言う。列挙して強く述べる。数え立てる。

perečisljat'

（3）目上の人に向かって言う。申し上げる。

（4）言いふらす。評判を立てる。

（5）宣伝の口上を述べる。

5.　「打ち立てる」

（1）（「うち」は接頭語）力強く立てる。つきさす。うったてる。

vbivat', vtykat'

（2）（「うち」は接頭語）声をあげる。大きく響かせる。

（3）盛んに打つ。打ちまくる。

（4）うどん、そばなどを作り上げる。

（5）（「うち」は接頭語）作りあげる。建てる。定める。確立する。

6.　「埋め立てる」

（1）大きな規模で土地を埋める。多く、川や海などを埋めて陸地とする場合にいう。

zasypat', osušat'

（2）一心に埋める。さかんに埋める。

zakapyvat', zaryvat'

7.　「追い立てる」

（1）今いる場所から強制的に立ち退かせようとする。追い出してほかへ行かせようとする。立ち退きを迫る。追い払おうとする。おったてる。

vygonjat', izgonjat', vyprovaživat'

（2）ぐずぐず行く者を後ろからせきたてて早く行かせる。追いやる。おったてる。

pogonjat'

（3）せきたてるようにして、物事をさせる。

8.　「押し立てる」

（1）押し起こして立てる。押し付けて立てる。

podnimat'

（2）戸や屏風などを押しやってとざす。しめる。

（3）（「おし」は接頭語）先に立てる。前を行かせる。

（4）しいて行なわせる。むりじいする。強要する。

prinuždat', vynuždat'

（5）力を加えて前の方に進める。押し出す。

vytalkivat', vydvigat'

9.　「追っ立てる」

（1）せき立てて行かせる。また、隠れている動物などをおどして姿を現わすようにさせる。

pogonjat', vygonjat'
（2）追ってその場から去らせる。追いはらう。
vygonjat', izgonjat'
10.　「書き立てる」
（1）（「たてる」は、目だつようにする、りっぱにするの意）
（イ）美しくりっぱに書く。字などをじょうずに飾りたてて書く。
vypisyvat'
（ロ）（新聞、雑誌の記事などを）目だつように、センセーショナルに書く。大々的にとりあげて書く。
opisyvat'
（2）（「たてる」は、数えあげる意）ひとつひとつ箇条書きにする。項目などを並べて書く。一つ書きにする。
perečisljat'
（3）（「たてる」は、ある動作をしたばかりの意か）
11.　「掻き立てる」
（1）かきまわして、下の方にあるものをわき上がらせる。また、勢いよくかき混ぜる。
razmešivat'
（2）弦楽器をひいて鳴らす。かき鳴らしてよい音を出す。
（3）灯心や燃えているものなどをかき出して火の勢いを強くする。かきおこす。多く、ともしびの芯（しん）を出して明るくする場合に用いられる。
podkručivat'（fitil'）
（4）強い刺激を与えて、心の奥にひそんでいる感情をわき上がらせる。強く刺激する。そそる。
probuždat'
12.　「飾り立てる」
盛装する。また、必要以上にけばけばしく飾る。
razodet'sja, prinarjadit'sja, ukrašat', razukrašivat'
13.　「数え立てる」
（1）物事をとりあげて、一つ一つ数える。
perečisljat'
（2）とりあげて、特にある仲間の数のうちに入れる。
14.　「駆り立てる」
（1）（獲物などを、手に入れるために）さがし出して、追い立てる。
vygonjat', sgonjat'
（2）（意志に反して）無理に行動させる。ある行動をするように、無理に追いやる、し向ける。
pogonjat', podgonjat'
（3）（馬、乗物などを）さかんに走らせる。無理やり走らせる。
zagonjat', zaezdit'
（4）何かに対する気持を勢いづかせる。
podstrekat', pobuždat'
15.　「組み立てる」
いろいろなものを組み合わせて、ひとつのまとまったものに作り上げる。構成する。また、組織する。
sobirat', sostavljat'
16.　「差し立てる」
〔一〕（「さし」は接頭語）
（1）突きさして立てる。かかげる。あげる。
（2）人をさし向ける。また、囚人などを送り移す。
posylat', otpravljat', napravljat'
（3）郵便物などを発送する。送り出す。
posylat', otpravljat'
（4）箱、畳のような手づくりの仕事を完成

させる。
〔二〕（「さし」は挿すの意）さし入れて立てる。
vstavljat'
17.　「仕立てる」
（1）目的に合った、望ましい状態につくりあげる。仕あげる。
prigotovljat', sostavljat'
（2）特に、衣服をつくりあげる。
（3）美しくこしらえる。飾りたてる。
ukrašat', narjažat'
（4）あることをやりとげる。なしとげる。しでかす。
vypolnjat', osuščestvljat', provodit'
（5）事件や話を、芝居などの作品に作り上げる。
（6）ある役柄に扮装（ふんそう）させる。また一般に、姿や身振りなどをある人物らしく見えるようにする。
vydavat', vystavljat'
（7）事実でない物事をいかにも事実らしいようにつくりあげる。　「悪人に仕立てる」
vydumyvat', vydavat'
（8）教えこんで一人前のものにする。養成する。しこむ。
vospityvat', podgotavlivat'
（9）治療する。または、病気を回復させる。
（10）ととのえる。用意する。支度する。
podgotavlivat', prigotavlivat'
18.　「せがみ立てる」
しきりにせがむ。うるさく催促する。せめたてる。
vyprašivat', vykljančivat'
19.　「急き立てる」
ある動作をすぐさまするように促す。
podgonjat'
20.　「突き立てる」
〔一〕（突立）
（1）突き刺して立てる。また、勢いよく突き入れる。つっこむ。つきたつ。
vtykat'
（2）激しく突く。突きまくる。また、突きやぶる。突破する。
probivat', prorezat'
（3）表面に押し立てる。もりたてる。
〔二〕（築立）きずき立てる。造りあげる。こしらえおわる。ついたつ。
sooružat', vozdvigat'
21.　「突っ立てる」
（1）先の鋭いものを勢いよく突き刺す。
vtykat'
（2）まっすぐに立てる。勢いよく立てる。
22.　「積み立てる」
（1）積んで高くする。積みあげる。
nagromoždat', navalivat', nakaplivat'
（2）金銭を貯金などしてだんだんふやしていく。
nakaplivat', zapasat', otkladyvat'
23.　「とがめ立てる」
取りたててそのことをとがめる。必要以上に強くとがめる。
ukorjat', osuždat'
24.　「説き立てる」
意見、考えなどを強く説いてきわだたせる。
raz"jasnjat', ob"jasnjat'
25.　「取り立てる」
（1）取り上げる。取り上げて立てる。取ってかまえる。
podnimat'
（2）並べ立てる。そろえる。調える。用意する。
rasstavljat', podbirat'

（3）特に取り上げていう。特別のものとして数え上げる。
（4）特にひいきにする。引き立てる。推挙する。登用する。また、面倒を見る。世話をする。
pokrovitel'stvovat', podderživat', prodvigat', vydvigat'
（5）仕立て上げる。髪を結う。
（6）取り去る。ひきはらう。片付ける。
ubirat'
（7）催促して徴収する。また、強制的に取る。
vzimat', vzyskivat'
26.　「怒鳴り立てる」
さかんにどなる。大声でわめきたてる。
nakričat', vyrugat', vybranit'
27.　「鳴き立てる」
（1）（泣立）大声をあげて泣く。しきりに泣きわめく。泣き立つ。
rasplakat'sja
（2）（鳴立）虫、獣、鳥などが声高に鳴く。しきりに鳴く。
razlajat'sja, razčirikat'sja
28.　「並べ立てる」
（1）ならべてたてる。一つ一つならべる。いくつもならべる。
vystavljat', vykladyvat'
（2）数えるようにならべあげてあれこれいう。次から次へと列挙していいたてる。
perečislat', vyskazyvat'
29.　「煮立てる」
十分に煮えたたせる。熱してよく煮る。煮たたす。
provorit', vskipjatit'
30.　「塗り立てる」
（1）十分に塗る。きれいに塗り飾る。また、さかんに塗る。
vykrašivat'
（2）白粉や紅などをやたらに塗る。厚化粧をする。
nakrasit'sja, narumjanit'sja, napudrit'sja
31.　「述べ立てる」
しきりに述べる。あれこれと述べる。
vyskazyvat', rasskazyvat', izlagat'
32.　「はやし立てる」
盛んにはやす。
raschvalivat', nasmechat'sja
33.　「引き立てる」
（1）横になっている物や人を引っ張って立つようにする。引き起こす。
podnimat'
（2）戸、障子などを、引き出してたてる。引いて閉じる。
zadvigat'
（3）引いてきた車などを、とめる。車をとどめる。
（4）馬などを、引いて連れ出す。引いて連れて行く。
uvodit'
（5）いっしょに連れて行く。いっしょに行くようにせきたてる。また、無理に連れて行く。連行する。
uvodit', otvodit'
（6）人や、ある方面の事柄を、重んじて特に挙げ用いる。特に目をかける。ひいきにする。
podčërkivat'（dostoinstvo）, pokrovitel'stvovat'
（7）勢いがよくなるようにする。気分・気力の勢いをよくする。気を奮い立たせる。
obodrjat', podnimat'（duch）
（8）一段とみごとに見えるようにする。特に目立つようにする。きわだたせる。

（9）注意を集中する。特に、聞き耳を立てる。
prislušivat'sja, vslušivat'sja
34.　「引っ立てる」
（1）引いて立たせる。引き起こす。引っぱって持ち上げる。また、立てるを強めていう語。
podnimat'
（2）無理に連れて行く。手荒に引っぱって行く。
uvodit'
（3）無理に取り上げる。しいて金を棒引きにする。
（4）勢いをつける。元気をだす。
oživljat', obodrjat'
（5）歌舞伎の「暫（しばらく）」の場面で、花道へ登場した主人公を揚幕の方へ追い払う。
35.　「振り立てる」
（1）勢いよく振り動かしながら立てる。ふりおこす。
（2）高い声・音をたてる。声などをはりあげる。
（3）勢いよく振る。大きく振る。
razmachivat', raskačivat'
（4）茶を振りだしてたてる。
36.　「弁じ立てる」
次から次へと一方的に話をする。さかんに話したてる。まくしたてる。
zagovorit', rasprostranjat'sja
37.　「吠え立てる」
はげしく吠える。
razlajat'sja, razrevet'sja, razvyt'sja
38.　「誉め立てる」
「ほめそやす（誉揚）」に同じ。
やたらにほめる。しきりにほめる。ほめちぎる。ほめたてる。ほめたたえる。ほめちらす。
raschvalivat', voschvaljat'
39.　「磨き立てる」
（1）たんねんに磨く。しきりに磨く。一層磨きこむ。転じて、一段とすぐれたものにする。さらに立派にする。
načistit', nateret', otšlifovat'
（2）化粧などをして、美しく装う。
prichorašivat'sja
40.　「見立てる」
（1）しっかり見定めて立てる。
ocenivat'
（2）見て、適当なものを選び出す。見こみをつけて良い悪いを定める。よいものを選ぶ。目をつける。
vybirat', otbirat'
（3）人が出発するのを見送る。門出を見送る。
provožat'
（4）世話をする。養成する。後見する。
（5）目の前にあるものを、それと共通点のある別のものだと仮に見なしたり扱ったりする。なぞらえる。
upodobljat'
（6）物事を判断する。病状を診察する。診断する。
（7）見くびる。軽蔑する。
（8）遊客が相方の女郎を選ぶ。
41.　「申し立てる」
（1）取り立てて申しあげる。強調して申す。
izlagat', utveržda t'
（2）官府に願いや意見を上申する。特に、訴訟において一定の訴訟行為を求める意思表示をする。申告する。申請する。
zajavljat'

42.　「守り立てる」
（1）（守立）まもり育てる。大切に養育する。保育する。
vospityvat'
（2）援助して、よい地位につかせる。励まし助ける。
podderživat', obodrjat'
（3）衰えたのをふたたび盛んにする。再興する。また、なんとかそれらしく体裁をとりつくろおうとする。
podnimat', oživljat'
43.　「もりたてる」　【盛立】
器に料理などを立派に盛りつける。
vykladyvat'
44.　「呼び立てる」
【一】〔自タ下一〕＝よびた・つ〔自タ下二〕
大声を出す。声を張り上げる。声高（こわだか）に呼ぶ。
vykrikivat'
【二】〔他タ下一〕＝よびた・つ〔他タ下二〕
（1）わざわざ招き寄せる。呼び寄せる。
podzyvat', priglašat'
（2）声をかけて相手の注意をこちらに向けさせる。呼びかける。
prizyvat', oklikat'

5.3. 小結

図表 3 から図表 5 で示した調査結果から，各後項動詞の訳語に使用される傾向にある動詞接頭辞について考察を行う。

まず，「～こむ」複合動詞の訳語として使用されていた動詞接頭辞のうち，最も高い割合で使用されていたのは V-（31.2%）である。この V-の使用率と，二番目に高い割合で訳語に使用されていた ZA-（23.1%）の使用率を合算すると 54.3%となる。つまり，これら 2 種類の動詞接頭辞は，動詞接頭辞の使用率全体のほぼ半分を占めているのである。なお，V-, ZA-以外の動詞接頭辞が使用される割合はいずれも 10%以下であり，その中で比較的高い数値を示している S-（7.6%）および NA-（6.3%）の割合を合算しても，V-単独の数値には遠く及ばない。

次に，「～でる」複合動詞の訳語の場合を見ると，接頭辞 VY-が 51.8%という突出して高い数値を示しており，VY-単独の数値だけで過半数に達している。VY-の次に高い数値を示しているものとしては PO-（10.9%）がある。その他の動詞接頭辞はいずれも 10%を下回っており，5%を上回るものであれば U-（7.3%），PRO-（6.4%）が挙げられる。

「～でる」複合動詞で見られた傾向は「～だす」複合動詞の訳語においても確認できる。「～だす」複合動詞の訳語においてもまた VY-を使用する例が最も多く，その 56.2%という割合を見ても分かるように，ここでも単独で過半数を占めている。一方で，VY-以外の接頭辞が示す数値はいずれも 10%を下回っており，その中では OT-（7.3%）や IZ-（5.6%）が比較的高い割合を示している。

このように，「～こむ」「～でる」「～だす」各複合動詞の訳語では，1 種類ないし 2 種類という少数の動詞接頭辞が全体の割合における過半数を占めているため，これらの後項動詞の訳語として対応する動詞接頭辞のおおよその傾向を把握することができる。

しかしながら，「～たつ」「～たてる」の場合は多少，事情が異なっている。

「～たつ」複合動詞の訳語として使用されていた動詞接頭辞の中で最も大きな割合を占めているのは RAZ-および ZA-である。ただし，どちらの数値も 14.9%であり，双方の数値を合算しても 3 割に満たない。また，最も高い RAZ-, ZA-の割合とその他の接頭辞の割合との差を見ても，O-と VOZ-がともに 9.9%，VZ-が 8.9%，PO-が 6.9%，POD-, S-, VY-がそれぞれ 5.9%という数値を示しているように，「～こむ」「～でる」「～だす」の場合に見られたような大きな開きは見られない。

「～たてる」複合動詞の訳語の場合では，最も大きな割合を示した VY-（17%）と，その次に大きな割合をしめした RAZ-（13.8%）を合算すると 3 割に到達するが，「～たつ」のケースと同様に，少数の接頭辞で過半数を占めるような状況は確認できない。VY-, RAZ-以外の接頭辞の数値を見ると，POD-が 9.4%，NA-が 8.8%，O-が 6.9%，ZA-が 6.3%，U-が 5.7%となっており，最も高い VY-, RAZ-との間にそれほど大きな開きがあるとは言えない。

かくして，「～たつ」「～たてる」両複合動詞の訳語に関しては，特定の動詞接頭辞が圧倒的に高い割合で使用されるといった明確な傾向があるとは言えない。しかしながら，接頭辞付加動詞を用いた訳語の中で，「～たつ」では RAZ-と ZA-が，「～たてる」では VY-と RAZ-が，それぞれ合算すると 3 割に近い使用率を示しているという事実を以て，小さな傾向が存在していると言える。

最後に，各後項動詞を使用した複合動詞の例文と接頭辞付加動詞を使用した訳例を，使用率が高かった動詞接頭辞を中心にして以下に記載する[49]。複合動詞の例文は，国立国語研究所の『少納言 KOTONOHA 現代日本語書き言葉均衡コーパス』を使用して収集した。

［「～こむ」複合動詞，接頭辞 V-］

1) 「落とし込む」Vbrasyvat'
玄関のドアの郵便受けに何か<u>落とし込む</u>ような音が聞こえる。（井口泰子『花悪夢』）
Poslyšalsja zvuk, kak budto čto-to ***vbrosili*** v počtovyj jaščik na vchodnoj dveri.

2) 「打ち込む」Vbivat'
それからぼくの手に釘を<u>打ち込んだ</u>んだ。（シドニィ・シェルダン; 天馬竜行訳『天使の自立』）
I ***vbil*** v moi ruki gvozdi.

3) 「書き込む」Vpisyvat'
その名簿に自分の名前も<u>書き込んだ</u>。（本田靖春『本田靖春集』）

[49] ロシア語の動詞の過去形では，主語が単数の場合，主語の性別および文法的性によって語尾が変化する。このため，コーパスから引用した文章の中で，動詞述語が過去時制で，かつ動作主の性別が不明な場合，男性と仮定して翻訳した。なお，例文中の複合動詞の訳語は状況に応じて形動詞または副動詞によって訳出している場合がある。

I imja svoë ***vpisal*** v tot spisok.

4) 「駆け込む」Vbegat'

部屋を飛び出して，近くの化粧室に駆け込む。（三田誠『烙印よ，虚ろを満たせ。』）

Vyletev iz komnaty, on ***vbegaet*** v raspoložennuju rjadom ubornuju.

5) 「吸い込む」Vtjagivat'

信幸さんはなんとなく訊いてないフリをしてタバコを深く吸い込んだ。（朝生みお『君に逢える日まで』）

Nobujuki-san sdelal vid, čto on ne slušaet, i gluboko ***vtjanul*** sigaretu.

6) 「差し込む」Vstavljat'

はるかは懐中電灯でドアノブを照らし，小さな鍵を差し込んだ。（蓮見圭一『ラジオ・エチオピア』）

Haruka, osvetiv fonarikom dvernuju ručku, ***vstavila*** malen'kij ključ.

7) 「組み込む」Vključat'

砂丘見物し，２泊とも温泉宿を組み込む予定だ。（『週刊朝日』2004 年 10 月 29 日号）

Planiruetsja ***vključit'*** osmotr djun i 2 noči v gostinice na gorjačich istočnikach.

8) 「すすり込む」Vtjagivat'

椀を直接口につけて，粥をすすり込んだ。（赤城毅『滅びの星の皇子』）

Priloživ pialo prjamo ko rtu, on ***vtjanul*** kašu.

9) 「擦り込む」Vtirat'

山羊皮を脱毛後，皮の両面に良く塩を擦り込む。（足立達『乳製品の世界外史』）

Udaliv s koži kozla volosy, horošo ***vteret'*** sol' s obeich storon koži.

10) 「飛び込む」Vskakivat'

素足のまま部屋を飛び出した彼女は，管理人室に飛び込んだ。（草川隆『永井荷風・秘本の殺人』）

Vyletev iz komnaty s bosymi nogami, ona ***vskočila*** v komnatu k upravljajuščemu.

［「～こむ」複合動詞，接頭辞 ZA-］

11) 「注ぎ込む」Zalivat'

光そそぎ込む店内，香ばしいコーヒーの香り […]（朝日新聞日曜版編集部編『この地球で私が生きる場所』）

Zalitoe svetom kafe, aromat blagouchajuščego kofe […]

12) 「覗き込む」Zagljadyvat'

会議机の上に拡げた一枚の覚書を覗き込みながら小聲で言葉を交わしていた小林，穂積両刑事は，短いが切れの良い返事とともに相次いで起ち上がった。

（遊馬捷『罅われた湖』）

Kobayashi i agent Hozumi Ryo, kotorye tichim golosom obmenivalis slovami, ***zagljadyvaja*** v listy s zametkami, razložennye na konferencstole, vmeste s korotkim, no čëtkim otvetom vstali odin za drugim.

13) 「引っ張り込む」Zataskivat'

浅羽は晶穂を部室の中に引っぱり込んだ。（秋山瑞人『イリヤの空, UFO の夏』）

Asaba ***zataščil*** Akiho v komnatu.

14) 「放り込む」Zabrasyvat'

そこで素早く手袋とかっぽう着を脱ぎ捨て，洗濯機の中に放り込んだ。（『殉教カテリナ車輪』，飛鳥部勝則著）

On bystro sbrosil perčatki i perednik i ***zabrosil*** ich v stiral'nuju mašinku.

15) 「潜り込む」Zalezat'

その日は酒も飲まず，すぐにベッドに潜りこんだ。（水野良『ファンタジー王国』）

V tot den' ja ne pil spirtnoe i srasu že ***zalez*** v krovat'.

16) 「埋め込む」Zakapyvat'

幅四十センチくらいの木の梯子をドドッと砂に埋め込んだだけのものだ。（大高美貴『シルクロードがむしゃら紀行』）

Ėto vsego liš' derevjannaja lestnica širinoj okolo soroka santimetrov, kotoruju ***zakopali*** v pesok.

17) 「追い込む」Zagonjat'

ちょうど一〇〇メートル離れたもう一つのトンネルに避難民を追い込んだのだ。（呉連鎬；大畑龍次，大畑正姫訳『20 世紀の野蛮から訣別するための現場報告書』）

Zagnal bežencev v eščo odin kak raz na sto metrov otdalënnyi tonnel'.

18) 「押し込む」Zapichivat'

二人は黙ってしゃがみ込んで，食べ物と飲み物を口に押し込んだ。（ドロシー・ギルマン；柳沢由実子訳『古城の迷路』）

Dvoe, zamolčav i sev na kortočki, ***zapichali*** v rot edu i napitki.

19) 「覚え込む」Zaučivat'

どことなく，覚えこんだ台詞を口にしているようでもあったのだ。（日本冒険作家クラブ 編；香納諒一ほか著『孤狼の絆』）

Kak-to kazalos', čto ona proiznosila ***zaučennye*** repliki.

20) 「折り込む」Zagibat'

全体として三つ折りになるように折り込む。（金子郁容『空飛ぶフランスパン』）

Zagnut' tak, čtoby v celom bylo složeno vtroe.

［「～でる」複合動詞，接頭辞 VY-］

21) 「転がり出る」Vyvalivat'sja

彼は封筒から転がり出た骨を手のひらにのせた。（カーラ・ブラック；奥村章子 訳『パリ，殺人区』）

On položil na ladon' ruki kosti, kotorye ***vyvalilis'*** iz konverta.

22) 「滲み出る」Vystupat'

そのとたん，肉の断面から，肉汁がジューッと滲み出る。（篠藤ゆり『旅する胃袋』）

I v ėtot moment iz razreza mjasa ***vystupaet*** mjasnoj sok.

23) 「滑り出る」Vyskal'zyvat'

優雅な身のこなしでタクシーから滑り出た相原の向こうに，新党の幹事長の姿が見えた。（荒木源『骨ん中』）

Naprotiv Aihara, kotoraja elegantno ***vyskol'znula*** iz taksi, pokazalsja general'nyj sekretar' Novoj partii.

24) 「飛び出る」Vyskakivat'

慌てて清衡は立ち上がって外に飛び出た。（高橋克彦『炎立つ』）

Zasuetivšis', Kiyohira vstal i ***vyskočil*** na ulicu.

25) 「抜け出る」Vybirat'sja

僕は頭がおかしくなりそうになって，人混みから抜け出た。（五百香ノエル『青い方程式』）

Ja, čut' ne sojdja s uma, ***vybralsja*** iz tolpy.

26) 「這い出る」Vypolzat'

「ルノーは？」と私はテントから這い出ると火のそばに行って，ウィルにたずねた。（ジェームズ・レッドフィールド；山川紘矢，山川亜希子 訳『聖なる予言』）

Ja, ***vypolznuv*** iz palatki, podošël k ognju i sprosil u Uila: «A Runo?»

27) 「ほとばしり出る」Vytekat'

傷口から血がほとばしり出る。（リドリー・ピアスン；菊地よしみ 訳『アルバトロスの血』）

Iz rany ***vytekaet*** krov'.

28) 「走り出る」Vybegat'

恭介はベッドを飛び出し，裸足のまま廊下に走り出た。（ひちわゆか『ラブ・ミー・テンダー』）

Kyosuke vyskočil iz krovati i s bosymi nogami ***vybežal*** v koridor.

29) 「流れ出る」Vytekat'

じつは，この川は琵琶湖から流れ出る有名な「瀬田川」の支流，「大戸川」で […]（内田康夫『白鳥殺人事件』）

Na samom dele ėto reka «Daidogawa» - pritok izvestnoj reki «Setagawa», kotoraja ***vytekaet*** iz Biwako […]

30) 「突き出る」Vystupat'

服から突き出た細い手足が，足の長い小さなクモを連想させた。（ワリス・ディリー；武者圭子 訳『ディリー，砂漠に帰る』）

Tonkie ruki i nogi, kotorye ***vystupali*** iz-pod odeždy, napomnili mne malen'kogo pauka s dlinnymi nogami.

［「～だす」複合動詞，接頭辞 VY-］

31) 「言い出す」Vyskazyvat'

予算に関するくだらない話し合いが，長々と続いてね。みんなが違う意見を言い出すもんだから。（シドニィ・シェルダン；木下望 訳『氷の淑女』）

Svjazannyj s bjudžetom pustoj razgovor nadolgo rastjanulsja. Ved' vse ***vyskazyvajut*** raznye mnenija.

32) 「えぐり出す」Vykovyrivat'

長いつめを立てて少年の眼球をえぐり出す。（第 150 回国会『国会会議録』）

Otpustiv dlinnye nogti, ***vykovyrjal*** podrostku glaznye jabloki.

33) 「選び出す」Vybirat'

写真入りの手紙が何通も届いた。ルドルフはその中から，マルガレータを選び出した。（山崎洋子『「伝説」になった女たち』）

Prišlo i neskol'ko pisem s fotografijami. Sredi nich Rudol'f ***vybral*** Margaritu.

34) 「追い出す」Vygonjat'

「二度と来るな」私は，服を返して追い出した。（彩ノ木フジ子『赤い電車は未知への一歩でした』）

«Bol'še čtoby ne prichodil». Ja vernula odeždu i ***vygnala*** ego.

35) 「引き出す」Vytjagivat'

やがて起き上がるとベッドの下からスーツケースを引き出した。（エリザベス・ゲイジ；北条元子 訳『タブー』）

Vskore vstav, on ***vytjanul*** iz-pod krovati čemodan.

36) 「吸い出す」Vysasyvat'

ヘビにかまれた人の傷口に口をつけて毒を吸い出す，なんてシーンが映画なんかにときどき出てくるわね。（日本化学会編『化学・意表を突かれる身近な疑問』）

Inogda v fil'mach byvajut takie sceny, kogda u čeloveka, kotorogo ukusila zmeja,

priloživ rot k rane, ***vysasyvajut*** jad.

37) 「取り出す」Vynimat'

尻のポケットからハンティング・ナイフを取り出した。（レイン・ヒース；内野儀 訳『鉄の翼の騎士』）

Vynul iz zadnego karmana ochotničij nož.

38) 「投げ出す」Vytjagivat'

浅川はテーブルの上に足を投げ出した。（鈴木光司『リング』）

Asakawa ***vytjanul*** na stol nogi.

39) 「駆け出す」Vybegat'

脱いだ着物もそのままに，二人は手を繋いで，小屋を駆け出した。（久世光彦『へのへの夢二』）

Ostaviv i snjatoe kimono v tom položenii, dvoe, vzjavšis' za ruki, ***vybežali*** iz chižiny.

40) 「絞り出す」Vydavlivat'

これによって絞り出したマヨネーズにウェーブがついて，見た目がきれいになった。（マスコミ文化協会『SD ウォッチング』）

Blagodarja ėtomu na ***vydavlennom*** majoneze obrazovalis' volny, i na vid stalo krasivee.

［「～たつ」複合動詞，接頭辞 ZA-］

41) 「思い立つ」Zadumyvat'

鯛飯，久しぶりにつくりたいな，と思い立つと，前日に鯛を仕入れておきます。（柿澤津八百 語り；平松洋子 聞き書き『旬の味，だしの味』）

«Spustja dolgoe vremja ja by chotel prigotovit' ris s mjasom okunja», - ***zadumav*** ėto, ja nakanune zagotavlivaju okunja.

42) 「燃え立つ」Zapylat'

選手たち，ボランティア，観客の燃え立つ熱気が，県民にスポーツへの関心を呼び起こしたのは間違いない。（『高知新聞』朝刊 2003 年 1 月 3 日）

Zapylavšee rvenie igrokov, volontërov i zritelej nesomnenno vyzvalo interes k sportu u žitelej prefektury.

43) 「沸き立つ」Zaburlit'

第三大隊の将兵たちの血は沸き立った。（田中光二『連合艦隊大激闘』）

Krov' soldat tret'ego batal'ona ***zaburlila***.

44) 「煮立つ」Zakipat'

煮立ったら弱火にして 5 分ほどゆでる。（オレンジページ『ひとり暮らしのクッキング』）

Kogda ***zakipit***, sdelat' slabyj ogon' i povarit' 5 minut.

45) 「浮き立つ」Zaradovat'sja

この時期は日一日と春めいてきて，何だか心が浮き立つようです。（『産経新聞』朝刊 2004 年 2 月 21 日）

V ėto vremja s každym dnëm stanovitsja vsë bolee po-vesennemu, i kak-to ***zaradovalos'*** serdce.

［「～たつ」複合動詞，接頭辞 RAZ-］

46) 「ざわめき立つ」Razvolnovat'sja

キラもいっしょに乗せて飛びたとうとしたのだが，そのとき，湖の表面があらたにざわめきたった。（カイ・マイヤー；山崎恒裕 訳『異界への扉』）

Ja sobiralsja vzjat' Kiru i vzletet', no v tot moment poverchnost' ozera vnov' ***razvolnovalas'***.

47) 「萌え立つ」Raspuskat'sja

まだ萌え立つほどではない，あらゆる種類の緑が，白い生毛に覆われて […]（大庭みな子『浦島草』）

Eščo ne sovsem ***raspustivšiesja*** nekotorye vidy zeleni byli pokryty belym puškom […]

48) 「たけり立つ」 Razbuševat'sja

時が経つにつれて，風雨は猛り立ったように荒れ狂った。（長谷川彰『異聞北条時宗大船団襲来』）

So vremenem veter i dožd' zasvirepstvovali, budto ***razbuševavšis'***.

49) 「騒ぎ立つ」Rastrevožit'sja

騒ぎたつ感情を抑えながら，つとめて平静をよそおい，黒崎はきいた。（吉松安弘『東条英機暗殺の夏』）

Podavljaja ***rastrevožennye*** čuvstva i naskol'ko vozmožno pod vidom spokojstvija Kurozaki sprosil.

50) 「ささくれ立つ」Raskalyvat'sja

八六階付近のビルの壁がえぐられ，ささくれ立つ鉄骨が反りだしている。（中澤昭『9・11, Japan』，副題『ニューヨーク・グラウンド・ゼロに駆けつけた日本消防士 11 人』）

Byla probita stena u 86 ėtaža zdanija, i torčal ***raskolotyj*** metalličeskij karkas.

［「～たてる」複合動詞，接頭辞 VY-］

51) 「追い立てる」 Vygonjat'

真理子さんは「そういうことじゃけん，明日な」と僕たちを追い立てるように言って，少しためらいがちに付け加えた。（重松清『リビング』）

«Na ėtom dogovorilis', do zavtra», - skazala, kak budto ***vygonjaja*** nas, Mariko-san i

nemnogo nerešitel'no dobavila.

52) 「並べ立てる」Vyskazyvat'

もう誰に言われたのかも忘れたようなことを，おれは次々と並べ立てた。（喬林知『天に（マ）のつく雪が舞う！』）

Ja ***vyskazal*** po porjadku to, čto uže zabyl, kto mne ėto skazal.

53) 「見立てる」Vybirat'

兄貴は目も良かった。遠くを見るんじゃねえ，相手を見立てる目だ。（新人物往来社編『歴史ショートショート劇場』）

U staršego brata byli i chorošie glaza. Ne v značenii videt' vdaleke, a v značenii ***vybirat'*** partnëra.

54) 「呼び立てる」Vykrikivat'

「理沙ちゃん！理沙ちゃん！」立ち上がった厚子が，廊下にむかって声をかぎりに呼びたてた。（辻真先『犯人さん，復讐です！』）

«Risa! Risa!», - ***vykriknula*** vo ves' golos v storonu koridora podnjavšajasja Atsuko.

55) 「述べ立てる」Vyskazyvat'

もはやわれわれは，女らしさに対する感情の表出が冷淡だとか物足りないとか不平を述べたてる必要もない。（ケネス・クラーク；高階秀爾，佐々木英也訳『ザ・ヌード』）

U nas uže daže net neobchodimosti ***vyskazyvat'*** nedovol'stva po povodu togo, čto vyraženie čuvstva ženstvennosti javljaetsja bezrazličnym ili nedostatočnym.

［「～たてる」複合動詞，接頭辞 RAZ-］

56) 「暴き立てる」Raskryvat'

あの手この手のトリックを使って市況を操作している悪徳業者や山師的起業家の不正を暴きたてた。（荒井政治『広告の社会経済史』）

On ***raskryl*** bezzakonie korrupcionnych predprinimatelej i dutych predprijatij, kotorye, ispol'zuja samye raznye ulovki, upravljajut sostojaniem rynka.

57) 「飾り立てる」Razukrašivat'

住宅を美しい品々で飾り立てる前に，塀を取り除き […]（ヘンリー・D. ソロー；佐渡谷重信 訳『森の生活』）

Pered tem, kak ***razukrasit'*** dom raznymi veščami, ubiraem zabor […]

58) 「説き立てる」Raz"jasnjat'

湛山は正攻法をもって昂然と説きたてる。（谷沢永一『無私と我欲のはざまで』）

Tanzan, vzjav planomernoe nastuplenie, gordo ***raz"jasnjaet***.

59) 「振り立てる」Razmachivat'

馬は驚いて目を剝き，頭を振りたてて体勢が崩れた。（志木沢郁『信貴山妖変』）

Lošad' ispugalas', gnevno ustavilas', ***razmachalas'*** golovoj i poterjala ravnovesie.

60) 「吠え立てる」Razlajat'sja

深田が来たときだけソクラテスが激しく吠え立てるのである。（森村誠一『黒い神座』）

Tol'ko kogda prišël Fukada, Sokrat sil'no ***razlajalsja***.

6. 結論

本稿第 5 章における調査結果から，「～こむ」「～でる」「～だす」「～たつ」「～たてる」の各後項動詞を使用した語彙的複合動詞の訳語として使用される傾向にある接頭辞付加動詞が明らかになった。

ここでもう一度，各後項動詞の訳語として使用された主な動詞接頭辞を振り返ってみたい。

- 「～こむ」: V-（31.2%），ZA-（23.1%）
- 「～でる」: VY-（51.8%）
- 「～だす」: VY-（56.2%）
- 「～たつ」: RAZ-（14.9%），ZA-（14.9%）
- 「～たてる」: VY-（17%），RAZ-（13.8%）

本稿第 6 章では，これらの動詞接頭辞と各後項動詞が対応する意味的要因について，特に後項動詞がどの意味タイプである場合にどの接頭辞が使用されるのかという観点から考察し，その結果を以て結論としたい。

後項動詞の意味タイプに関しては，詳細な分類を考案している姫野（1999）を参考とする（本稿第 5 章を参照）。姫野に従って，各後項動詞の意味タイプを次のように分類する：

「～こむ」: 1）内部移動，2）程度進行
「～でる」: 外部移動[50]
「～だす」: 1）外部移動[51]，2）顕在化
「～たつ」: 1）直立（出現），2）出発，3）感情の発露・高揚，4）生起・昂進
「～たてる」: 1）直立（確立），2）顕彰・抜擢，3）構築・達成，4）強調・旺盛

具体的な方法としては，まず上述の代表的な動詞接頭辞が訳語に使用される複合動詞を後項動詞ごとにピックアップする。そうしてピックアップされた複合動詞を，姫野の意味タイプに分類することによって，どの意味タイプでどの接頭辞が使用される傾向にあるのかを後項動詞ごとに整理する。複合動詞の意味を姫野提案の意味タイプに分類する際は，あくまで『日本国語大辞典』に書かれた各複合動詞の定義に従うことによって可能な限り客観的に考察するよう努めた。そして，各後項動詞の各意味タイプにどのような複合動詞が属しているのかを提示すべく，訳語に使用された接頭辞付加動詞とともに，以下にデータ（I-a/b, II, III-a/b, IV-a/b/c/d, V-a/b/c）を掲載する。

---

[50] 「～でる」が持つとされる「外部・前面・表面への移動」と「おもてだった場への登場」はともに「移動」に属する概念であり，また姫野（1999）自身も「～だす」の意味タイプを考えるにあたって「外部・前面・表面への移動」と「おもてだった場への登場」の上に「移動」という上位概念を設定しているため，ここでは「～でる」の意味タイプを統一し，「～こむ」の「内部移動」と区別するために「外部移動」と呼ぶこととする。

[51] 「～でる」の場合と同様，単に「移動」ではなく「外部移動」とする（本稿脚注 50 を参照）。

なお，以下の意味タイプに関しては，前掲の代表的な動詞接頭辞を訳語に持つ複合動詞が存在しないため，データを掲載していない：

- 後項動詞「～たつ」
  - ✓ RAZ-：「出発」「その他」の訳語に該当なし
  - ✓ ZA-：「出発」の訳語に該当なし
- 後項動詞「～たてる」
  - ✓ VY-：「直立（確立）」の訳語に該当なし
  - ✓ RAZ-：「直立（確立）」「構築・達成」の訳語に該当なし

I-a.「～こむ」複合動詞：内部移動

［接頭辞 V-付加動詞］

訳語として使用可能な V-付加動詞の数は 178 語である：

1) あがりこむ Vvalivat'sja;
2) あばれこむ Vryvat'sja, Vlamyvat'sja;
3) あみこむ Vpletat';
4) うえこむ Vstavljat', Vkladyvat';
5) うちこむ Vbivat', Vkolačivat', Vgonjat', Vkladyvat', Vlivat';
6) おしこむ Vtiskivat'sja, Vlezat', Vryvat'sja, Vlamyvat'sja, Vtalkivat', Vsovyvat', Vtiskivat', Vpichivat';
7) おちこむ Vvalivat'sja;
8) おとしこむ Vbrasyvat', Vovlekat', Vvergat';
9) おどりこむ Vryvat'sja, Vskakivat', Vletat';
10) 織りこむ Vpletat', Vtykat', Vstavljat', Vkladyvat', Vključat';
11) 折りこむ Vkladyvat';
12) 書きこむ Vpisyvat', Vstavljat';
13) かけこむ Vbegat', Vryvat'sja, Vlezat';
14) かつぎこむ Vnosit';
15) きめこむ Vstavljat', Vkladyvat';
16) きれこむ Vchodit', Vrezat'sja, V"edat'sja;
17) くいこむ Vrezat'sja, V"edat'sja, Vlamyvat'sja, Vtykat'sja;
18) くぐりこむ Vlazit';
19) くぼみこむ Vpadat', Vvalivat'sja;
20) くみこむ Vpletat', Vstavljat', Vključat';
21) くりこむ Vchodit', Vključat', Vovlekat';
22) くわえこむ Vvodit';
23) さしこむ Vkladyvat', Vstavljat', Vtykat', Vchodit', Vlivat'sja;
24) しみこむ Vpityvat'sja;
25) すいこむ Vbirat', Vtjagivat', Vsasyvat', Vpityvat', Vtaskivat', Vovlekat'; Vvjazyvat', Vputyvat';
26) すすりこむ Vtjagivat', Vsasyvat';
27) 擦りこむ Vtirat';
28) 刷りこむ Vpečatyvat';
29) だきこむ Vovlekat', Vputyvat';
30) たぐりこむ Vtjagivat';
31) たたきこむ Vbivat'; Vtalkivat';
32) たたみこむ Vkladyvat';
33) つきこむ Vryvat'sja, Vsovyvat', Vtalkivat', Vkolačivat';
34) つぎこむ Vlivat';
35) 付けこむ Vnosit', Vpisyvat';
36) つっこむ Vlamyvat'sja, Vryvat'sja, Vsovyvat', Vtalkivat', Vkolačivat', Vchodit', Vstavljat', Vvalivat'sja;
37) つめこむ Vtiskivat',

Vpichivat', Vtiskivat'sja;
38) つれこむ Vvodit';
39) とじこむ Vkladyvat';
40) とびこむ Vletat', Vparchivat', Vskakivat', Vprygivat';
41) ながしこむ Vlivat';
42) ながれこむ Vtekat', Vlivat'sja;
43) なすりこむ Vtirat';
44) なだれこむ Vryvat'sja;
45) にげこむ Vbegat';
46) にじみこむ Vpityvat'sja;
47) にじりこむ Vsovyvat', Vvinčivat', Vvërtyvat';
48) ねじこむ Vvinčivat', Vvërtyvat', Vsovyvat';
49) のりこむ V"ezžat', Vchodit';
50) はいこむ Vpolzat'
51) はいりこむ Vchodit', Vtiskivat'sja;
52) はこびこむ Vnosit';
53) はさみこむ Vsovyvat', Vstavljat', Vkladyvat';
54) はしりこむ Vbegat', Vryvat'sja;
55) はねこむ Vprygivat', Vskakivat';
56) はまりこむ Vstavljat'sja, Vchodit';
57) はめこむ Vstavljat', Vkladyvat';
58) はらいこむ Vnosit';
59) はりこむ Vkleivat';
60) ひきこむ Vtaskivat', Vtjagivat', Vovlekat', Vvjazyvat';
61) ひきずりこむ Vovlekat', Vputyvat', Vtjagivat';
62) ひっこむ Vpadat', Vtaskivat'; Vnosit'; Vtjagivat', Vovlekat'; Vvjazyvat', Vputyvat';
63) ふきこむ Vduvat', Vovlekat';
64) ぶっこむ Vbivat', Vtykat';
65) ふみこむ Vstupat', Vchodit', Vryvat'sja;
66) ふりこむ Vpichivat', Vtalkivat', Vnosit', Vryvat'sja, Vlamyvat'sja;
67) まいこむ Vchodit';
68) まきこむ Vovlekat', Vputyvat', Vtjagivat';
69) まぎれこむ Vkradyvat'sja;
70) まぜこむ Vmešivat';
71) もちこむ Vnosit';
72) もみこむ Vtirat', Vminat';
73) もりこむ Vkladyvat', Vlivat', Vnosit', Vključat';
74) よびこむ Vvodit';
75) わりこむ Vmešivat'sja;

［接頭辞 ZA-付加動詞］

訳語として使用可能な ZA-付加動詞の数は 116 語である：

1) あがりこむ Zachodit';
2) あみこむ Zapletat';
3) 鋳こむ Zalivat';
4) いれこむ Zapravljat', Zasovyvat', Zapravljat'sja;
5) うえこむ Zasaživat';
6) うめこむ Zaryvat', Zakapyvat', Zasypat';
7) おいこむ Zagonjat', Zatvorjat', Zablokirovat';
8) おおいこむ Zastilat';
9) おしこむ Zasovyvat', Zapichivat', Zapirat', Zaključat';
10) おとしこむ Zamanivat';
11) 折りこむ Zagibat', Zavërtyvat';
12) おれこむ Zagibat'sja;
13) 買いこむ Zakupat';
14) かかえこむ Zachvatyvat';
15) 掻きこむ（掻いこむ）Zagrebat';
16) かくしこむ Zaprjatyvat';
17) かこいこむ Zachvatyvat';
18) かりこむ Zanimat';
19) くみこむ Začisljat';
20) くりこむ Začisljat';
21) くるみこむ Zavërtyvat', Zakutyvat';
22) くわえこむ Zachvatyvat';

23) けりこむ Zagonjat';
24) ころがりこむ Zakatyvat'sja;
25) ころげこむ Zakatyvat'sja;
26) さそいこむ Zavlekat';
27) さまよいこむ Zabretat';
28) しきこむ Zastilat';
29) しのびこむ Zabirat'sja;
30) しまいこむ Zaprjatyvat';
31) しみこむ Zapolnjat';
32) しめこむ Zatjagivat'; Zakručivat';
33) そそぎこむ Zalivat';
34) だきこむ Zachvatyvat';
35) たくしこむ Zapravljat';
36) たたきこむ Zabrasyvat';
37) たらしこむ Zakapyvat';
38) たれこむ Zapirat'sja;
39) ちりこむ Zaletat';
40) つきこむ Zasovyvat', Zasypat', Zakapyvat';
41) 付けこむ Zapisyvat';
42) 漬けこむ Zamačivat';
43) つっこむ Zasovyvat';
44) つつみこむ Zakutyvat', Zavoračivat';
45) つみこむ Zagružat';
46) つりこむ Zavlekat';
47) とりこむ Zabirat', Zachvatyvat';
48) ながしこむ Zalivat';
49) なげこむ Zabrasyvat', Zakidyvat', Zašvyrivat';
50) にぎりこむ Zachvatyvat';
51) にげこむ Zabegat', Zabirat'sja, Zabivat'sja;
52) にじりこむ Zasovyvat';
53) ぬいこむ Zašivat';
54) ねじこむ Zasovyvat';
55) のぞきこむ Zagljadyvat';
56) のみこむ Zaglatyvat';
57) はいりこむ Zachodit';
58) はきこむ Zametat';
59) はまりこむ Zastrevat';
60) 引きこむ Zavlekat', Zamanivat', Zapirat'sja;
61) ひきずりこむ Zavolakivat', Zataskivat';
62) ひっこむ Zapirat'sja;
63) ひっぱりこむ Zataskivat', Zatjagivat', Zavolakivat';
64) ふうじこむ Zaključat'; Zatočat';
65) ふきこむ Zaduvat', Zapisyvat';
66) ぶちこむ Zabrasyvat', Zapirat';
67) ふみこむ Zachodit';
68) 降りこむ Zalivat';
69) ほうりこむ Zabrasyvat', Zakidyvat', Zašvyrivat';
70) まいこむ Zaletat';
71) まがりこむ Zagibat'sja, Zavoračivat'sja;
72) まきこむ Zavoračivat';
73) まぎれこむ Zamešivat'sja;
74) まくれこむ Zavoračivat'sja;
75) まじりこむ Zamešivat'sja;
76) まよいこむ Zabludit'sja;
77) まるめこむ Zavërtyvat', Zavoračivat';
78) めくりこむ Zavërtyvat'sja, Zavoračivat'sja;
79) めくれこむ Zavërtyvat'sja, Zavoračivat'sja;
80) もぐりこむ Zalezat', Zapolzat', Zabirat'sja;

I-b. 「～こむ」複合動詞：程度進行

［接頭辞 V-付加動詞］

訳語として使用可能な V-付加動詞の数は 12 語である：

1) おしえこむ Vtolkovyvat';
2) おちこむ Vvalivat'sja; Vpadat';
3) くいこむ Vpivat'sja, V"edat'sja;
4) つぎこむ Vkladyvat';
5) つりこむ Vovlekat', Vtjagivat';

6) はまりこむ Vpadat';
7) ほれこむ Vljubljat'sja;
8) みこむ Vgljadyvat'sja, Vsmatrivat'sja;

［接頭辞 ZA-付加動詞］

訳語に使用された ZA-付加動詞の数は 25 語である：

1) おちこむ Zapadat';
2) おぼえこむ Zaučivat';
3) 買いこむ Zakupat';
4) かんがえこむ Zadumyvat'sja;
5) 着こむ Zakutyvat'sja;
6) さびこむ Zaržavet';
7) しゃべりこむ Zaboltat'sja;
8) すわりこむ Zasiživa'sja;
9) せきこむ Zakašlivat'sja;
10) たぐりこむ Zachvatyvat';
11) たたみこむ Zapečatlevat';
12) たてこむ Zastraivat'sja;
13) だまりこむ Zamolčat';
14) だんじこむ Zajavljat';
15) つめこむ Zapominat';
16) つりこむ Zamanivat';
17) ねこむ Zasypat';
18) ねむりこむ Zasypat';
19) のめりこむ Zachodit';
20) のりこむ Zainteresovat'sja;
21) はなしこむ Zagovorit'sja;
22) ひえこむ Zamerzat';
23) もうしこむ Zajavljat';
24) もつれこむ Zaputyvat'sja;
25) よわりこむ Zachirevat';

II. 「～でる」複合動詞：外部移動

［接頭辞 VY-付加動詞］

訳語として使用可能な VY-付加動詞の数は 57 語である：

1) うかびでる Vyplyvat', Vystupat', Vyrisovyvat'sja;
2) うかれでる Vychodit';
3) うきでる Vystupat', Vyplyvat', Vyrisovyvat'sja, Vypirat';
4) おどりでる Vyskakivat', Vyprygivat';
5) およぎでる Vyplyvat';
6) こぎでる Vychodit';
7) ころがりでる Vykatyvat'sja, Vyvalivat'sja;
8) ころげでる Vykatyvat'sja, Vyvalivat'sja;
9) さしでる Vychodit', Vydavat'sja, Vystupat';
10) しみでる Vystupat';
11) すべりでる Vyskal'zyvat';
12) つきでる Vysovyvat'sja; Vystupat', Vydavat'sja, Vychodit';
13) とびでる Vyletat', Vyskakivat', Vyprygivat', Vybegat';
14) ながれでる Vytekat', Vylivat'sja;
15) にじみでる Vystupat';
16) ぬきんでる Vybirat', Vyryvat'sja, Vydavat'sja, Vydeljat'sja;
17) ぬけでる Vybirat'sja, Vyskal'zyvat', Vydavat'sja, Vystupat';
18) はいでる Vypolzat', Vybirat'sja;
19) はしりでる Vybegat', Vyryvat'sja, Vytekat', Vychodit';
20) はみでる Vydavat'sja, Vypirat', Vychodit';
21) ふきでる Vypuskat', Vybrasyvat', Vysypat';
22) ほとばしりでる Vytekat', Vylivat'sja;
23) もうしでる Vystupat';
24) わきでる Vytekat', Vystupat';

III-a. 「～だす」複合動詞：外部移動

［接頭辞 VY-付加動詞］

訳語として使用可能な VY-付加動詞の数は 169 語である：

1) あふれだす Vylivat'sja;
2) あらいだす Vystiryvat';
3) いぶりだす Vykurivat', Vyživat', Vygonjat';
4) うきだす Vystupat'; Vyplyvat';
5) うちだす Vybivat', Vystrelivat', Vystavljat', Vysovyvat';
6) おいだす Vygonjat', Vystavljat', Vyprovaživat', Vydeljat';
7) おくりだす Vytalkivat';
8) おしだす Vychodit', Vytalkivat'; Vytesnjat', Vydavlivat', Vyžimat';
9) おっぽりだす Vybrasyvat', Vyšvyrivat';
10) おびきだす Vymanivat';
11) おんだす Vygonjat', Vystavljat', Vyprovaživat';
12) 掻いだす Vygrebat', Vyčerpyvat', Vymanivat';
13) かかえだす Vynosit';
14) かけだす Vybegat';
15) かしだす Vydavat';
16) かつぎだす Vynosit';
17) かりだす Vygonjat';
18) くりだす Vytaskivat', Vystavljat', Vydvigat';
19) こぎだす Vyplyvat';
20) さそいだす Vymanivat';
21) さらえだす Vyčiščat';
22) さらけだす Vygonjat';
23) しみだす Vystupat';
24) しめだす Vystavljat', Vytesnjat';
25) すいだす Vysasyvat', Vytjagivat';
26) 掬いだす Vyčerpyvat';
27) 救いだす Vyručat';
28) せんじだす Vyvarivat';
29) たぐりだす Vytjagivat';
30) たすけだす Vyručat';
31) たたきだす Vybivat', Vygonjat';
32) つかみだす Vygonjat', Vystavljat', Vyšvyrivat', Vytaskivat';
33) つきだす Vytalkivat', Vygonjat', Vysovyvat', Vystavljat', Vysovyvat'sja, Vystavljat'sja;
34) つつきだす Vytalkivat', Vystavljat', Vygonjat';
35) つれだす Vynosit'; Vymanivat', Vyvodit';
36) とびだす Vyletat'; Vyskakivat', Vyprygivat', Vybegat', Vychodit', Vystupat', Vydavat'sja;
37) とりだす Vynimat', Vybirat', Vykupat';
38) ながしだす Vylivat';
39) ながれだす Vytekat', Vylivat'sja;
40) なげだす Vybrasyvat', Vykidyvat', Vyšvyrnjat', Vytjagivat', Vydvigat';
41) にじりだす Vytaskivat';
42) ぬきだす Vytjagivat', Vytaskivat', Vynimat', Vysovyvat', Vystavljat';
43) ぬけだす Vychodit';
44) のりだす Vyezžat', Vychodit', Vysovyvat';
45) はいだす Vypolzat';
46) 掃きだす Vymetat';
47) 吐きだす Vydychat', Vyrvat', Vycharkivat', Vyplëvyvat', Vypuskat';
48) はこびだす Vynosit', Vytaskivat', Vyvozit';
49) はさみだす Vytaskivat';
50) はじきだす Vybrasyvat', Vyšvyrivat';
51) はねだす Vyprygivat';
52) はらいだす Vymetat', Vytirat', Vyčiščat', Vygonjat', Vyplačivat';
53) 張りだす Vystupat', Vydavat'sja;
54) ひきずりだす Vytjagivat', Vytaskivat', Vynimat', Vyvodit', Vyvolakivat';
55) ひきだす Vytjagivat', Vytaskivat', Vynimat', Vyvodit', Vymanivat',

Vytaskivat', Vykupat';
56) ひっぱりだす Vynimat', Vytaskivat', Vytjagivat', Vyvodit';
57) ふきだす Vypuskat', Vybrasyvat';
58) ふりだす Vytrjachivat', Vymachivat', Vydavat', Vystavljat';
59) ほうりだす Vybrasyvat', Vyšvyrivat', Vykidyvat';
60) ほっぽりだす Vybrasyvat', Vyšvyrivat', Vykidyvat', Vystavljat';
61) めしだす Vyzyvat';
62) もちだす Vyvozit', Vynosit';
63) もみだす Vyžimat', Vydavlivat';
64) よびだす Vyzyvat';
65) わきだす Vystupat';
66) えぐりだす Vykovyrivat';
67) しぼりだす Vydavlivat', Vyžimat', Vydeljat', Vypuskat';
68) はみだす Vydavat'sja, Vypirat', Vytjagivat'sja;
69) ほじくりだす Vykovyrivat', Vykapyvat', Vypytyvat';
70) ほりだす Vykapyvat', Vyryvat';
71) よりだす Vybirat'

III -b. 「～だす」複合動詞：顕在化

［接頭辞 VY-付加動詞］

訳語として使用可能な VY-付加動詞の数は 53 語である：

1) あらいだす Vyjasnjat';
2) いいだす Vyskazyvat', Vydvigat';
3) うきだす Vyrisovyvat'sja, Vypirat';
4) うちだす Vybivat';
5) うみだす Vyrabatyvat', Vydumyvat';
6) えらびだす Vybirat';
7) おしだす Vystavljat';
8) 織りだす Vytkat';
9) かつぎだす Vydvigat';
10) かりだす Vygonjat';
11) ききだす Vyvedyvat';
12) きざみだす Vyrezat', Vykolot', Vyrubit';
13) くりだす Vyvedyvat';
14) こしらえだす Vydumyvat';
15) さぐりだす Vyvedyvat';
16) さらけだす Vykazyvat';
17) すりだす Vytačivat';
18) つくりだす Vypuskat';
19) ぬきだす Vybirat';
20) はきだす Vyskazyvat';
21) 貼りだす Vyvešivat';
22) ひきだす Vytjagivat', Vynimat', Vyzyvat';
23) ひっぱりだす Vydvigat';
24) ひねくりだす Vydumyvat';
25) ひねりだす Vydumyvat', Vyžimat', Vykraivat';
26) ひろいだす Vybirat';
27) もちだす Vynosit', Vydvigat';
28) わりだす Vykazat', Vystavit';
29) えぐりだす Vykovyrivat';
30) しぼりだす Vydavlivat', Vyžimat', Vydeljat', Vypuskat';
31) はみだす Vydavat'sja, Vypirat', Vytjagivat'sja;
32) ほじくりだす Vykovyrivat', Vykapyvat', Vypytyvat';
33) ほりだす Vykapyvat', Vyryvat';
34) よりだす Vybirat';

IV-a.「～たつ」複合動詞：直立（出現）

［接頭辞 RAZ-付加動詞］

訳語として使用可能な RAZ-付加動詞の数は 4 語である：

1) おいたつ Rasširjat'sja;
2) きりたつ Razrezat';
3) ささくれだつ Rasščepljat'sja, Raskalyvat'sja;

［接頭辞 ZA-付加動詞］

訳語として使用可能な ZA-付加動詞の数は 1 語である：

1) ひきたつ Zadvinut';

IV-b.「～たつ」複合動詞：感情の発露・高揚

［接頭辞 RAZ-付加動詞］

訳語として使用可能な RAZ-付加動詞の数は 10 語である：

1) いろめきたつ Razvolnovat'sja;
2) さわぎたつ Rasšumet'sja, Razvolnovat'sja, Rastrevožit'sja;
3) ざわめきたつ Razvolnovat'sja, Rasšumet'sja;
4) せきたつ Razdražat'sja;
5) たけりたつ Razbuševat'sja, Rassvirepet';
6) はやりたつ Razdražat'sja;

［接頭辞 ZA-付加動詞］

訳語として使用可能な ZA-付加動詞の数は 8 語である：

1) いきせきたつ Zapychivat'sja;
2) いろめきたつ Zakolebat'sja;
3) うきたつ Zaradovat'sja;
4) きりたつ Zarezat';
5) せきたつ Zatoropit'sja;
6) たぎりたつ Zaburlit';
7) 燃えたつ Zapylat';
8) わきたつ Zavolnovat'sja;

IV-c.「～たつ」複合動詞：生起・昂進

［接頭辞 RAZ--付加動詞］

訳語として使用可能な RAZ-付加動詞の数は 3 語である：

1) たけりたつ Razbuševat'sja, Rassvirepet';
2) 萌えたつ Raspuskat'sja;

［接頭辞 ZA--付加動詞］

訳語として使用可能な ZA-付加動詞の数は 6 語である：

1) いきりたつ Zaburlit';
2) にたつ Zakipat';
3) 燃えたつ Zapylat', Zagoret'sja;
4) わきたつ Zaburlit', Zabrodit';

IV-d.「～たつ」複合動詞：その他

［接頭辞 ZA-付加動詞］訳語として使用可能な ZA-付加動詞の数は 1 語である：

1) おもいたつ Zadumyvat';

V-a.「～たてる」複合動詞：懸賞・抜擢

［接頭辞 VY-付加動詞］訳語として使用可能な VY-付加動詞の数は 1 語である：

みたてる Vybirat';

［接頭辞 RAZ-付加動詞］訳語として使用可能な RAZ-付加動詞の数は 1 語である：

とりたてる Rasstavljat';

V-b.「～たてる」複合動詞：構築・達成

［接頭辞 VY-付加動詞］訳語として使用可能な VY-付加動詞の数は 5 語である：

1) 盛りたてる Vykladyvat';
2) したてる Vypolnjat', Vydavat', Vystavljat', Vydumyvat';

V-c.「～たてる」複合動詞：強調・旺盛

［接頭辞 VY-付加動詞］訳語として使用可能な VY-付加動詞の数は 21 語である：

1) あらいたてる Vystiryvat', Vypytyvat';
2) おいたてる Vygonjat', Vyprovaživat';
3) おしたてる Vynuždat', Vytalkivat', Vydvigat';
4) おったてる Vygonjat';
5) 書きたてる Vypisyvat';
6) かりたてる Vygonjat';
7) せがみたてる Vyprašivat', Vykljančivat';
8) とりたてる Vydvigat';
9) どなりたてる Vyrugat', Vybranit';
10) ならべたてる Vystavljat', Vykladyvat', Vyskazyvat';
11) ぬりたてる Vykrašivat';
12) のべたてる Vyskazyvat';
13) よびたてる Vykrikivat';

［接頭辞 RAZ-付加動詞］訳語として使用可能な RAZ-付加動詞の数は 21 語である：

1) あおりたてる Razduvat', Razžigat';
2) あばきたてる Razoblačat', Raskryvat';
3) あらいたてる Razoblačat';
4) 掻きたてる Razmešivat';
5) かざりたてる Razodet'sja, Razukrašivat';
6) ときたてる Raz"jasnjat';
7) なきたてる Rasplakat'sja, Razlajat'sja, Razčirikat'sja;
8) のべたてる Rasskazyvat';
9) はやしたてる Raschvalivat';
10) ふりたてる Razmachivat', Raskačivat';
11) べんじたてる Rasprostranjat'sja;
12) ほえたてる Razlajat'sja, Razrevet'sja, Razvyt'sja;
13) ほめたてる Raschvalivat';

各後項動詞の意味タイプとロシア語の動詞接頭辞との関係を表にまとめると図表 6-1, 6-2, 6-3 のようになる。表中の数字は，各後項動詞の訳語に使用された接頭辞付加動詞の数である。なお，同一の接頭辞付加動詞であっても，複数の複合動詞の訳語として使用されている場合，および複数の意味タイプを持つひとつの複合動詞の訳語に対して，その意味タイプごとに同一の接頭辞付加動詞が重複して使用される場合は[52]，それぞれの接頭辞付加動詞を個別にカウントした。

図表 6-1.「～こむ」複合動詞の各意味タイプと V-, ZA-の分布状況

	「～こむ」	
	V-	ZA-
内部移動	178	116
程度進行	12	25

動詞接頭辞 V-, ZA-を訳語に持つ「～こむ」複合動詞は 145 語あり，このうち V-を訳語に持つ複合動詞は 83 語，ZA-を訳語に持つ複合動詞は 105 語であった。

図表 6-1 から明らかなように，V-と ZA-ともに「内部移動」の意味を持つ複合動詞の訳語で使用されるケースが圧倒的に多い。これは，「～こむ」複合動詞が「程度進行」よりも「内部移動」を表すケースの方がはるかに多いことと関係している。従って，「～こむ」複合動詞の訳語ヴァリアントを考える際，「～こむ」が「内部移動」を表している場合は V-付加動詞ないし ZA-付加動詞を第一に想定すべきである。

図表 6-2.「～でる」「～だす」複合動詞の各意味タイプと VY-の分布状況

「～でる」 VY-		「～だす」 VY-	
外部移動	57	外部移動	169
		顕在化	53

動詞接頭辞 VY-を訳語に持つ「～でる」複合動詞は 24 語であった。一方，動詞接頭辞 VY-を訳語に持つ「～だす」複合動詞は 86 語であった。

VY-の使用率が 5 割を超える後項動詞「～でる」に限って言えば「外部移動」の意味しかないため,「外部移動」と VY-付加動詞が対応することは自明である。一方の後項動詞「～だす」には「外部移動」と「顕在化」の意味があるが，ここでも「外部移動」の意味の訳語に VY-付加動詞が使用されるケースが多く，数にして「顕在化」のおよそ 3 倍である。

[52] 例えば,「～だす」複合動詞の「えぐりだす」は「外部移動」と「顕在化」という 2 つの意味を持つが，それぞれの意味の訳語に vykovyrivat'を使用することができるため,「外部移動」の場合と「顕在化」の場合とで個別にカウントする。

なお，「～だす」複合動詞には「外部移動」と「顕在化」双方の意味を同時に持つものがある。それは「えぐりだす」「しぼりだす」「はみだす」「ほじくりだす」「ほりだす」「よりだす」である。これらの動詞の訳語には，いずれの意味タイプであっても VY-付加動詞を使用することができる。

図表 6-3.「～たつ」「～たてる」複合動詞の各意味タイプと RAZ-, VY-, ZA-の分布状況

	「～たつ」			「～たてる」	
	RAZ-	ZA-		VY-	RAZ-
直立（出現）	4	1	直立（確立）	—	—
出発	—	—	顕彰・抜擢	1	1
感情の発露･高揚	10	8	構築・達成	5	—
生起・昂進	3	6	強調・旺盛	21	21
その他	—	1			

動詞接頭辞 RAZ-, ZA-を訳語に持つ「～たつ」複合動詞は 20 語あり，このうち RAZ-を訳語に持つ複合動詞は 11 語，ZA-を訳語に持つ複合動詞は 14 語であった。一方，動詞接頭辞 VY-, RAZ-を訳語に持つ「～たてる」複合動詞は 27 語あり，このうち VY-を訳語に持つ複合動詞は 16 語，RAZ-を訳語に持つ複合動詞は 14 語であった。

「～たつ」複合動詞が持つ複数の意味タイプのうち，RAZ-付加動詞と ZA-付加動詞が共に使用されているのは「感情の発露・高揚」と「生起・昂進」である。見方を変えれば，「出発」の意味には RAZ-付加動詞，ZA-付加動詞ともに使用されていない。

また，ZA-付加動詞が訳語に使用された「燃えたつ」には「感情の発露・高揚」と「生起・昂進」の意味があり，どちらにも ZA-付加動詞 zapylat'を訳語として使用することができ，同様に，RAZ-付加動詞を訳語に持つ「たけりたつ」では「感情の発露・高揚」と「生起・昂進」双方の意味の訳語に razbuševat'sja, rassvirepet'を使用することができる。

「～たてる」複合動詞は 4 種類の意味タイプに分類されるが，VY-付加動詞，RAZ-付加動詞ともに「強調・旺盛」の意味の訳語で使用されるケースが最も多い。一方で，「直立（確立」）の訳語には VY-付加動詞も RAZ-付加動詞も使用されていない。

ここで，各後項動詞の意味タイプと各動詞接頭辞が持つ意味ないし機能との対応について見てみたい。まず，後項動詞「～こむ」の「内部移動」「程度進行」と動詞接頭辞 V-の意味・機能について考察する。以下に記したのは RG-80 における動詞接頭辞 V-の定義である：

RG-80 による V-の定義（RG-80 vol. 1: 360-361）

基幹動詞が表す動作によって，何らかの中，何らかの内部に入れる（入る），あるいは基幹動詞によって作られた空間の中に入れる：

vkatit'「転がして入れる，転がしこむ」，vpolzti「這って入る，這いこむ」，vryt'「掘ったところに埋める」，vdolbit'「掘った穴へたたきこむ」，vkleit'「中に貼りつける，言葉を差しはさむ」，vletet'「飛びこむ」，vlit'「流しこむ」，vmesti「掃き入れる」，vmontirovat'「内側にはめる，内蔵する」，vojti「入る，入場する」，vrezat'「切り込んだ穴へはめこむ，取り付ける」

RG-80 に書かれた動詞接頭辞 V-の定義と動詞の例を全体的に見ると，物理的な空間の内部へ移動をもっぱら表しているかのように思われるが，vkleit'「言葉を差しはさむ」のように，抽象的なものの中に何かを入れる場合にも V-が使用されている。I-b の「程度進行」のデータで示した例を見ても，vtolkovyvat'「おしえこむ」，vljubljat'sja「ほれこむ」といった，物理的な空間とは無関係の意味の動詞に V-が使用されていることが分かる。これらのことから，後項動詞「～こむ」と同様，動詞接頭辞 V-もまた，物理的な空間内への移動のみならず，抽象的な空間ないし動作の程度の亢進の意味を持っていることが分かる。

続いて，後項動詞「～こむ」の「内部移動」「程度進行」，および後項動詞「～たつ」の「感情の発露・高揚」「生起・昂進「その他」と動詞接頭辞 ZA-の意味・機能の比較を行う。接頭辞 ZA-について RG-80 では次のように書かれている：

RG-80 による ZA-の定義（RG-80 vol. 1: 363-364）

1) 何らかの向こうへ，どこかの場所へ入れる（入る），置く，移す（移る）：zabrosit'「投げる」，zavesti「遠くへ連れて行く」，zagnat'「遠くへ追いやる」，zaechat'「乗り物で遠くへ去る」，zaletet'「遠くへ飛び去る」，zaplyt'「遠くへ泳ぎ去る」，zaprjatat'「見つからないようなところへ隠す」
2) ついでに，通りがかりに行う，行為の主たる方向からしばらくそれる：zaechat'「乗り物で立ち寄る」，zabežat'「途中で寄る」，zavezti「乗り物でついでに送り届ける」，zaletet'「飛行の途中で立ち寄る」，zanesti「通りがかりに届ける」
3) 何かによって覆う，ふさぐ：zakapat'「水滴などをはねかける，垂らす」，zakolotit'「釘で打ち付けてふさぐ」，zacvesti「よどんだ水が青藻で覆われる」，zabryzgat'「しぶきをかける」，zavešat'「ふさぐように一面に掛ける」，zamazat'「塗ってふさぐ」，zasejat'「まき散らす」
4) 望ましくない状態（無益，疲労，利用しつくすこと）へ至らしむ：zavodit'「長く連れまわすことによって疲れさせる」，zagovorit'「長話で相手を疲れさせる」，zagonjat'「手に負えない仕事でひどく疲れさせる」，zadërgat'「馬をへとへとに疲れさせる」，zadraznit'「からかうことで相手をいらつかせる」，zakormit'「食物を与えすぎる」，zalaskat'「しつこく可愛がることで閉口させる」，zalečit'「不手際な治療でひどい目にあわせる」
5) 手に入れる，獲得する，占める：zavoevat'「征服する，勝ち取る」，zarabotat'「働いて稼ぐ」，zaslužit'「勤めあげることによって何かを得る」
6) 対象の一部に動作を向ける，集中させる：zapilit'「鋸で切れ目をつける」，začistit'「金属などの表面を磨く」，zamyt'「しみなどを洗い落とす」，zastirat'「つまみ洗いをする」
7) 動作を始める：zagremet'「轟きはじめる」，zamel'kat'「瞬きはじめる」，zapachnut'「匂いはじめる」，zapolzat'「這いだす」，zasuetit'sja「せかせか動き回りはじめる」，zaševelit'「ゆっくり動かしはじめる」
8) 前もって，あらかじめ，備えとして動作を行う：zagotovit'「前もって準備しておく」，zaplanirovat'「計画する」，zaprodat'「予約販売をする」，zaarendovat'「賃借りする」
9) 他の動作の後ただちに行われる動作：zapit'「何かの後に飲む，口直しに飲む」，zaest'「口直しに何かを食べる」
10) 動作を成し遂げる（結果に至るまで行う）：zaminirovat'「地雷を仕掛ける」，zaregistrirovat'「記録する」，zagustet'「液体を濃くする」，zakonservirovat'「缶詰にする」，zakonspektirovat'「要約を作成する」，zastenografirovat'「速記する」，zašifrovat'「暗号化する」

「内部移動」の「～こむ」複合動詞の訳語として使用されていた ZA-付加動詞（I-a を参照）を見ると，例えば「おしこむ」の Zasovyvat', Zapichivat', Zapirat', Zaključat', 「しまいこむ」の Zaprjatyvat',「ちりこむ」の Zaletat',「ながしこむ」の Zalivat',「はきこむ」の Zametat' は，RG-80 における 1 番の意味と合致しており，「～こむ」と同様に物理的な空間の移動を表している。他方で,「買いこむ」Zakupat',「とりこむ」Zabirat', Zachvatyvat',「にぎりこむ」Zachvatyvat'における接頭辞 ZA-はいずれも対象を「獲得」ないし「占有」が含意されているため，5 番の意味として解釈すべきである。かくして,「内部移動」の「～こむ」複合動詞の訳語に使用される動詞接頭辞 ZA-の意味は 1 番の空間移動と 5 番の獲得から成る。

これに対し,「程度進行」の「～こむ」複合動詞の訳語における ZA-付加動詞の意味は様々である。「たてこむ」Zastraivat'sja は「ある場所が建物でいっぱいになる」ことを表しているため，3 番の意味として解釈することが適当である。「ひえこむ」Zamerzat'と「よわりこむ」Zachirevat'は主体の状態がよくない方向へ変化しているため 4 番の意味に分類できる。「たぐりこむ」Zachvatyvat',「買いこむ」Zakupat'は何かしらの対象を獲得・入手することを表しているため 5 番の意味である。「だまりこむ」Zamolčat'は「話・歌などをやめる」ことであり, 10 番の意味として解釈すべきである。「さびこむ」の Zaržavet'に関して言えば, 主体がさびで覆われることを表しているため 3 番の意味に該当する可能性もあるが，10 番のように完了体のマーカーとして接頭辞 ZA-解釈することもできる。

「感情の発露・高揚」の意味の「～たつ」複合動詞の訳語における ZA-付加動詞を見ると,「きりたつ」Zarezat'における接頭辞 ZA-は完了体のマーカーであるため 10 番の意味と考えるのが妥当である。それ以外のケース，例えば「うきたつ」Zaradovat'sja,「燃えたつ」Zapylat',「たぎりたつ」Zaburlit'などは明らかに 7 番の動作の開始を表している。

また,「生起・昂進」の意味の「～たつ」複合動詞の訳語で見られた ZA-付加動詞「にたつ」Zakipat',「いきりたつ」Zaburlit'も同様に 7 番の動作の開始を表している。

姫野（1999）が「その他」に分類していた「おもいたつ」の訳語 Zadumyvat'は事前に行う行動として解釈すれば 8 番に該当する。Zadvinut'が訳語に使用された「ひきたつ」は，姫野（1999: 212）の分類では「その他」に属しているが,『日本国語大辞典』によれば「ひきたつ」は多義語であり，姫野（1999）が指摘しているような「よく見える，よく感じられる」の意味だけを表す語ではない。ここで問題となる意味，すなわち Zadvinut'と対応する意味は「戸・障子などを引き出してたてる。引いて閉じる」であり，この意味に基づいて意味タイプの再分類を行うと「直立（出現）」となる。この Zadvinut'における接頭辞 ZA-の意味を RG-80 の説明に従って解釈すれば, 完了体のマーカーであるから 10 番の意味である。

「感情の発露・高揚」と「生起・昂進」に関して言えば，姫野（1999）は語彙的複合動詞の意味として考えているが，それらの訳語に使用される動詞接頭辞は,「きりたつ」の Zarezat'を除いて，いずれも「動作の開始」の意味を持っている。このことから,「感情の発露・高揚」と「生起・昂進」の意味を持つ「～たつ」複合動詞の訳語に使用される ZA-付加

動詞と，「開始」の意味を持つ統語的複合動詞の訳語に使用される ZA-付加動詞は[53]，ロシア語の動詞接頭辞の観点から見れば，どちらも「動作の開始」であると言える。

[53] 動作の開始を表す ZA-付加動詞については本稿 17-18 頁，および 36 頁を参照。

三番目に，後項動詞「～でる」の「外部移動」,「～だす」の「外部移動」「顕在化」,「～たてる」の「懸賞・抜擢」「構築・達成」「強調・旺盛」と動詞接頭辞 VY-の意味・機能の対応について考察を行う。RG-80 における接頭辞 VY-の定義は以下のものである：

RG-80 による VY-の定義（RG-80 vol. 1: 363-364）

1) 何から遠ざける（遠ざかる），離す（離れる），分離させる（分離する），外部へ向かわせる（向かう）: vyvezti「乗り物で運ぶことによって何かを遠ざける，運び出す，運び去る」，vysvetit'「照らすことによって区別する，照らし出す」，vygnat'「追いだす，放逐する，追いたてる」，vygruzit'「（乗り物から）荷を下ろす」, vydavit'「押し出す, 絞り出す」，vyechat'「乗り物に乗って外へ出る，出かける」，vyjti「歩いて外へ出る」，vyletet'「飛びだす，飛びたつ，出立する」，vynesti「運びだす，持ちだす」
2) 集中的に，あるいは入念に動作を行う：vybelit'「入念に白くする，漂白する」，vydelat'「入念につくる，作り上げる，仕上げる」，vylizat'「舐めてきれいにする，なめ清める」，vymerit'「綿密に測る」，vymoknut'「すっかり濡れる」，vypet'「はっきりと歌う」，vypeč'「十分に焼く」
3) 得る，もらう，見つける：vyigrat'「遊んで手に入れる，（競技などで）勝つ，得点する」，vysidet'「長く座り続けてやっと書き上げる」，vysledit'「獣の足跡を見つける」，vysmotret'「よく観察して見つける」，vystradat',「苦悩によって手に入れる」
4) ある期間にわたって耐え抜く，耐える：vyžit「生きてある期間耐え抜く，重病・重症・不幸・境遇の変化などに堪えて生き残る」，vysidet'「ある時間座り通す，じっとしている」，vystojat'「立ち通す」，vystradat'「苦しみ抜く」
5) 成し遂げる（結果にまで至る）: vylečit'「全快させる」, vyzubrit'「棒暗記する」，vyrovnjat'「平らにする」，vystroit'「建設する」，vysušit'「すっかり乾かす」

「外部移動」の意味の「～でる」複合動詞の訳語に使用された VY-付加動詞, 例えば「すべりでる」Vyskal'zyvat',「ながれでる」Vytekat', Vylivat'sja,「うかびでる」Vyplyvat', Vystupat', Vyrisovyvat'sja,「とびでる」Vyletat', Vyskakivat', Vyprygivat', Vybegat'などは，いずれも 1 番の「遠いところないし外部への移動」を表すものであるから,「～でる」の「外部移動」の意味と合致している。

「外部移動」の意味の「～だす」複合動詞の訳語に使用された VY-付加動詞, 例えば「こぎだす」Vyplyvat',「しみだす」Vystupat',「掃きだす」Vymetat',「よびだす」Vyzyvat'はいずれも動作が外部に向けられていることを表しているため，1 番の意味に該当する。

「顕在化」の意味の「～だす」複合動詞の訳語に使用された VY-付加動詞は，その多くが 1 番と 3 番の意味に該当する。例えば,「いいだす」Vyskazyvat', Vydvigat',「うきだす」Vyrisovyvat'sja, Vypirat',「かつぎだす」Vydvigát',「ひきだす」Vytjagivat', Vynimat', Vyzyvat'

は 1 番の意味に該当し，「うみだす」Vyrabatyvat', Vydumyvat'，「ききだす」Vyvedyvat'，「くりだす」Vyvedyvat'，「すりだす」Vytačivat'は 3 番の意味に該当する。ただし，「織りだす」Vytkat'は，不完了体の基幹動詞 tkat'の完了体ヴァリアントであるから 5 番とみなすべきである。

「懸賞・抜擢」の意味の「みたてる」の訳語に使用された Vybirat'は，「選択することによって取る」ことであるから，3 番の獲得の意味として解釈できるが，一方で，「ある集団の中から特定のものを取る」行為だと考えれば，集団から特定の対象を遠ざける行為として 1 番に分類することもできる。

「構築・達成」の意味の「盛りたてる」の訳語 Vykladyvat'，「したてる」の訳語 Vypolnjat', Vydavat', Vystavljat', Vydumyvat'における VY-の意味のうち Vykladyvat', Vypolnjat', Vydavat', Vystavljat'は 1 番の意味に該当し, Vydumyvat'は獲得の意味があるため 3 番に該当すると考えられる。

「強調・旺盛」の意味の「～たてる」の訳語で用いられていた VY-付加動詞，例えば「あらいたてる」Vystiryvat', Vypytyvat'，「ぬりたてる」Vykrašivat'，「書きたてる」Vypisyvat'などは，いずれも 2 番の集中的ないし入念な動作の意味として解釈できる。

最後に，後項動詞「～たつ」の「直立（出現）」「感情の発露・高揚」「生起・昂進」，「～たてる」の「懸賞・抜擢」「強調・旺盛」と動詞接頭辞 RAZ-の意味・機能の対応について考察する。RG-80 における接頭辞 RAZ-の定義は以下のように書かれている：

RG-80 による RAZ-の定義（RG-80 vol. 1: 374-375）

1) 多方向に向かう動作，広がる動作，分離する動作 : razoslat'「方々へ送付する」，razlomat'「砕く，ちぎる，取り壊す」，razbrosat'「ばらまく，まき散らす」，razvejat'「吹き散らす，粉砕する」，razdrobit'「粉砕する」，razmazat'「一面に塗る，塗りたくる」，razorvat'「引き裂く，分断する」，raskleit'「（広告などを）はがす」，raskrošit'「細かく刻む，砕く」，raspilit'「切り分ける」
2) 基幹動詞の結果を無効にする動作，拒否に関する動作 : razbronirovat'「予約を取り消す，解約する」，razagitirovat'「宣伝で信じ込ませる」，razgrimirovat'「化粧を落とす，メーキャップを落とす」，razminirovat'「地雷・水雷を除去する」，razmorozit'「解凍する」，razognut'「伸ばす，まっすぐにする」，raskoldovat'「（魔法にかかった人から）魔法を解く」
3) 大きな強さを伴って行われる動作 : rastolstet'「でっぷりと太る」，razbranit'「こっぴどく罵る，こきおろす」，razvolnovat'「ひどく興奮させる」，raskormit'「肥育する，十分な餌を与えて肥らせる」，raskritikovat'「痛烈に批判する，こきおろす」
4) 詳細に理解する，詳細に説明する動作 : rassmotret'「識別する，見分ける」，razgljadet'「見分ける，見破る，識別する」，rastolkovat'「よく分かるように説明する」，razuznat'「情報・知識を得る，探りだす」，rassprosit'「詳しく尋ねる，質問を浴びせる」
5) 結果に至るまで行われる動作 : razbudit'「喚起する，呼び起こす」，razberedit'「傷などに触れて痛みを刺激する，疼かせる」，razveselit'「ひどく陽気にする」，razgromit'「破壊する，略奪する，撃滅する」，rassvirepet'「狂暴になる，険悪になる」

「直立（出現）」の意味の「～たつ」複合動詞の訳語に使用された RAZ-付加動詞を見ると，「おいたつ」Rasširjat'sja，「きりたつ」Razrezat'，「ささくれだつ」Rasščepljat'sja, Raskalyvat'sja はいずれも 1 番の「多方向へ向かう動作」の意味を持っている。

「感情の発露・高揚」の意味の「～たつ」複合動詞の訳語に使用された RAZ-付加動詞では，例えば「いろめきたつ」Razvolnovat'sja，「さわぎたつ」Rasšumet'sja, Razvolnovat'sja, Rastrevožit'sja，「たけりたつ」Razbuševat'sja は動作の程度が強いことを表しているため 3 番の意味として解釈できる。「たけりたつ」のもうひとつの訳語 Rassvirepet'に関して言えば，Rassvirepet'は不完了体の基幹動詞 svirepet'の完了体ヴァリアントであるため，この場合の RAZ-は 5 番の機能を果たしていると考えるべきである。なお，Razbuševat'sja, Rassvirepet'は「生起・昂進」の意味「たけりたつ」の訳語としても使用されている。

「懸賞・抜擢」の意味の「とりたてる」複合動詞の訳語に使用された Rasstavljat'は「必要な箇所に必要なものを配置する」の意味であるから，1 番の意味であると考えられる。

「強調・旺盛」の意味の「～たてる」複合動詞の訳語に使用された RAZ-付加動詞を見ると，1 番の意味に該当するものと（「ほえたてる」Razlajat'sja, Razrevet'sja, Razvyt'sja,「べんじたてる」Rasprostranjat'sja），3 番の意味に該当するもの（「ほめたてる」Raschvalivat',「かきたてる」Razmešivat',「あおりたてる」Razduvat', Razžigat'）が見られた。

以上，本論の結論として，姫野（1999）における複合動詞の意味タイプに基づいた各接頭辞付加動詞の分類，および RG-80 に書かれた動詞接頭辞の定義に基づいた複合動詞との意味的対応について考察を行った。

本研究では，後項動詞「～こむ」「～でる」「～だす」「～たつ」「～たてる」から形成される語彙的複合動詞の訳語に使用される汎用性の高い動詞接頭辞を特定することに成功した。しかしながら，各後項動詞の訳語に使用された接頭辞付加動詞は，あくまでも訳語ヴァリアントのひとつであるから，同一の複合動詞であっても，その意味によって接頭辞付加動詞を使用できる場合とそうではない場合があることをここでもう一度述べておく。

本稿では，上記 5 種類の後項動詞を対象とするに留まった。これら以外の後項動詞とロシア語の動詞接頭辞の対応関係についてもさらに研究を進めていく必要がある。

本研究での考察が，第二言語として日本語を学ぶロシア語ネイティヴにとって学習の一助となることを願ってやまない。

謝辞

指導教官である齋藤先生は，私が修士課程に在籍していた時から今日に至るまで，私の研究に関して様々な助言を与えて下り，学会誌への論文投稿や博士論文執筆の際にはいろいろな形で応援していただきました。まず，齋藤先生に心から感謝申し上げます。

また，同じく共生人間学専攻所属の服部文明先生からはロシア語学の分野に関して興味深いアドバイスを度々いただきました。この場を借りて，服部先生にお礼申し上げます。

博士論文の執筆においては，齋藤研の院生をはじめとする様々な方々に助けていただきました。中でも，私のよき友人である京都大学大学院文学研究科博士後期課程の小椋雄策さんには日本語の校正等に関してひとかたならぬお力添えをいただきました。日本で研究する機会を与えてくださった日本国政府，文部科学省，そして京都大学に対しても感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。

そして最後に，遠く離れたミンスクからいつも私を励ましてくれた家族へ感謝の言葉を捧げます。

平成 29 年 11 月

ABRAHIMOVICH Yuliya

参考文献

アブラギモヴィチ・ユーリャ（2016a）「日本語の複合動詞における後項動詞とロシア語の動詞接頭辞との意味的対応について —語彙的複合動詞を構成する「～こむ」の場合—」『比較文化研究』121 号．日本比較文化学会．pp. 99-110.

アブラギモヴィチ・ユーリャ （2016b）「日本語の複合動詞における後項動詞とロシア語の動詞接頭辞との意味的対応について —語彙的複合動詞を構成する「～でる」「～だす」の場合—」『人間・環境学』25 巻. 京都大学大学院人間・環境学研究科. pp. 95-104.

アブラギモヴィチ・ユーリャ（2017）「日本語の複合動詞における後項動詞とロシア語の動詞接頭辞との対応関係について —語彙的複合動詞を構成する「～たつ」「～たてる」の場合—」『人間・環境学』26 巻．京都大学大学院人間・環境学研究科．2017 年 12 月刊行予定.

石井正彦（1983a）「現代語複合動詞の語構造分析における一観点」『日本語学』2-8. 明治書院. pp. 79-90.

石井正彦（1983b）「現代語複合動詞の語構造分析 – ＜動作＞・＜変化＞の観点から」『国語学研究』23. 東北大学文学部国語学研究刊行会．pp. 32-43.

石井正彦（1988）「辞書に載る複合動詞・載らない複合動詞」『日本語学』7-5. 明治書院. pp. 33-43.

生越直樹（1983）「日本語複合動詞後項と朝鮮語副詞・副詞的な語句との関係」『日本語教育』52. 日本語教育学会．pp. 55-64.

影山太郎（1993）『文法と語形成』，ひつじ書房.

影山太郎（2002）「非対格構造の他動詞—意味と統語のインターフェイス」，伊藤たかね編『文法理論：レキシコンと統語』，東京大学出版会．pp.119-145.m

影山太郎編（2013）「語彙的複合動詞の新体系 —その理論的・応用的意味合い—」，影山太郎編『複合動詞研究の最先端—謎の解明に向けて』，ひつじ書房．pp. 3-46.

金子百合子（2003）「動詞接頭辞 3A-が表わす開始意味について」『Slavistika: 東京大学大学院人文社会系研究科スラヴ語スラヴ文学研究室年報』18 号．東京大学大学院人文社会系研究科スラヴ語スラヴ文学研究室．pp. 214-232.

亀井孝，河野六郎，千野栄一編著（1995）『言語学大辞典』第 6 巻，述語編，三省堂.

神崎享子（2013）「国立国語研究所オンラインデータベース「複合動詞レキシコン」」『複合動詞研究の最先端—謎の解明に向けて』，ひつじ書房．pp. 437-446.

國本哲男，山口巌，中条直樹他（1987）『ロシア原初年代記』，日本古代ロシア研究会.

国立国語研究所『少納言 KOTONOHA 現代日本語書き言葉均衡コーパス』（Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese），http://www.kotonoha.gr.jp/shonagon/（2017 年 11 月 5 日閲覧）.

国立国語研究所（2015）『複合動詞レキシコン』，http://vvlexicon.ninjal.ac.jp（2017 年 11 月 5 日閲覧）．
国立国語研究所，Lago 言語研究所（2015）『NINJAL-LWP for BCCWJ』，http://nlb.ninjal.ac.jp/（2017 年 11 月 5 日閲覧）．
斎藤倫明（1992）『現代日本語の語構成論的研究—語における形と意味』，ひつじ書房.
城田俊（1998）『日本語形態論』，ひつじ書房.
寺村秀夫（1978）『日本語の文法（上）』日本語教育指導参考書 4，国立国語研究所.
寺村秀夫（1984）『日本語のシンタクスと意味 II』，くろしお出版.
長嶋善郎（1976）「複合動詞の構造」『日本語講座 4 日本語の語彙と表現』，大修館書店. pp. 63-104.
長嶋善郎（1997）「複合動詞の構造」斎藤倫明・石井正彦編『語形成』，ひつじ書房．pp. 213-231.
日本国語大辞典第二版編集委員会，小学館国語辞典編集部編（2007）『日本国語大辞典』ネットアドバンス（JapanKnowledge Lib: ジャパンナレッジ Lib）http://japanknowledge.com/personal/index.html（2017 年 11 月 5 日閲覧）．
姫野昌子（1999）『複合動詞の構造と意味用法』，ひつじ書房.
姫野昌子（2001）「複合動詞の性質」『日本語学』20-9．明治書院．pp. 6-15.
藤沼貴編（2000）『研究社和露辞典』Japonsko-russkij slovar' : izd-va "Kenkjusja" / pod redakciej T. Fujinuma．研究社.
松田文子（2004）『日本語複合動詞の習得研究 —認知意味論による意味分析を通して—』，ひつじ書房.
森田良行（1978）「日本語の複合動詞について」『講座日本語 14』，早稲田大学語学教育研究所．pp. 69-86.
山本清隆（1984）「複合動詞の格支配」『都大論究』21．東京都立大学．pp. 32-49.
李 ギョン洙（1996）「日・韓両言語における複合動詞『～だす』と『-nay-ta』の対照研究」『日本語教育』89．日本語教育学会．pp. 76-87.
由本陽子（2005）『複合動詞・派生動詞の意味と統語』ひつじ研究叢書（言語編）第 40 巻，ひつじ書房.
吉沢典男（1952）「複合動詞について」『日本文学論研』10．国学院大学国語国文学会．pp. 32-42.

Achmanova O.S. (1969) Slovar' lingvističeskich terminov. Izd. 2-oe, stereotipnoe. M.: Sov. Ėnciklopedija.
Alpatov V.M., Arkad'ev P.M., Podlesskaja V.I. (2008) Teoretičeskaja grammatika japonskogo jazyka: [V 2-ch kn.]. M.: Izdatel'stvo "Natalis".
Avilova N.S. (1976) Vid glagola i semantika glagol'nogo slova. M.: Nauka.

Bol'šoj japonsko-russkij slovar' (2003) V 2 t. / Pod redakciej N.I.Konrada. Izd. 3-e. Akademija nauk SSSR, Institut vostokovedenija. M.: Izdatel'stvo «Sovetskaja ėnciklopedija».

Čerepanov M.V. (1975) Glagol'noe slovoobrazovanie v sovremennom russkom jazyke. M-vo prosveščenija RSFSR. Sarat.gos.ped.in-t. - Saratov.

Ėnciklopedičeskij slovar'-spravočnik lingvističeskich terminov i ponjatij. Russkij jazyk (2008) V 2 t. / Pod obšč. red. A.N. Tichonova, R.I. Chašimova. T. 1. M.: Flinta.

Ėnciklopedičeskij slovar'-spravočnik lingvističeskich terminov i ponjatij. Russkij jazyk (2008) V 2 t. / Pod obšč. red. A.N. Tichonova, R.I. Chašimova. T. 2. M.: Flinta.

Golovnin I.V. (1986) Grammatika sovremennogo japonskogo jazyka. Moskva.: Izd-vo MGU.

Ildikó Pálosi (2014) “On the basic problems of the category of Aktionsart in the Russian language”, Slověne. International Journal of Slavic Studies 3, no. 2

Isačenko A.V. (1960) Grammatičeskij stroj russkogo jazyka v sopostavlenii so slovackim. Morfologija. Pt. 2. Bratislava.

Ivanov V.V. (1983) Istoričeskaja grammatika russkogo jazyka. M.: Prosveščenie.

Kuznecova A.I., Efremova T.F. (1986) Slovar' morfem russkogo jazyka: Ok. 52000 slov. M.: Rus. jaz.

Maslov Ju.S. (2004) Izbrannye trudy: Aspektologija. Obščee jazykoznanie. M.: Jazyki slavjanskoj kul'tury.

Maslov Ju.S. (1965) Sistema osnovnych ponjatij i terminov slavjanskoj aspektologii // Voprosy obščego jazykoznanija. L.

Nečaeva L.T. (1994) Učebnik japonskogo jazyka dlja prodolžajuščich. M.: Partner Ko Ltd.

Nečaeva L.T. (1999) Japonskij jazyk dlja načinajuščich. OOO "Bukvica".

Paškovskij A.A. (1980) Slovo v japonskom jazyke. Moskva: Izd-vo Nauka.

Polnoe sobranie russkich letopisej (1926) Tom 1. Lavrent'evskaja letopis'. Vyp. 1: Povest' vremennych let. Izd. 2-oe. Leningrad.

Russkaja grammatika (1980) T. 1: Fonetika. Fonologija. Udarenie. Intonacija. Slovoobrazovanie. Morfologija / Pod redakciej N.Ju. Švedovoj. M.: Nauka.

Šeljakin M.A. (1987) Sposoby dejstvija v pole limitativnosti // Bondarko A.V. (red.) Teorija funkcional'noj grammatiki. Vvedenie. Aspektual'nost'. Vremennaja lokalizacija. Taksis. L.

Sevost'janova A.A. (2006) Japonskij glagol: bol'šoj slovar'-spravočnik. Moskva: Izd-vo "Živoj jazyk".

Shibatani Matsuyoshi (1990). The Languages of Japan. Cambridge: Cambridge University Press.

Slovar' russkogo jazyka (1999) V 4-ch t. / RAN, In-t lingvistič. issledovanij; Pod red. A. P. Evgen'evoj. 4-e izd., ster. M.: Rus. jaz.; Poligrafresursy. http://feb-web.ru/feb/mas/mas-abc/default.asp（2017 年 11 月 5 日閲覧）.

Sreznevskij I.I. (1893) Materialy dlja slovarja drevne-russkogo jazyka po pis'mennym pamjatnikam. T. 1. Izdanie otdelenija russkogo jazyka i slovesnosti imperatorskoj akademii nauk. S-Pb.

Tichonov A.N. (2014) Novyj slovoobrazovatel'nyj slovar' russkogo jazyka dlja vsech, kto chočet byt' gramotnym. M: Izd-vo AST.

Tolkovyj slovar' russkogo jazyka (1935-1940) V 4 t. M.: Sov. ėncikl.: OGIZ. http://feb-web.ru/feb/ushakov/ush-abc/default.asp（2017 年 11 月 5 日閲覧）.

Zaliznjak Anna A., Šmelev A.D. (2000) Vvedenie v russkuju aspektologiju. M.: Jazyki russkoj kul'tury.

略語一覧

ĖSSLTP: Ėnciklopedičeskij slovar'-spravočnik lingvističeskich terminov i ponjatij（『言語学用語・概念百科辞典』）

impf.: imperfective（不完了体）

perf.: perfective（完了体）

PSRL: Polnoe sobranie russkich letopisej（『ロシア年代記全集』）

RG-80: Russkaja grammatika（『ロシア文法』）

SRJ: Slovar' russkogo jazyka（『ロシア語辞典』）

stb.: stolbec（コラム，段）

TSRJ: Tolkovyj slovar' russkogo jazyka（『ロシア語詳解辞典』）

翻字表

А	а	/	A	a
Б	б	/	B	b
В	в	/	V	v
Г	г	/	G	g
Д	д	/	D	d
Е	е	/	E	e
Ё	ё	/	Ë	ë
Ж	ж	/	Ž	ž
З	з	/	Z	z
И	и	/	I	i
Й	й	/	J	j
К	к	/	K	k
Л	л	/	L	l
М	м	/	M	m
Н	н	/	N	n
О	о	/	O	o
П	п	/	P	p
Р	р	/	R	r
С	с	/	S	s
Т	т	/	T	t
У	у	/	U	u
Ф	ф	/	F	f
Х	х	/	CH	ch
Ц	ц	/	C	c
Ч	ч	/	Č	č
Ш	ш	/	Š	š
Щ	щ	/	ŠČ	šč
Ъ	ъ	/	"	
Ы	ы	/	Y	y
Ь	ь	/	'	
Э	э	/	Ė	ė
Ю	ю	/	JU	ju
Я	я	/	JA	ja

※本稿におけるロシア語の翻字は国際標準規格 ISO/R 9:1968 に準拠したものである。